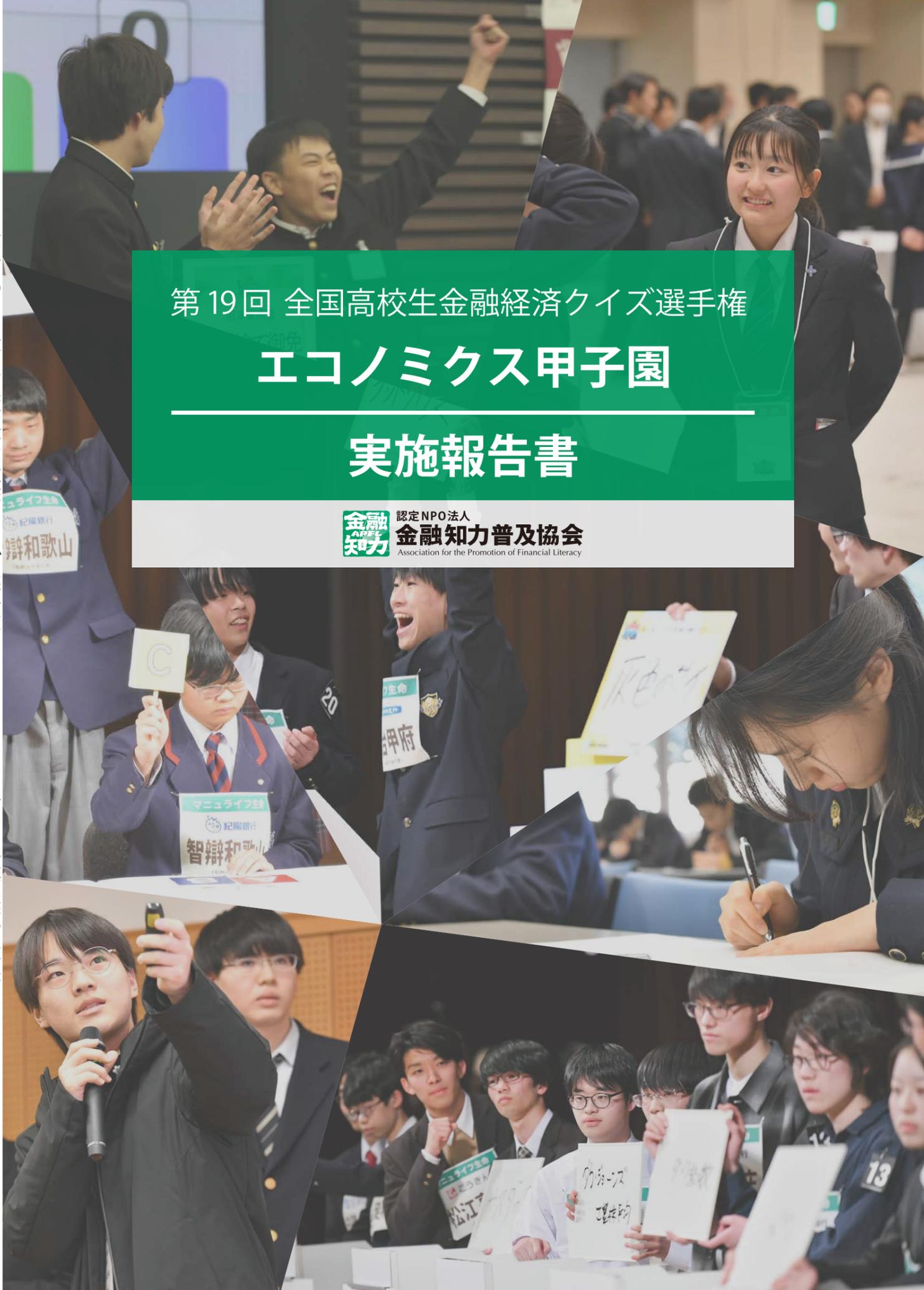




第十九回 全国高校生金融経済クイズ選手権 エコノミクス甲子園 大会実施報告書



第19回 全国高校生金融経済クイズ選手権 エコノミクス甲子園

実施報告書

認定NPO法人
金融知力普及協会
Association for the Promotion of Financial Literacy

後援
文部科学省 環境省 金融庁

消費者庁 J-FLEC IFC 国際金融公社
世界銀行グループ
市場を拓き、機会を創る

協賛

Manulife
マニユライフ生命

Wiennomori Corporation **VISA**

東京証券株式会社 Russell Investments 近畿日本ツーリスト **TAC**
ラッセル・インベストメント株式会社

ファイブスター投資顧問 The Good Bankers 休.com



ご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 2

概要・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 3

エコノミクス甲子園はこんな大会です！ P. 4

各地方大会概要・全国大会参加者感想 P. 6

全国大会・・・・・・・・ P. 96

参加者アンケート P. 103

ニューヨーク・トロント研修旅行 P. 104

事前学習教材 P. 108

メディア掲載実績 P. 110

協賛企業紹介 P. 111

Special Thanks P. 112

スタッフ挨拶 P. 114

エコノミクス甲子園の歩み P. 116

歴代全体写真 P. 121





第19回エコノミクス甲子園を終えて

金融知力普及協会 理事長
エコノミクス甲子園 実行委員長
金子 昌資



2006年度より実施しております「全国高校生金融経済クイズ選手権エコノミクス甲子園」もこの度第19回大会を無事終えることができました。高校生に楽しみながら金融知力を身につける機会を提供するという使命を持ち始めたこの大会も19歳を迎え、現在高校生の皆さんが生まれる前から続く大会となりました。長く続けることができているのも、延べ3万人を超える参加者の皆様、各都道府県で行われる地方大会を主催いただいている金融機関の皆様、マニユライフ生命保険様、ウィーンの森様ならびにビザ・ワールドワイド・ジャパン様をはじめご支援ご協賛・ご協力をいただいております企業団体の皆様、後援をいただいた文部科学省、環境省、金融庁、消費者庁、金融経済教育推進機構（J-FLEC）、国際金融公社の皆様、そして様々な形でこの大会に関わってくださった全ての皆様のおかげでございます。本当にありがとうございました。

近年は、成人年齢の変更やスマートフォンの普及などで、簡単に知らない人との連絡や支払い・送金が可能になり、若者がお金のトラブルや犯罪に巻き込まれやすくなっています。こうしたことから身を守るためにも知識が必要であると考えております。金融教育が必要と叫ばれて久しいですが、義務教育ではまだまだ実施されず、高校の家庭科にて扱われるようになりましたが、これもまだまだ不十分であると感じております。「金融知力」は、決して投資で儲ける「財テク」のようなものではなく、豊かな人生のために、お金という道具を使いこなせるようになるための万人に必要な知識です。エコノミクス甲子園の参加を通じて多くの高校生に、これからよりよい人生を築くための「金融知力」を身につけて欲しいと感じております。

また、第10回大会より、私と森正文氏で創設した「金子・森育英奨学基金」は、全国大会出場者のうち、経済的にゆとりある大学進学が困難な若者を対象に、返済不要の奨学金を給付しております。第19回大会までで、奨学生と支援生を合わせ40名の若者の大学進学を支援してまいりました。なお、今大会より奨学生への給付額を260万円としております。一昨年、森正文氏が逝去されましたが、奨学金制度は継続し、引き続き有為の若者を支援してまいります。

コロナ禍は落ち着いたものの、円安や物価高が続く先行きのわからない社会では、将来のためにも金融経済の知識は不可欠です。第20回大会も全国から多くの高校生にご参加いただき、知識を身につけていただけるよう邁進いたします。引き続き皆様のご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。



- 名称 第19回全国高校生金融経済クイズ選手権 エコノミクス甲子園
- 趣旨 社会にはばたく前の高校生が、世の中の金融経済の仕組みを理解しライフデザインやお金のかかわり方を考える力=「金融知力」を楽しく身につける為の教育イベントとして開催する。
- 期日
 - ・募集開始 2024年8月15日
 - ・地方大会 2024年11月11日～12月15日 全44大会（インターネット大会含む）
 - ・全国大会 2025年2月21日～23日
- 主催
 - ・地方大会主催 各地の金融機関有志
 - ・全国大会主催 認定NPO法人 金融知力普及協会

プラチナスponsor



ゴールドスponsor



ブロンズスponsor



後援



地方大会主催



協力





1

出場を決意！

- ・公式 Web サイトから応募
- ・参加費は無料！



2

金融知力普及協会から送られてくる事前学習教材※オンライン教材含むで勉強

- ・18歳までに学ぶ 契約の知恵 寄贈：金融経済教育推進機構 (J-FLEC)
- ・これであなともひとり立ち 寄贈：金融経済教育推進機構 (J-FLEC)
- ・大学生のための人生とお金の知恵 寄贈：金融経済教育推進機構 (J-FLEC)
- ・マナブとメグミのお金のキホン BOOK 寄贈：(旧) 全国銀行協会
- ・明るい未来へ TRY！～リスクと備え～ 寄贈：日本損害保険協会
- ・株式会社制度と証券市場のしくみ 寄贈：(旧) 日本証券業協会
- ・資産形成と金融商品 寄贈：(旧) 日本証券業協会
- ・ほけんのキホン 寄贈：生命保険文化センター
- ・もっと知りたい税のこと (令和6年度版) 寄贈：財務省
- ・これからの日本のために財政を考える 寄贈：財務省
- ・今日から始められるかんたん不動産投資 初めてのJリート 寄贈：不動産証券化協会
- ・新しいNISAではじめるJリート 寄贈：不動産証券化協会
- ・基礎から学べる金融ガイド 寄贈：金融庁
- ・わかりやすい投資信託ガイド 寄贈：投資信託協会
- ・わかりやすいリートガイド 寄贈：投資信託協会
- ・前払式支払手段 知っておきたい法律のはなし 寄贈：日本資金決済業協会
- ・進学にかかるお金と奨学金の話 寄贈：日本FP協会
- ・10代から学ぶパーソナルファイナンス 寄贈：日本FP協会
- ・少額短期保険ガイドブック 2024 寄贈：日本少額短期保険協会
- ・社会への扉 寄贈：消費者庁
- ・持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則 寄贈：環境省
- ・飛び立て！未来FP技能士 寄贈：金融財政事情研究会
- ・暗号通貨やブロックチェーンの基礎を学べる漫画 寄贈：日本クリプトコイン協会
- ・はじめの一步 テクニカル分析ハンドブック (基礎編) 寄贈：日本テクニカルアナリスト協会
- ・はじめの一步 テクニカル分析ハンドブック 4 (用語集) 寄贈：日本テクニカルアナリスト協会
- ・キャッシュレスまるわかりテキスト 寄贈：ビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社 (VISA)
- ・今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎 作成：金融知力普及協会



3

地方大会に参加

- ・地方大会は各地の金融機関が地域貢献として開催
- ・生活していく上で是非知っておいてほしい経済の基礎知識や地域経済などについて出題
- ・筆記問題 (50 問) と早押しクイズ、そして決勝ラウンドで競う
- ・オンライン大会では 4 択クイズ (50 問) で正確さと早さを競う
- ・地方大会で優勝したチームは全国大会に出場



日本全国の高校生達に
金融経済を学ぶ機会を提供！
将来の日本をリードする人材の育成！



5

優勝チームはニューヨーク・トロント研修旅行！

- ・現地で活躍する様々な方へのインタビューや経済に関する様々な場所の見学を行う



4

全国大会に参加

- ・各地方大会を勝ち抜いた高校生たちは、現実に即した課題に対しチームで解決策を議論するビジネスケースや、より深い知識や理解が求められる形式の様々なクイズに挑む





北海道大会 12月1日(日)開催



優勝チーム 北海道旭川東高等学校
(3年ぶり6回目)
「プラダ」
扇谷 陽大・大川 蒼太



主催 北海道銀行

参加校一覧

立命館慶祥高等学校、札幌日本大学高等学校、旭川龍谷高等学校、市立札幌開成中等教育学校、市立札幌旭丘高等学校、北海道遠軽高等学校、北海道羽幌高等学校、北海道札幌東商業高等学校、北海道札幌南高等学校、北海道旭川東高等学校、北海道千歳高等学校、クラーク記念国際高等学校

申込みチーム数 25チーム(12校)

運営スタッフ感想

北海道大会は第3回から開催し、本年度で17回目となりました。昨年度に引き続き、スタッフや参加者、観覧者の協力により集合形式にて開催することができました。今年は、全道各地から12校25チーム50名の高校生の皆さんにご参加いただき、大いに大会を盛り上げていただきました。決勝ラウンドでは、昨年度も決勝ラウンドに出場し、惜しくも優勝とならなかったチームが複数組出場しており、リベンジを果たすべく、熱い戦いが繰り広げられました。心理戦が上手に使われている決勝ラウンド。観覧者も最後の最後まで、目が離せない接戦となりました！本大会は、8信用金庫および3信用組合に共催いただき、当日の運営にもご協力いただきました。今後も北海道全域における金融リテラシー向上に貢献する取り組みとして、高校生に金融経済を楽しく学んでもらえる場を提供できるよう、本大会の開催に取り組んでまいります。

北海道大会代表 北海道旭川東高等学校 2年 扇谷 陽大

私は「クイズは運ゲーだ」と考える。「運ゲー」とは「運の要素が結果を大きく左右するゲーム」を意味する俗語である。実際、どれだけこの大会に向けて勉強してきたとしても覚えてきたことや勉強した分野がたまたま出題されずに残念な結果になってしまうことがありうるだろうし、その逆の現象もしかりである。準備が生きるかどうかは運次第なのである。それでは、努力は意味をなさないのだろうか。確かに努力が必ず結果に結びつくとは限らないが、成功の確率を大いに高めることができる。たくさん勉強をすれば、知っている事項が出題される確率が高まり、結果的に成功の可能性を高めることができるのだ。例えるなら、これからくじを引く抽選箱に当たりくじを自ら追加する行為が努力なのだ。

なぜこのような話をしているのかというと、私はこれが金融経済にも深く関わると考えるからだ。市場や政治の動きはある程度の定石を辿るが、完璧に推定することはできない。そしてクイズにおける「勉強」にあたるのが金融経済における「金融知力」ではないだろうか。そんな重要な「当たりくじ」である金融知力を楽しく、なおかつ全国から集まったユニークな精鋭たちと学ぶことができたこの度の全国大会は非常に有意義なものであった。今後の学びや人生に活かしていきたい。最後に、今回の大会に関わった高校生の皆さん、運営の大学生及び金融機関の皆さん、オリセンの皆さんを初めとするすべての方に感謝申し上げます。ありがとうございました。



北海道大会代表 北海道旭川東高等学校 2年 大川 蒼太

高1の秋、部屋に貼ってあったポスターを見てたまたま興味が湧いた——これが私とエコ甲との出会いだ。学年が一つ上がり、大会に出るペアも変わった高2の冬、私たちは全国大会への切符を手に入れることができた。

1日目。東京モノレールから見える景色に思いを馳せながら会場に到着。みんな大好きエコノミカは大敗を喫したものの、お金の達人一首大会では優勝(?)することができた。運を使い果たしたかもしれないという懸念を抱きながらも楽しむことができた。

筆記試験から始まった2日目。地方大会とのレベルの差は大きく、苦戦したものの実力を出し切ることができたと思う。その後のビジネスケースは即席チームでプレゼンをゼロから作るという初めての経験だったが、仲間の力強いアシストもあり無事に終わることができた。難易度は高かったものの、学んだことが多い時間だった。前夜祭では参加者の皆さんと交流を深め、翌日の本戦に向けての英気を養うことができた。

ついに3日目。曲がったゼッケンを何度も直しながら決戦の舞台へ足を踏み入れた。第1、第2ラウンド共に相方と力を合わせ、予選を5位で通過することができた。第3ラウンドの某タイ○ショック風のクイズも難なく通過し、運命の準決勝へ。トリッキーなルールでなかなかポイントを重ねられず迎えた最終問題、劇的な大逆転正解により決勝へ駒を進めることができた。控室に戻った後、コップを持つ手の震えが止まらなかったことを鮮明に覚えている。そして決勝。英語で出題された問題に正解するなど健闘し、準優勝を掴み取ることができた。

エコノミクス甲子園は、私を大きく変えたと言っても過言ではないだろう。全国の舞台でクイズをするという経験、新たな仲間との出会い、そして金融知力。このようなものを得られるのがエコ甲の魅力である。最後に、地方大会を含め第19回エコノミクス甲子園に携わったスタッフの皆様、応援してくれた家族、友人の皆さん、そして何よりも準優勝という高みまで共に上り詰めた相方にこの場をお借りして感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。





青森大会

12月15日(日)開催



青森みちのく銀行

優勝チーム 青森県立青森高等学校
(5年連続9回目)
[SR]
木村 琉人・佐々木 快雄



主催 青森みちのく銀行

参加校一覧

青森県立青森高等学校、青森県立青森商業高等学校、
青森県立弘前実業高等学校、青森県立八戸北高等学校、
青森県立三本木高等学校、

申込みチーム数 16チーム(5校)

青森大会代表 青森県立青森高等学校 2年 木村 琉人

もう一度、あの舞台に立ちたい。私がエコノミクス甲子園第19回大会への出場を決めたのは、そんな思いからだ。私は昨年、第18回大会で青森大会を制し、全国大会に出場した。そして第19回大会のエントリー時期になり、出来ることなら今年も出たい、と思っていた矢先、相方の佐々木君も出場したいと思っていたことを聞き、チーム結成へと至った。佐々木君と初めて出会ったのが、第18回大会直前に友達とエコノミカを嗜んでいた時というのも、何かの縁だったのかもしれない。

混戦の地方大会を乗り越えて迎えた全国大会では、エコノミカ大会、お金の達人一首大会、ビジネスケースでいずれも入賞することができ(ビジネスケースはチームメンバーの皆さんのおかげだが)、どのラウンドでも好成績を残すことができなかった去年より、何倍も成長できた。本戦では力及ばず、準決勝進出はなしえなかったが、一つ嬉しいことがあった。それは、2Rで敵対的買収に関する問題を正解できたことである。私は、大会前に、敵対的買収をほぼ完璧に対策して本戦に臨んでいた。そのため、問題に正解できた時には飛び上がるほど嬉しかった。「青森、正解です」という言葉とそのあとに続いた正解音が、私の勉強を、ひいては人生を肯定してくれたような気持ちになった。戦いには敗れてしまったが、私はこの一つの正解が、一生忘れることのできない思い出になることをその瞬間に確信した。

また、3Rで敗退後、準決勝と決勝を観客席から観戦し



たが、クイズ出題のたびに、他の敗退したチームの皆が「どうすれば勝ちに近づくか」「どこで攻めに行くか」といったことを観客席のあちこちで話していて、私はステージと観客席が一つになる心地を感じた。今まで、ステージと観客席は隔絶されたものと考えていたが、2月23日のその会場では、勝利したチームも、敗退したチームも、皆一丸となって出題される問題、そして戦況について考え、向き合っていた。私は、ここにいる皆は経済、クイズが大好きで、だからこそこの場所にいるのだろうなと感じ、そんな人達と出会えたことを本当に嬉しく思った。

本戦でのこれらの経験から、私は「好き」を極めるということが、どれだけ偉大なことであるかを知った。このことを学ぶことができただけで、第19回大会参加の為にかかる機会費用を遥かに凌ぐ便益を得ることができたと感じている。この思いを胸に、私はこの先の進路へと邁進していきたいと思う。

最後に、金融知力普及協会の皆様、エコノミクス甲子園スタッフの方々をはじめ、本大会に関わったすべての方々に御礼申し上げます。ありがとうございました。

青森大会代表 青森県立青森高等学校 2年 佐々木 快雄

エコ甲は、ニュースあるいは新聞を通して覗き込むものだった金融経済の世界を「体験」する、貴重な機会だったと感じる。テスト、エコ甲、模試というハードな日程の中での短期的トレードオフ。敗者復活ラウンドで重要性を味わったリスクヘッジ。などなど。おそらくエコ甲で体験しなければ単なる用語の1つとして記憶していた(または触れることすら無かった)であろうそれらが、生きた経験として自分の中に蓄積されている。私の体験のきっかけとなった木村君とは、部活も、1年次、2年次ともにクラスも違う。なぜ誘ってくれたのかは定かでないが、まあ然るべき運命だったということ。相方のお陰で優勝することができた地方大会を経て、迎えた全国大会。京都代表と仲良くなったエコノミカと、お金の達人一首では相方と揃って全勝し、幸先良いスタートを切った。金融経済(ラジオ)体操した後、筆記ラウンドでは全国の壁を感じさせられたが、プレゼンテーションでは2位に入賞した。INTECHの

皆ありがとう。3日目、予選敗退となり、敗者復活ラウンドも終え、準決勝、決勝ラウンドを見ていたが、答えが思い浮かぶ問題があって勉強が報われた気がした。3日間を通して、結果を出すことはできなかったが、勉強の成果を実感できて嬉しかった。また、他地域の代表とも交流できた。台湾代表のTim、Jamesからもらったお菓子は美味しかったうえに、色々な話ができただ。同室で寝食を共にした徳島代表の若林君、山崎君との大富豪は面白かった。これらも忘れられない思い出である。

大会運営に関わる全ての方々、そして私を誘い、共に戦ってくれた相方の木村君に感謝の意を述べたい。特別な体験をありがとうございました。





宮城大会 12月14日(土)開催

77 七十七銀行

優勝チーム 宮城県仙台第二高等学校
(6年ぶり6回目)
「チーム桜」
伊藤 茉莉・上田 佳歩

主催 七十七銀行

参加校一覧

聖ウルスラ学院英智高等学校、宮城県宮城第一高等学校、宮城県仙台第二高等学校、宮城県仙台第三高等学校、宮城県仙台二華高等学校、仙台白百合学園高等学校

申込みチーム数 12チーム(6校)

運営スタッフ感想

今年もとても白熱した高校生の戦いが繰り広げられました。我々もその戦いを間近で見ることができ、大変感動しました。また、チームで協力し、答えを導き出す姿も印象的でした。

ご参加いただいた高校生の皆さん、ありがとうございました！ エコノミクス甲子園に出場することで、皆さんにより金融知力がつくよう、今後も応援していきたいと思えます。



宮城大会代表 宮城県仙台第二高等学校 2年
伊藤 茉莉

1日目

会場に着いたときには、建物の大きさと場違いな雰囲気、それに圧倒された。その後のエコノミカでは、一勝しか勝つことが出来なかったが、知らない他県の人と試合をしながら交流が出来た良い時間だった。今まで遊びでしか行ってこなかったエコノミカが、こんなに奥の深いゲームだったとは思わなかった。

2日目

朝食を食べて、筆記試験の会場に向かうと独特の緊張感があり不安だった。筆記の手応えは良くなかったが、最後の大問を二次関数で一部正解できて嬉しかった。筆記試験が終わると、すぐにビジネスラウンドに移った。初対面の人とたくさん議論を重ねて、提出締め切りのギリギリまでスライド作りを粘った。

審査員の方々の的確なご意見に関心しながら、社会的な視点を学べた。前夜祭では、色々な県の出場者と話す機会があり、全国大会に来られて良かったと心から思った。

地方の特産品が当たらなかったのは、とても悲しかった。できれば干し芋が欲しかった。

3日目

大した活躍はできなかったのですが、自分自身について書けることはあまりない。ペアの人、一緒に来てくれて本当にありがとう。迷惑かけてばかりでごめんなさい。準決勝や決勝を見ていて、出場者の勝負強さに尊敬の



念を抱いた。リスクがあるのにも関わらず、それに怯むことなく、勝負をする姿勢を自分も見習いたい。全体を通して、出場者の圧倒的な知識量に驚かされることが多かった。来年、全国大会に出る人はマンキュースと経済学の用語、時事問題をよくやるといいかもしれない。最後にエコノミクス甲子園を運営してください、皆様本当にありがとうございました。

宮城大会代表 宮城県仙台第二高等学校 2年
上田 佳歩

午前で学校を早退し新幹線で向かった東京。電車を乗り換え、オリンピックセンターの最寄り駅を降りるとスーツケースを引く高校生があちこちに見え、改めてすごい場所に来てしまった、と圧倒された。期末テストと時期が被りあまり勉強をできておらず、すごく不安だった。しかし、ここまで来たら楽しむしかない！と思い、三日間の活動に取り組んだ。1日目のエコノミカ大会やカルタ大会では、いろいろな場所から来た精鋭たちとかわることができた。チームメンバーと行きの新幹線で数回プレイしてただけの私は2回しか勝利することができなかったが、優秀な人たちとの関わりを通して学べることが多かった。

2日目は筆記試験から始まった。地方大会に比べると、格段にレベルが上がっていて歯が立たない問題もたくさんあったが最後までなんとか粘った。

そして筆記試験の余韻に浸る間もないまま、ビジネスケースラウンドが始まった。同じグループの自分以外の方が、全員去年も出場したとのことで、自分が発言していいのかなと不安もあったが、メンバー皆が意見を言いやすい空気を作ってくれたため、さかんに話し合いを行うことができた。発表会では自分では到底思いつかないようなアイデアが飛び交い、周りのレベルの高さに感激した。3日目のクイズでは、すぐに敗退してしまっていたが、ルールがとても斬新で観客としても出場者としても楽しむことができた。

三日間を通し、いろいろな人と関われてすごく楽しかった。来年は受験で出場できないが、ぜひ後輩たちに出場を勧めたいと思う素晴らしい大会だった。





秋田大会 12月14日(土)開催

秋田銀行

優勝チーム 秋田県立秋田南高等学校
(初出場)
「チャー・飯」
小松 雅宗・山本 八雲



主催 秋田銀行

参加校一覧

聖霊女子短期大学付属高等学校、秋田県立秋田高等学校、秋田県立秋田南高等学校、秋田市立秋田商業高等学校

申込みチーム数 14チーム(4校)

運営スタッフ感想

秋田大会は、4校14チームに参加いただきました。参加された皆さんは、これまで学んできた知識を活かし、チームで協力しながら1問1問真剣に取り組んでいました。早押しクイズでは、正解、不正解に関わらず、積極的に挑戦する姿が印象的でした。決勝ラウンドでは、難しい問題が多いなか、2年連続で決勝ラウンドに進出した秋田南高校「チャー・飯」チームが着実にポイントを積み上げ、見事優勝を飾りました。秋田大会を勝ち抜いた「チャー・飯」チームには、全国大会での優勝を目指して頑張っていたと思います。最後に、参加いただいた高校生の皆さま、大会にご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました！

秋田大会代表 秋田県立秋田南高等学校 2年 小松 雅宗

初日はエコノミカ大会から始まりました。このカードゲームでは、イベントカードを使って日本株やドルなどのアセットカードの価値を上げ下げして戦います。イベントカードを使うと基本的に相手と自分が同じ効果を受けるのが面白かったです。同じ現象が起きてても、持っている資産によってそれが有利に働く人と不利に働く人がいるのが経済を表しているなと思いました。一方の価値が下がれば一方の価値が上がる関係のものに投資することでリスク分散できることを実感することが出来ました。また、私は初対面の人と話すのが苦手なのでカードゲームを介すことで会話が少し楽になったのが助かりました。その後に行われたお金の達人一歩大会も白熱して楽しかったです。

二日目は筆記試験とビジネスケースがありました。ビジネスケースでは、別の地方大会代表の人四人と一チームになって作業、発表しました。これまた人見知りの私にとっては憂鬱でしたが、少しずつ他のメンバーと打ち解けることが出来ました。課題は「インフラ設備の効果的な保全方法とその財源確保方法の提案」でした。考えたこともないテーマで、一日でまとめられるか不安でしたが、なんとか時間内に形にすることが出来ました。発表ではいくつかヘマをしてしまって、チームの足を引っ張ってしまい申し訳なかったです。また、もう少し早い段階で的を絞って議論を進められたら良かったなと思います。反省点は色々ありましたが、一つの問題に対して様々な文献に当たったり、議論して解決策を考えたりする貴重な経験が得られました。特



に財源の確保のことまで具体的に考えることは学校での探求活動では求められないので、自分に新しい視点が増えたと思います。

三日目はついにクイズ本番でした。待ち時間に全国の優秀な人たちと会話したり、会話を立ち聞いたりすることができて刺激的でした。私たちのチームは進出できませんでしたが、準決勝、決勝は斬新なルールで、かなり熱い展開がありました。面白いクイズを作る運営の方々やその面白さを最大限引き出す選手たちに感服しました。

私は元々経済学にあまり興味が無かったのですが、ひょんな事から出場することになったエコノミクス甲子園に向けて経済について勉強し、少しずつ分かっていく中で、その学問としての魅力や生きていく上での金融知力の大切さに気づかされました。今後も学び続けていきたいと思っています。

最後に、大会前、大会中だけでなく、大会後まで手厚いサポートをしてくださった大会運営の皆様へ感謝を述べたいと思います。ありがとうございました。

秋田大会代表 秋田県立秋田南高等学校 2年 山本 八雲

昨年の県大会の雪辱を果たしエコノミクス甲子園全国大会に我が校秋田南は初出場した。非公認クイ研の看板を背負い全国大会も制覇する気合いだけはあった。飛行機に乗り東京に向かう金曜日。到着してすぐエコノミカ大会という訳だが如何せん全く対策もしておらずボロボロで終わるかと思いきや時の運が味方し全体4位。預金ちゃんキーホルダー可愛い！続いてのVISA提供百人一首はかなり企業の案件を感じた。

翌朝土曜日は適度に改変されたラジオ体操をこなしたあと筆記ラウンドへ。知らない言葉だらけの前半は流石に心折れたが計算は流石に出来てラッキーだった。だがこの場合経済学用語の『限界』を知らずに突破した相方が凄い。

続くビジネスラウンドは終始順調にプレゼン内容を形にすることが出来たがGoogleスライドの限界とプレゼン力の足りなさが見え考えていたこと全てを伝えることが出来なかったと思う。時間内に伝えることの難しさを痛感した。

迎えた日曜日。第1ラウンドの早押しはあるグループは全てわかるのにあるグループはどれも分からないとある種運が絡む戦いとなり、我々は運ゲーに敗北した。第2ラウンドのボードクイズでも続けて運ゲーに負け続けなんとこの2R取支はマイナス8ポイント。(血涙)そして迎えた第3ラウンド。相方も自分もやれるだけの事はやり双方かなりいい結果だったが全国の壁は厚くここを突破できなかった。

準決勝は見るだけでもアツかった。誰が景品表示法の文字数でわかるねん、と。そして望みは敗者復活にかけられる。しかし誰もローソク足の見方を知らず同じステージにたっていた全員が間違えることになった。ここで俺のエコノミクス甲子園生活は終わった…が、頼もしい後輩がいる。ここ数年超名門では無い高校が優勝している。今年の駿台甲府の快進撃のように東北初全国優勝をめざして欲しいと願いを託し東京の地を1日観光し帰るのであった。

全体的な感想として、ガチで勉強をこの為だけに注ぎ込めばニューヨークに行けそう、ということである。後輩にノウハウ全て詰め込んで来年はリベンジしてもらおうと思う。

そして、一つだけ心残りがあるとすれば『デッドクロス』と答えなかったところである。





山形大会 12月15日(日)開催



優勝チーム 山形県立山形東高等学校
(3年連続6回目)
「もちきんちゃく」
佐藤 琴音・高橋 綾乃



主催 山形銀行

参加校一覧

東北文教大学山形城北高等学校、山形県立長井高等学校、山形県立東桜学館高等学校、山形県立山形西高等学校、山形県立山形東高等学校

申込みチーム数 44チーム(5校)

運営スタッフ感想

当行では、本大会を人材育成の機会と位置付け、新入行員4人が「実行委員」を務め、大会情宣や参加者募集活動に加え、サステナビリティ方針に則った当行のCSR活動や金融経済教育への関わりを広くPRする役割を担いました。また、新入行員全員を「サポーター」として任命し、募集活動を中心に全員で企画運営をサポートしました。

今年は、全国最多、過去最多となる44チームの参加を募ることができました。オンライン大会のため、雪国の本県においても、移動の負担なく大会に参加できることを広くPRし、県内全域からの参加を目指して募集活動を行いました。実際に高校を訪問し、社会保障と金融知識、ライフプランに関する金融経済教育とエコノミクス甲子園山形大会の募集活動を行ったことも効果的だったと振り返ります。

これからも、地域金融機関の責務として、山形県の未来を担う高校生の金融知力向上に貢献していきます。

山形大会代表 山形県立山形東高等学校 1年
佐藤 琴音

今大会への参加を決めたのは、この機会に金融知力を身につけ、豊かに賢く生きたいと思ったからです。些細なきっかけでしたが、この決断が人生を変える貴重な経験に繋がりました。

大会準備では、参考書を通じて社会や経済の仕組みを理解し、その面白さにのめり込みました。筆記試験ではその学びが活きましたが、クイズ大会では他校の参加者の知識の深さに圧倒されました。悔しさよりも尊敬の念が湧きました。

ビジネスケースでは、全国からの優秀な参加者との交流が大きな刺激になりました。実践的な力が身につく、日本の現状を考えるきっかけにもなりました。

これらの経験を通じて、ニュースの解像度が上がり、見える世界がぐんと広がりました。以前も理解しているつもりだったため、分かっていないことにすら気付けないのだと、無知の恐ろしさを痛感し、金融知力をはじめとする知識の重要性がよく分かりました。今後とも学び続けようと思います。

今回あえてリスクを取って挑戦したことで、かけがえない出会い、経験、学びを得ることができました。チームメイト、先生方、参加した方々、運営スタッフ、協賛企業の皆様に心から感謝申し上げます。貴重な機会をいただきありがとうございました。



山形大会代表 山形県立山形東高等学校 1年
高橋 綾乃

まずは、大会を運営して下さった皆様、直前まで手厚くサポートをして下さった山形銀行様、暖かい激励をくださった皆様、本当にありがとうございました。

経済への興味と相方からの誘いをきっかけにエコノミクス甲子園の参加を決めました。経済の知識がほとんどないところから勉強を始めたため、不安もありましたが楽しむことができた3日間でした。

会場に到着してすぐのアクティビティでは、ゲームを通して各都道府県代表の方々と交流ができたと同時に、全国大会に来たことを実感しました。翌日には筆記試験とビジネスケースが行われ、特にビジネスケースでは大きな刺激を受けることができました。半日の短い時間で分析から提案までを行う中で、自分についていくことで精一杯でしたが、チームの方々の分析力や、考えをわかりやすくまとめていく姿、発想力に圧巻されました。

本戦では、改まった、他の人が見ているようなクイズ大会が初めての経験で、他チームの方々のやる気と熱気に緊張と興奮を感じました。思い通りの結果は出せず、悔いは残りましたが、相方と協力をし、自分の力不足も痛感し、白熱した戦いを楽しみ、貴重な経験ばかりを積んだ1日となりました。

3日間の中で、各都道府県代表の方々との交流や、経済の知識の競い合いを通して得たエネルギーをこれからの生活につなげ、また培った知識を生活で生かしていきたいです。エコノミクス甲子園は楽しく、学びのある大会でした。ありがとうございました！





福島大会

12月8日(日)開催



優勝チーム 福島工業高等専門学校
(10年ぶり2回目)
[Lunette]
氏家 成・渡邊 耀大

主催 東邦銀行

参加校一覧

福島県立福島高等学校、福島工業高等専門学校
申込みチーム数 16チーム(2校)

運営スタッフ感想

参加校は2校と少なかったものの、16チーム出場の集合開催により盛大に運営することができました。生徒の皆さんは、定期テストの期間中にも関わらず精一杯勉強をして参加してくれました。

問題に正解したときの喜び姿や優勝ができず涙する姿などを見ると、本大会のために真剣に準備して本気で大会に臨んでくれたのだと感じ、当行の運営スタッフ一同、胸が熱くなる思いでした。

優勝されたチームも、残念ながら優勝できなかったチームも、この大会での経験や得られた金融知識を、今後の人生に少しでも役立てていただければ、大会主催者としても幸いです。

当行は今後も、地域の未来を担う高校生たちの金融知識向上に積極的に取り組んでまいります。



福島大会代表 福島工業高等専門学校 3年
氏家 成

私はエコノミクス甲子園を通してますます金融・経済に対し興味が高まりました。3日間を通して貴重な体験をさせていただきました。

1日目は、エコノミカスの大会とお金の百人一首大会に参加しました。この日に初めてエコノミカスをやったので、対戦していくうちにルールを理解しました。1勝もできなかったのが、悔しい思いをしました。お金の百人一首大会も初めてやって、相方に助けられる場面が多く、勉強不足を実感しました。そこでお金の知識をさらにつけていく必要があると思いました。

2日目は、筆記ラウンドとビジネスラウンドに参加しました。筆記ラウンドは、ペーパーテストでお金や経済の知識を問う問題が出ました。ここでも勉強不足を感じました。ビジネスラウンドでは、4人チームで協力してプレゼンに向けて準備しました。初対面の仲間と協力して6時間かけて人前で発表できるプレゼンを作れたと思います。今回のビジネスラウンドのテーマは老朽化インフラの保全計画と財政確保の計画についてでした。普段ニュースを見ないので、ビジネスラウンドの説明のときに初めて埼玉の道路陥没事故を知りました。そのため今回のビジネスラウンドを通して日頃からニュースや新聞を見るようにして新しい情報をインプットしていかなければいけないと思いました。

3日目は、早押しクイズ、ボードクイズ、3択クイズなどで決勝ラウンド進出をかけて他チームと競いました。他のチームは2年連続で出場している人など、強豪ぞろいのなかで緊張していました。しかし、こま



で私を支えてきた親や高専の先生、全国に進むことができなかつた方のことを考えたら、一生懸命戦って福島に戻りたいと思い、早押しクイズに挑みました。最初は緊張していましたが、早押しクイズで1問正解して心が少しほっとしました。この調子で第2ラウンド、第3ラウンドも一生懸命頑張りました。結果的には、決勝ラウンドに進むことができませんでしたが、今後に向けて課題点を見つけることができました。

私は今大会で得た経験を今後の生活に活かしていきたいと思います。例えば、日商簿記2級とファイナンシャル・プランニング技能検定3級を今年までにとることを目標にしています。資格勉強を通して金融に関する知識をさらに深めていきたいです。また、今回のクイズラウンドでは、金融だけでなく、時事問題などの幅広い知識が求められていて、事前に対策を練る必要があると感じました。そこで母校の福島高専にクイズ研究会を立ち上げて、仲間と切磋琢磨して知識を深めていくつもりです。

今大会を通してお金や経済が私たちと密接に関わっていることを実感しました。お金や経済は日々の生活だけでなく、将来の人生設計にも大きく影響を与える存在です。それらを知ることで、よりよい選択を選んで、人生を豊かにすることができます。私は福島高専で経済学を学んでいて、今大会に参加する前からお金や経済に対して興味がありました。しかし、大会を通して授業だけで満足せず、金融について主体的に学びを深めることの大切さを強く感じました。

今大会を主催していただいた金融知力普及協会の皆様、スタッフの皆様、東邦銀行の皆様、スポンサーの皆様、母校の福島高専の先生に心より感謝申し上げます。おかげさまでとても有意義な3日間を過ごすことができました。そして1番の感謝を伝えたいのは、共に戦った相手です。二人で支え合いながら最後まで戦い抜いたことを誇りに思います。

福島大会代表 福島工業高等専門学校 2年
渡邊 耀大

エコノミクス甲子園に参加したことで、金融に対する興味が一層深まり、さらに学びたいという意欲が高まりました。3日間にわたる大会では、金融に関する多くの問題に挑戦し、自分の知識を試す機会を得ること

ことができました。中にはスムーズに解けた問題もありましたが、難しく解けなかったものもあり、自分の知識がまだ十分ではないと痛感しました。そのため、これからもっと金融について学び、知識を深めていきたいと強く思いました。大会では、一般的な早押し問題やボードクイズだけでなく、さまざまな面白い要素が取り入れられていました。その工夫によって、単に知識を問われるだけでなく、楽しみながらクイズに取り組むことができました。こうした仕掛けがあることで、金融に対する興味がさらに増し、学ぶことの楽しさを改めて実感しました。金融というと、少し難しく取っつきにくいイメージを持っていましたが、エコノミクス甲子園では、クイズという形で知識を試したり、新しいことを学んだりできるため、とても魅力的な経験になりました。今回の経験を通じて、金融の知識を深めることの重要性を実感しました。私たちの生活に密接に関わるお金の仕組みや経済の動きを理解することは、将来においても役立つスキルとなります。エコノミクス甲子園で学んだことを活かし、今後も金融について学び続け、自分の知識をさらに高めていきたいです。





茨城大会

12月8日(日)開催



優勝チーム 茨城県立日立第一高等学校
(初出場)
「エウレカ」
遠藤 陽奈・増田 絢斗



主催 筑波銀行

参加校一覧

茨城県立竹園高等学校、茨城県立水戸第一高等学校、茨城県立日立第一高等学校、茨城県立土浦第一高等学校、茨城県立並木中等教育学校、江戸川学園取手高等学校、常総学院高等学校、常磐大学高等学校、学校法人土浦日本大学学園土浦日本大学高等学校

申込みチーム数 23チーム(9校)

運営スタッフ感想

5年ぶりのリアル開催でしたが、学生スタッフの協力もあり、無事開催することができました。参加23チームの学生とリアルな環境でふれ合い、クイズ大会の緊張感、楽しさを共有出来て、非常にうれしく感じました。決勝ラウンドでは、5連覇のかかる茨城県立並木中等教育学校と昨年準優勝した茨城県立日立第一高等学校の接戦となり、日立第一高等学校のチーム「エウレカ」が、昨年の雪辱を果たし見事優勝し、会場全体が大いに盛り上がりました。

高校生への金融教育の重要性が高まっており、引き続き地域金融機関として、この「エコノミクス甲子園」を通じて積極的に関わっていきたいと思います。



茨城大会代表 茨城県立日立第一高等学校 2年
遠藤 陽奈

「養老保険」。エコ甲に出てなかったら老後まで出会うこともなかった言葉が、私たちの全国大会出場を決めてくれました。エコノミクス甲子園に挑戦するのは去年に続き2回目ですが、全国大会出場は今年が初めてでした。

1日目。会場に着いたら、いきなり初対面の県外の高校生とエコノミカ、お金の達人一首大会…人見知りの私にはちょっとつらいと思いましたが、運営の方々も仲良くなれる工夫をしてくれて、なにより参加者の皆さんが交流に前向きで、とっても楽しく過ごせました！レクリエーションが終わったら即風呂！就寝！

2日目は寒空の下、ラジオ体操から始まりました。なんとただのラジオ体操ではありません！エコ甲ならではの、経済用語にちなんだラジオ体操です。「経済を回す運動～」。「利益！最大化！利益！最大化！」。すごい場所に来てしまったなあ、すっかり眠気が覚めました…笑

身体を動かしたあとは、頭を動かす時間です！筆記ラウンドは、事前に配られた教材から出たものは概ね点が取れました。しかしその他はちょっと残念な感じでした…。ビジネスケースも本本当に難しかったです。はじめましてのメンバー同士で、何から手をつけようか、担当は、情報共有の仕方は、結局何をすればいいのかと、手探りでヒューヒュー言いながら何とか形にしました。発表も苦戦しましたが、他のグループの発表がハイレベルで感動し、学びになりました。夜は待ちに待った前夜祭！おいしいご飯で次の日へエネルギーを蓄えました。また、全国の特産品が当たる抽選会では特産品が発表される度、周りの高校生と盛り上がったのが



楽しかったです。私は北九州市の焼きカレーが当選しました。やったー！

3日目は朝から緊張感が漂ってました…。他のチームはお互いに励まし合っていたり、友人からの応援メッセージに涙する高校生がいたり、エコ甲って多くの人にとっての青春で、すごくアツいなと思いました。

大会は、あれよあれよという間に敗退し、敗者復活では壇上のチームが一斉に脱落する大波乱でドキドキする暇もなく観客側に回ってました。しかし、観客になってもとにかくおもしろかったです。テレビのクイズ番組を見ている気分で、特に「クイズ！先見之明」のルールはエキサイティングで、そんなに攻めるの！？なんでわかるの！？とワクワクしっぱなしでした…。決勝もゲーム展開がおもしろく、駿台甲府の敗者復活からの優勝は心が踊りました。

今回のエコノミクス甲子園は、自分にとって成長の助けになりました。インターネットやテレビで見聞きする進学校の高校生と関わって、勉強や課外活動に積極的に取り組むモチベーションになりました。また、そのような学校の方々が軽々と答える用語も聞いたこともないものが多く、自分の準備不足を痛感しました。日頃から経済関連のニュースや証券用語をもっと深くチェックしておくべきだったと思います…。今年の経験を活かして、来年も可能であればぜひ参加したいと思います。とっても楽しかったです！！

茨城大会代表 茨城県立日立第一高等学校 2年
増田 絢斗

12月8日、筑波にいた。オンラインだった前年度の茨城大会の雪辱を果たすため、今年も相方に誘われたという体裁を取りつつ、初の対面大会に心を躍らせていた。前年度は初参戦で県大会2位の好成績だったが1位を逃した悔しさは大きかった。1年を経て、予選は2位通過、決勝は相手の単独正解で逆転優勝を収めた。2回目の挑戦で学校にとっても初の全国大会への切符を手に入れた瞬間はあまり実感がなく、数日経って実感が湧き始めたのを今でも思い出せる。

そして迎えた2月21日。特急に乗り、全国大会の会場に到着した。受付を済ませ、エコノミカ大会に参戦だ。交流の中で他県の代表のレベルの高さに愕然とした。お金の達人一首大会では3日間同部屋で過ごす、共に男女ペアの神奈川県代表と山口県代表2人と出会った。部屋に行き、交流しながらも、明日に向けて少し復習してから就寝した。

2日目は、朝食を取って筆記試験に臨む。前日の雰囲気もあり緊張はなく、心に余裕を持ちながら解き進めることができた。苦手としていた計算問題は自信を持って解くことができ、想定より上々であった。筆記後はビジネスケースだ。「インフラ」という身近ながらも実感のないお題に最初は困惑した。調べ、意見を出し、まとめ、形にする。昼食も挟み完成したプレゼンは納得の仕上がりになった。他のチームの発表に焦りながらも、なんとか発表を終えた。部屋に戻り、ビジネスケースがグループ内2位だったことを知って喜び、2日目が終了した。

2月23日。泣いても笑っても最終日だ。緊張で味のしない朝食後、最終決戦の場となる大ホールに移動。開会セレモニーが終わったらすぐに自分たちの番が訪れた。憧れのステージ。第1ラウンドの成績は、脅威の10ポイントである。やらかした。焦りを感じながらも「折角の場なんだし、楽しまなきゃ。」と腹を括る覚悟を持たせてくれた。第2ラウンドも良いとは言えない結果で午前中が終了した。昼食中に予選順位が発表される。23位。ど真ん中もど真ん中だ。午前中の成績の割にさして沈んでいなかったことに安堵し、第3ラウンドに臨む。相手は9問を当てた。自分は7問を当てたと思う。突破チームと照らし合わせる限り、自分の正解数が1問足りなかった。準決勝進出を逃し、席に戻って喪失感と後悔が押し寄せてきた。その後の敗者復活でも1問目を間違え、再びステージに上がることはなかった。

ただ、今こうして考えてみると、健闘したし、楽しかったとも思える。これが単純ではあるものの、自信を持って言える感想だ。次は3年生になる私には、参加を決意するほどの余裕はないだろう。それでも「また参加したい。」そう思える大会だった。改めて、運営の皆様、筑波銀行の皆様、県大会や全国大会で戦った皆、そして誘ってくれた相方に感謝します。ありがとうございました。





栃木大会

12月8日(日)開催



優勝チーム 白鷗大学足利高等学校
(2年連続2回目)
「白鷗足利」
阿部 庄汰・松本 脩佑



主催 足利銀行

参加校一覧

白鷗大学足利高等学校、栃木県立石橋高等学校、栃木県立矢板東高等学校、栃木県立栃木高等学校、栃木県立栃木女子高等学校、栃木県立宇都宮高等学校、栃木県立宇都宮東高等学校、栃木県立宇都宮女子高等学校、栃木県立佐野高等学校、佐野日本大学高等学校

申込みチーム数 26チーム(10校)

運営スタッフ感想

栃木大会は12回目の開催となり、52名の高校生に参加いただきました。

2年連続で参加いただいたチームも多く、高校生たちの1年間の成長も感じることができ、大変うれしく思いました。また、どの問題にも真剣に取り組んでいただき、最後まで熱気に包まれた大会となりました。私たちスタッフも楽しく運営させていただくことができました。

この日のために一生懸命学んでくれた高校生の皆さんの良い思い出となれば幸いです。

引き続き、金融教育の一助となれるよう、楽しい大会を目指していきます。

栃木大会代表 白鷗大学足利高等学校 2年
阿部 庄汰

エコノミクス甲子園全国大会はたくさんのアクティビティあり、大変思い出深いものとなりました。

22日(土)の筆記ラウンドとビジネスケースではとにかく頭を使いました。筆記は地方大会よりも難しく、自分の知識の限界を感じました。見たことのない単語や計算問題がいたるところにあり、問題を解答している間頭が真っ白になりましたが、何とかしたので良かったです。そしてこの日に行われた前夜祭では美味しい料理が並んでいて、酷使した脳に染み渡りました。ちなみに前夜祭内で行われた抽選会では何も当たらず、運のなさを実感しました。

心待ちにしていたクイズ本戦が23日(日)にありました。第1ラウンド、第2ラウンド共にまずまずの結果で今年もあまりできなかったなと思いつつ第3ラウンドに参加しました。そこでは、なんとかグループの上位3組に入ることができ、準決勝に進出することができました。準決勝ラウンドは見たことのない形式のクイズだったのですが、他の組との駆け引きが面白かったです。結果は敗退となってしまいましたが、今回の大会で1番印象に残ったラウンドでした。個人的にはもう少し勝負すればよかったな、と思っています。

来年には受験が控えているので今回が最後のエコノミクス甲子園でした。エコノミクス甲子園に出場していなければ、学校の授業で少し経済に触れるだけまでここまで詳しくはやらなかったでしょう。学校の勉強と両立するのが大変でしたが、経済の勉強が無駄になったとは思いません。今後の人生で役に立つことをたく



さん学べたのでそれを活かして生きていきたいです。
最後に、大会に関わっていただいた方に感謝を申し上げます。



栃木大会代表 白鷗大学足利高等学校 2年
松本 脩佑

「全国大会に帰ってこられた。今年は最後のエコ甲参加。初心に還って、クイズが好きな気持ち、早押しがしたいという出場のきっかけを大切に臨もう。」全国大会参加前、そう考えていました。この気持ちが後々カギを握ることになるとは、思いもしませんでした。

第18回の全国大会を終えて、「来年も出よう」と思いました。栃木大会初の連覇を、そして2度目の全国大会出場をかけて。

数カ月かけて対策を詰めて迎えた第19回栃木大会。第18回大会の反省を活かして勉強を重ね、安定して勝ち切ることができました。

全国大会までの準備期間、第18回全国大会の問題の傾向を踏まえ、共通教材に頼る割合を下げて、金融会社の用語解説等を重点的に対策しました。これが功を奏し、正解できた問題が多かったです。

本戦第2ラウンドが終わった時点で、「早押しクイズができたから満足、あとはゆったり構えていこう」という気分になっていました。この気分のおかげで、焦りを抑えた者勝ちのシステムとなった第3ラウンドを冷静に攻略できたと思います。初心忘るべからず。この大切さを実感しました。

準決勝ラウンドでは敗退してしまいましたが、それでも充実感がありました。「クイズを存分に楽しめた」という点が、大きかったです。

最後になりますが、第18、19回と2年連続で校名プレートを担当していただいた足利銀行の篠原さんをはじめとするあしぎんスタッフの皆様、全国大会運営スタッフの皆様へ感謝申し上げます。





群馬大会 12月15日(日)開催

CB 群馬銀行
 私たちは「つなぐ」力で地域の未来をつむぎます

優勝チーム 群馬県立前橋高等学校
 (9年ぶり3回目)
 「パクス=前高二カ」
 関根 悠仁・小野 瑛太



主催 群馬銀行

参加校一覧

群馬県立高崎高等学校、群馬県立高崎女子高等学校、群馬県立館林女子高等学校、群馬県立渋川高等学校、群馬県立前橋高等学校、群馬県立前橋女子高等学校、群馬県立中央中等教育学校、伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

申込みチーム数 12チーム(8校)

運営スタッフ感想

群馬大会を制したのは、群馬県立前橋高等学校のチーム「パクス=前高二カ」のお二人でした。おめでとうございます！

前橋高等学校の全国大会出場は2016年以来です。学校に訪問し表彰式を終えたあと、「群馬県代表として少しでも結果を残せるよう努力したい」と意気込みをいただきました。

応援しています！

ご参加いただいた高校生の皆さま、ありがとうございました。



群馬大会代表 群馬県立前橋高等学校 2年
関根 悠仁

全国大会の3日間を通して、とても内容が濃くてとても楽しかったです。初め、全国大会に出るといことで多少緊張をしていましたが、エコノミカを初めとする様々なアクティビティを通じて全国大会出場者の皆さんと楽しく交流することができて緊張が和らいだと思います。大会の内容としてはやはり全国大会と言うだけあって難易度は高かったと思います。全国大会用の教材が配られてからそれらの教材を読んで内容を覚えたり過去大会の様子を見て問題の雰囲気を探ったり、出そうな問題を検討つけて調べてみたり、様々なことをして大会に臨みましたが、それでも知らない単語や内容の問題が出てきて、でもそれに答えられてる人もいて、全国大会のレベルの高さをしみじみと感じました。また22(土)に行われたビジネスケースですが、これがあることによって、ただ勉強して金融知識を身につけるだけでは測れない力も測れてとても面白いなと思いました。23(日)の本戦においても様々な工夫がなされた形式のクイズが実施されていて、知識だけでなく運や勇気、頭の回転の良さも要求される、良い形式だったと思います。またこの大会を通して、全国様々なところから来た高校生とも話して仲良くなる機会があって、とても良かったと思います。中には同じ大学を目指している人や同じ方向に進もうと考えてる人もいて、将来そのような人たちとまたどこかで会えたらいいなと思います。また、大会自体とても面白いのに知名度が低いので、後輩や友達に広めたり、あとは将来大学生になったら僕も運営の方で参加してみたいと



思いました。エコノミクス甲子園、本当に楽しかったです。とてもいい思い出となりました。ありがとうございました！！

群馬大会代表 群馬県立前橋高等学校 3年
小野 瑛太

今回私は11月に受験が終わりその期間を活用するためにエコ甲へ出場しました。相方は昨年度群馬大会に出場していて、今年はおう一人の子が出来なくなりましたということで急遽私が代打で出場する形になりました。

初日はレクや部屋割りがあり、全国から集まった多くの方々と親交を深めることができました。特に同部屋の三重県代表の二人とは次の日の筆記試験に備えて「マンキュー」を読み合せたり、出そうな問題を互いに受験しあったりなど非常に有意義で楽しい時間を過ごすことができました。

二日目の筆記試験は前日の対策もあって、想定よりはできたなという感触がありました。

解答をみた感じ約7割の正答率だったと思います。ビジネスケースはテーマが「インフラ」ということで少し困惑しましたが、普段の研究で身につけたテクノロジーやIoTに関する知識や考え方を生かして独創性のある提案を行うことができたと感じています。6時間くらいぶっ続けで初めて会った人たちと一つのことを作り上げるのは苦労しましたが、学びの多い機会だったと思います。

また二日目の夜も最終日に向けたクイズ対策をしました。自分達が出場したクイズでは出題されませんでした。グリーンメーカーやティンパラシュート、デットクロスなど、観戦してこの問題なら答えられるのに。となることは多かったです。対策の質も大事ですが、やはり量をこなして答えられる問題をもっと増やすことが大事だなと感じました。クイズでは全体通して1問しか正解することができず厳しい結果となりましたが、筆記とビジネスケースがうまく行ったので全体順位は21位になりました。

大学では情報学を中心に学んでいく予定ですが、エコ甲で身につけた知識は必ず生きてくると思います。ありがとうございました。





埼玉大会 11月17日(日)開催



優勝チーム 早稲田大学本庄高等学院
(13年ぶり3回目)
「早大本庄」
五十嵐 浩銘・笠井 孝介



主催 埼玉りそな銀行

参加校一覧

開智高等学校、淑徳与野高等学校、栄東高等学校、早稲田大学本庄高等学院

申込みチーム数 6チーム(4校)

運営スタッフ感想

大変白熱した大会でした。

第一ラウンドの筆記では、皆さん残り時間ぎりぎりまでチーム内で相談し、悔いのない回答を出そうと取り組んでいらっしゃいました。

第二ラウンドの早押しでは、難しく正答の出ない問題もある中、正解した際はチームで喜びあう様子が見られました。

そして決勝ラウンドでは、首位が何度も入れ替わり最後までどこが優勝するか分からない中、最終問題を単独で正解し希望ボーナスも勝ち取った「早大本庄」チームが見事逆転で優勝を手に入れました。

高校生のみなさんが、一生懸命取り組む様子を間近で見ることができ、スタッフ一同大変励みになりました。「早大本庄」チームの全国大会での大活躍を祈っております！



埼玉大会代表 早稲田大学本庄高等学院 3年

五十嵐 浩銘

今回エコノミクス甲子園に参加した感想として、まず何より金融知力の養成ができたなと感じています。参加する前は、経済や金融に関する興味、知識がほとんどなかったのですが、エコ甲を通じてそれらに興味を抱き、配布された冊子や本で勉強をしたことで金融知力が向上しました。このことだけでエコ甲に参加してよかったなと思っています。また、日本全国から様々な高校生が集まっており、色々な都道府県の人たちと交流をする機会などないので、様々な価値観を獲得でき、貴重で有意義な体験になったと思っています。また、決勝戦のクイズも見たことがない特殊なルールで、とても面白かったです。私は三年生なので次は参加できないですが、もし機会があれば参加したかったと思うほどに良い大会でした。

埼玉大会代表 早稲田大学本庄高等学院 2年

笠井 孝介

【1日目】全国大会の会場で、居住地が約100km離れている相手の先輩と現地合流。まずはエコノミカ大会でした。ドルドル日本株が最強の組み合わせですね。私はそれで勝てませんでしたが、その後はカルタ大会。私は苦手なのですが、相方がなぜか強く、ちょうどいい容量の水筒を獲得できました。ありがとうございます。また、相部屋の松江高専が面白い人で、いい部屋だなあと思いながら過ごしておりました。

【2日目】朝起きて、景気を上昇させて経済を回しておく。



エコノミクス甲子園全国大会出場者ならば、ラジオ体操をしながら経済について触れるというのは、文字通り朝飯前なんでしょう。

筆記ラウンド。問題ごとの難易度差が激しい！！ちゃんと取らなきゃいけない所を落とし、悔しさが残りましたね。

次はビジネスケース。グループ内に引っ張ってくれる人がいて、私は引っ張られる側でした。同じ高校生として、チームを引っ張るリーダーシップを持つ人を尊敬しましたね。なんとか提出期限の10分前にスライドを形にでき、(7時間弱で終わらなくて突貫工事だと思います)終わった時は達成感がありました。発表は時間をオーバーしてしまいましたが、自分たちなりに最高の案を出せて良かったです。

立食パーティー〜！！ ジャンクなフードがたくさんあって嬉しかったです。特産品を取れなかったのは心残りですが、相部屋のメンバーがお情けでちょっとだけくれました。ありがとう。

【3日目】エコノミクス甲子園の一番の山場。第1ラウンドは私が早く押しすぎて-10P。あほ。第2ラウンドは先輩が単独正解を決めるもそこでレバレッジを使用しないというミス。先輩は神、私はあほ。第2ラウンドの結果は+10Pと、なんとか帳消しに成功。ここまでの成績に自信がなく、予選最下位じゃなきゃいいかな〜くらいの気持ちで昼ごはんのカツサンドを食べていた。美味しい。結果としては13位/45位。??? 相方「は？」私「ミスだろ」だが、おそらく正しい結果である。

上位15位グループとして第3ラウンドの時間衝撃、間違えたタ仏ショックへと向かう。3択をガンガン出すルールで面白いなあと思いながら参戦。6チーム勝ち抜けの中、奇跡の6番目抜けに成功し、思わず先輩と抱き合っていました。あの時の情景は今でも鮮明に覚えています。この時の写真はエコ甲の公式Xにも投稿されていましたね。自分で言うのもなんですが、なかなかemotionalな写真です。

そして勝ち上がった10チームによる準決勝。面白ルールだ！！ 楽しみ！！ 問題の難易度が抑えめだったから、攻めればよかったなあとかなり後悔。松江高専

の「アレ」と最後の旭川東の「アレ」、本当に素晴らしかった。あれされたら負けるのも納得です。5位で準決勝敗退。敗者復活うう！は1問で落ちました。

【結果】結果、全国6位相当と相成りました。意外と満足なのですが、流石に来年も出たいですね。その時は今回の成績を超えることを目標にしたいです。あと、参加した高校生みんな、特に私と会話してくれた方々！！本当にありがとう！！

【総括】地方大会から私たちのチームは、「おかしかった」気がしています。地方大会は、決勝の最後の1問で、相方が「これじゃね？なんの確信もないけど」と書いた答えが単独正解で、逆転で全国大会出場を決定したこと。

筆記クイズで大コケして、ビジネスケースの上位2グループに入らなかったのに、予選順位が13位だったり、6チームまでしか準決勝に行けない中で6位抜けを決めたり。

なかなかおかしな展開でしたね。ただ、相方がいたから出来たことだと考えています。私1人では絶対に不可能でした。改めて相方の五十嵐先輩には、準決勝まで私を連れて行ってくれたことに感謝を伝えたいですね。本当にありがとうございました。

もちろん運営スタッフ・協賛の方々にも感謝の意を。あなた方がいなければ、エコノミクス甲子園は開催できていません。この大会のおかげで経済に興味を持つことができました。経済への勉強も邁進していきたいと考えています。このような場を作って頂き本当に感謝しています。ありがとうございました。





千葉大会

12月14日(土)開催



優勝チーム 千葉県立千葉高等学校
(2年連続4回目)
「もやしまつり」
伊藤 陸・安西 克晴

主催 千葉銀行・千葉興業銀行

参加校一覧

渋谷教育学園幕張高等学校、流通経済大学付属柏高等学校、木更津工業高等専門学校、市川高等学校、千葉県立千葉高等学校、千葉敬愛高等学校

申込みチーム数 6チーム(6校)

運営スタッフ感想

今回は参加チームが少なく残念でしたが、前回大会の参加者が参加してくれて良かったと思います。今回参加者が少なかった理由としてある高校の先生に確認したところ、「最近似たような経済を取り上げたイベントが多く、同時期に20件ほどある。埋もれてしまっているか、比較したときに魅力が無くなっているのではないか」とのご意見をいただきました。高校生にとって魅力的なものになるよう、運営の方々にはぜひ考えていただきたいです。



千葉大会代表 千葉県立千葉高等学校 2年
伊藤 陸

とにかく今年は県大会で優勝したい。その一心で勉強を続けてきた。その努力が報われて僕はあの日全国大会というステージに立てた。きっと中学生の自分にこのことを言っても信じないだろうなぁと思う。

1日目のアクティビティを終え、筆記から始まった2日目。筆記はまずまずといった感じ。マンキューも大事だが、普段からの経済への関心が求められたような気がした。続けて行ったのはビジネスケース。マーケティングをする気満々だったのだが、伝えられたお題はコンサルティング。非常に大変ではあったが、個人的にはかなり満足のいく発表ができた。あと、すごく楽しかった。

さて、全てが決まる3日目、「クイズ研究部だったなら、早押しは得意でしょ?」と言われることがあるが、僕に限った話で言えば全くそんなことはない。むしろ過去の失敗経験が蘇ってきて、トラウマと化している。誤答=負けとも言える1Rのルール。出番を待っている時の緊張は言葉にできないほどだった。ただ、運が味方してくれたおかげか、2連答して1Rを抜けることができ、トラウマを克服できた僕は内心ウキウキで自席に戻ったのを今でも覚えている。2Rはボードも含め何も分からなかった。難しすぎです。お昼に予選順位を知らされたが僕たちはなんと15位。1組目の末席であり、3Rでもし判定になったら確実に負けてしまう。それに加え、3Rは協力が不可。相方よりも知識が少ない僕は本当に不安でしかなかった。ただ、相方の足を引っ張りたくない、ここで終わりたくない。その思いが身



を結んだのか、12問中9問正解できて、相方の分も合わせて3Rを突破できたのだ。本当に嬉しかったし、相方がこの人で良かったと心から思った。準決では上手く勝負に出れず負けてしまったが、あれも含めて実力なのだろう、と悔いはない。敗復も惜しいところまでいったが、負けてしまった。これも実力だろうなぁと思う。準決の壁を超えて決勝に進み、準優勝した先輩は本当に凄いのだなとこのとき改めて思った。将来、もし県千葉の人がエコ甲に出るのであればこの全国大会で優勝してほしい。僕からのお願いです。最後に、この大会を主催してくださった皆様、大学生スタッフの方々、このような貴重な機会を作っていただき、本当にありがとうございました。そして僕と一緒に戦ってくれて、支えてくれた最高の相方には頭が上がりません。本当に、本当にありがとうございます!!相方が君で良かった!!

千葉大会代表 千葉県立千葉高等学校 2年
安西 克晴

全国大会の会場へ向かう前夜、私はマンキュー入門経済学(大変分厚い経済学テキスト)と格闘していた。当日まで一週間を切ってからようやく対策を始めるといふ愚行に走ったツケが回ってきたのだ。(エコ甲に出場する予定の方は、二の舞になりたくなければ対策教材をさっさと終わらせることを推奨する。)結局対策が十全でないまま、寝不足の状態では東京へ赴くこととなったが、電車が遅れ夕食は摂れず、会場に着いてからはカードゲームで脳を酷使し、初日夜の段階で満身創痍。おまけに翌日以降もタイトなスケジュールが組まれており、現地入りしてから対策する時間を捻出しようと考えていた私はこの想定外に頭を悩ませながら就寝した。

2日目はラジオ体操(気温2℃)で目を覚ました後、筆記クイズが行われた。計算の大問が三分の一を占めており、数学力が点数に直結する問題であった。筆記終了後すぐにビジネスケースが始まり、ここで初対面の人間とともに5時間程度でプレゼンを作成するという無理難題が降りかかる。なんとか発表まで終わるとそのまま前夜祭に突入し、気付けば2日目が終わろうとしていた。だが、本戦の対策が全く完成していない私は、

ここから地獄の"用語全部覚えるまで寝れま1000"(つまり暗記アプリを1000語以上回す苦行)を始め、深夜4時に就寝する羽目に……。

3日目、ついに始まる本戦。1Rの早押しクイズの問題数が僅か3問であることに大きな不安(と、眠気)を感じていたが、あっけなく勝ち抜けて安堵した。2Rは割愛。ここまでの予選順位の上位・中位・下位で分かれて対戦するのが3Rなのだが、我々の順位はなんと15位、つまり上位グループの一番下。同じグループには錚々たる面々が揃っているという絶望にむしろ諦めがつき、これ抜けたらもう奇跡、みたいな話を相方としていた。——まさか、ここで勝ち抜けと言う奇跡が起こるとは。このとき相方と手を取って喜んでいた瞬間が、エコ甲最大の思い出である。準決勝では何も出来ず敗退したが、悔いはなかった。敗者復活戦は問題が異常に難しいので、何も見ずに勘で選ぶのが良い。私は何一つ分からなかったがあと1問で復活というところまで生き残っていた。しかし惜しくも復活ならず。

そして決勝が始まる。ここで最後に単独正解による大逆転が起きたのだが、この問題の解答は、相方が得手とする分野の、彼がよく知っていた言葉であった。(よく口にするあまり専門外の私さえ覚えていたほどに。)敗者復活で選択を過たず、彼を決勝の壇上に上げてやれたならば、きっと同じように単独正解を成し遂げていたのだろう……。間近にあったその未来を掴めなかったことが、ただ悔しかった。だが、それも含めてかけがえのない思い出となった。一生ものの感動も、後悔も、味わうことができた。

もしこれを読んでいるあなたがエコ甲に出てみたいと思っているなら、私はそれを強く勧めたい。金融知力とともに、感動であれ後悔であれ、あなたの心にずっと残る何かを授けてくれるはずだ。





東京大会

12月1日(日)開催



優勝チーム 早稲田大学高等学院
(初出場)
「学の独立」
村田 友惇・杉山 暁大



主催 リそな銀行

参加校一覧

開成高等学校、芝高等学校、聖学院高等学校、筑波大学附属駒場高等学校、渋谷教育学園渋谷高等学校、東京都立小石川中等教育学校、東京都立国立高等学校、東京都立両国高等学校、東京農業大学第一高等学校、東京学芸大学附属高等学校、明治大学付属明治高等学校、早稲田大学高等学院、早稲田大学系属早稲田実業学校高等部、国際基督教大学高等学校、かえつ有明高等学校、New International School of Japan

申込みチーム数 28チーム(16校)

運営スタッフ感想

今年度は28チーム56名の高校生に参加いただき、大規模な大会となりました。筆記では高得点のチームが多く、早押しと共にどのチームも沢山勉強してきた様子を窺うことができました。中でも決勝は激戦で、各チームともに多くの正解数を出す中、ボーナスポイントの駆け引き、戦略性によって勝敗が決しました。優勝した学の独立チームは正解数もさることながら、今大会の決勝ルールと、ボーナスポイント獲得のための勘所を見事に抑えていたと思います。表彰式では会場から惜しめない拍手が送られました。大会に参加した高校生全員にとって、優勝を目指して努力を重ねて、そして大会の場で発揮した経験は、かけがえのない財産になったことと思います。今後も金融経済知識を磨き、社会に羽ばたくうえでの大きな糧にしていきたいです。

東京大会代表 早稲田大学高等学院 3年
村田 友惇

高校一年生のころから経済学や会計に興味があり、腕試しのつもりで参加しました。

普通科高校に通う私からすると授業でなかなか扱われない経済という分野の知識で競争ができるというのはとても刺激的な体験だと思ったからです。そしてこれは大正解でした。地方大会・全国大会共にレベルがとても高く、どんな人生を送ったらそんなことを知っているのだろうとってしまうようなマニアックな知識を豊富に持った人が多く参加されていたのです。

しかし、私が驚いたのはこの大会で問われるのは知識だけではなくたということです。3日間から構成されるプログラムの2日目に、半日かけて行われるビジネスケースラウンドというものがあります。ここでは英語か日本語から事前に選択した言語で複数チームに分かれて社会課題の解決案を構想、プレゼンまでもっていかなくてはならず、英語選択者の中から経済学オリンピック日本代表最終候補が選抜されます。迷うことなく英語を選択した私ですが、おそらくこれが最も脳を酷使するラウンドとなりました。ネイティブのように英語を操る日本全国の高校生や経済学オリンピック台湾代表の方々と対等にやりあわなければならなかったからです。自分が井の中の蛙になりかけていたことを戒めるきっかけとなったとともに、運よく参加が決定した最終選考合宿に向けてより勉学に励むモチベーションとなりました。

最後に、この大会を主催して下さった金融知力普及協会の方々、地方大会でお世話になったりそな銀行の



方々、大会の企画・運営に携わってくださったボランティアの方々、こんな僕と長期間にわたって戦い抜いてくれた相方、及びこの大会に関わった全ての方に感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

東京大会代表 早稲田大学高等学院 3年
杉山 暁大

地方予選を相方に誘われて出場するまでは、経済についての知識は学校の授業で学ぶ程度であり、経済は堅苦しくて面白くないものだと思っていました。しかし、全国大会への出場が決まり、提供していただいた教材を読んでもみると、私たちの日常生活の背景を可視化できることに気づき、とても面白いと感じました。21日(金)はエコノミカや「お金の達人百人一首」を行いました。他の都道府県大会代表の方々と交流ができ、私はこの時点ですでに全国大会に参加してよかったと強く感じました。22日(土)は早朝のラジオ体操から始まり、筆記試験、ビジネスケースと続けました。地方大会の筆記試験は2人で解答できましたが、全国大会では個人での解答だったため、相方に迷惑をかけまいと、私にとっては全国大会3日間の中で最もプレッシャーのかかる場面でした。また、ビジネスケースではほぼ初対面のメンバーと集まり、限られた6~7時間の中でお題に沿ったプレゼンを作成・発表しました。メンバーの特性を踏まえながら、自分がどのように立ち回るべきかを考えて動くことがとても楽しかったです。23日(日)はいよいよ本戦。予選ラウンドで良い順位を取ることができましたが、準決勝ラウンドに進むことは叶わず敗退してしまいました。しかし、どのラウンドのルールも非常に作りこまれており、参加者としてはもちろん、敗退後も観戦者として最後までエコノミクス甲子園を楽しむことができました。相方に誘われてエコノミクス甲子園に参加したことで、大会までの勉強期間も含め、とても有意義な経験をすることができました。





神奈川大会 12月15日(日)開催



Bank of Yokohama

優勝チーム 横浜市立横浜サイエンスフロンティア
高等学校 (2年連続2回目)
「レッツびぶんぶん」
小川 琳太郎・岡本 理那



主催 横浜銀行

参加校一覧

鎌倉学園高等学校、神奈川県立横須賀高等学校、神奈川県立川和高等学校、神奈川県立厚木高等学校、洗足学園高等学校、横浜高等学校、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校、栄光学園高等学校、公文国際学園高等部

申込みチーム数 17チーム(9校)

運営スタッフ感想

神奈川大会はオンライン合同形式にて開催いたしました。高校生の皆様がこれまでに培った知識や理解力を発揮し、大会に臨む姿をリアルタイムで拝見できたことを大変嬉しく思っております。

参加者の皆様の素晴らしい努力と情熱が、この大会をより意義深いものにし、経済知識の重要性を再認識させてくれました。

エコノミクス甲子園にご参加いただいた皆様が、本大会で得た貴重な経験を通じて、さらなる経済知識の向上に努めていただくと共に、将来、経済分野で活躍する人材として成長されることを心より期待しております。

神奈川大会代表 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 2年

小川 琳太郎

まず、大会主催者の皆さん、関係者の皆さん、そして一緒に参加した高校生の皆さん、本当にありがとうございました。本当に楽しい大会でしたので、その中から特に印象に残ったことを書いていきたいと思います。まず21日(金)、エコノミクス大会などがあったのですが、相方が優勝した一方で、自分は1勝4敗と、全国の壁を感じる結果でした。22日(土)も、とても楽しい前夜祭でしたが、名産品を獲得することができず、悔しかったです。

そして、本戦となる23日(日)、午前中第2ラウンドでは、国際金融のトリレンマを私だけが知っているというめばれた結果レバレッジがぼやけるなどのミスもありましたが、なんとか勝ちあがることができ、たどり着いた準決勝。一度マイナスとなった点をギャンプルを繰り返し全体3位までつけることができたものの、迎えた最終問題で、旭川さんにスーパープレーを決められ大逆転を許してしまいました。しかし、敗退の問題は最終問題ではなく、最初にマイナス点を取る原因となった問題をしっかり取り切れなかったこと、序盤にアタッキングな姿勢をとれなかったことにあると感じます。結果論にはなってしまいますが、どんな場面でも攻め切る姿勢というのは大事である今回の経験を通して学びました。

最後に、同じ部屋の人と楽しくやれたおかげでメンタルを保てました。いろいろありがとうございました。



神奈川大会代表 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 2年

岡本 理那

第18大会に引き続き、2回目の出場でした。去年は相方に任せきりにしていたので、今年は事前対策に励みました。野村證券の証券用語集、用語がほぼ網羅されているのでおすすめです!!単語をしっかり覚えるようになってから経済学全体の理解がしやすくなった上に新聞の楽しさに気付き、基礎は重要だと改めて実感しました。

全国大会の三日間はあっという間に過ぎていきました。初日はエコノミクス大会で運よく優勝してしまい、色々な景品を頂けてとても嬉しかったです。特に預金ちゃんキーホルダーは気に入っていてスマホに付けています。2日目の筆記・プレゼンラウンドはとても苦戦しました。まず英語ラウンドを選択したのにも関わらず辞書を忘れ、更には消しゴムも無くし散々な出だしでした。隣の方が消しゴムを貸してくれなかったら予選順位が恐ろしいことになっていただいでしょう。プレゼンはチームのメンバーが本当に頼もしく、スライドの作り方やアイデアの出し方など学ぶことが多くありました。3日目のクイズ本選では、楽しかった部分も多かったものの、やはり総合すると悔しさが圧倒的に勝ります。去年の敗北を糧に今年はなんと少しでも優勝を、という気持ちとは裏腹に、結果は引き続きの準決勝敗退。あと一步の苦しさをもう一度味わうことになってしまいました。来年はおそらく出場できないと思うので、優勝という目標は後輩に託します。その代わりと言ってはなんですが、今年の経済アジア大会に出場できることになったため、まずは日本代表になって夏のオリンピックで日本に金メダルを持って帰ろうと企んでいるところです。

最後に、エコ甲を運営して下さった金融知力普及協会の方々、スタッフの皆さんにお礼申し上げます。そして何より相方に。彼はアジアで一番経済ができる(!?)高校生という点で私の目標であり続けてくれただけでなく、同時にライバルであり、とても良い友達です。いつもありがとう!





新潟大会

12月8日(日)開催

第四北越銀行

優勝チーム 新潟県立新津高等学校
(初出場)
「文金高島田」
佐々木 明里・今井 咲



主催 第四北越銀行

参加校一覧

新潟県立柏崎翔洋中等教育学校、新潟県立村上中等教育学校、新潟県立新潟高等学校、新潟県立新潟江南高等学校、新潟県立新津高等学校、新潟明訓高等学校、新潟市立明鏡高等学校

申込みチーム数 10チーム(7校)

運営スタッフ感想

新潟大会にご参加いただいた高校生みなさん、お疲れ様でした！

新潟大会当日は大雪の悪天候のなか、白熱した戦いが繰り広げられました。

結果は、新津高校のチーム「文金高島田」が初出場で見事優勝を飾りました。おめでとうございます。

大会全体を通して、高校生の皆さんが楽しみながらクイズに参加していた姿がとても印象的でした。この大会が、生涯役に立つ「金融知力」を身につけるきっかけとなってくれたら幸いです。

来年もよりよい大会となるよう、スタッフ一同取り組んでまいります。

新潟大会代表 新潟県立新津高等学校 1年

佐々木 明里

私がエコノミクス甲子園を知ったのは、教室に貼られたチラシでした。元々、経済には興味がなく、お金の話は好きではありませんでしたが、「これは絶対楽しい！」と思ったのと事前教材に励まされ、急いで相方を探して締め切り間近でエントリーしました。相方になってくれた咲ちゃんに感謝です。

地方大会では、本当にギリギリで優勝できました。ただ、憧れだった早押しクイズのボタンを押そびれたのが残念でした。

全国大会1日目。勉強不足だよなとブルーになりつつ、まず電車で大阪代表のペアに会い駅から一緒に歩いて、なんとなく幸先の良さを感じました。受付後、エコノミクス大会では、たくさんの初対面の人と喋り、とても刺激的でした。普段、自分が特定の人としか会話をしていないと痛感しました。次にオリエンテーションで2日目の説明をされると、緊張のせいか腹痛になりましたが、その後のお金の達人一首では、腹痛など忘れて夢中になって遊びました。

2日目。昨日の腹痛の原因のビジネスケースがやってきました。準備時間は、思考速度がいつもの100分の1になっていた気がします。そのくらい無力感しかありません。同グループの人とは、昼ご飯を一緒に食べてちょっと仲良くなれたと思います。結局頼ることしかできなくて申し訳ないと共に尊敬します。ビジネスケースが3日間の中で一番心残りというか悔しいものとなりましたが、今後に活かせることが山ほどあり、一番成長できました。



3日目。第一ラウンドは早押しクイズで、相方が正解して嬉しかったです。しかし、私は早押しボタンを全国大会でも押すことができず、無念。敗者復活ラウンドでは、直前の学校の考査の影響か、ローソク足と箱ひげ図を間違えたのが馬鹿なことをしたと思いました。準決勝、決勝には進めず、見ているだけでしたが、複雑なルールや展開に楽しませられ、レベルの高さには驚かされました。

1年生でエコノミクス甲子園を経験できて幸運でした。来年も必ず来たいです。また、初めてマンキューを読んで、経済の考え方の面白さを知りました。まだ全部は読んでないのですが、来年は、自分の学んできたことに自信を持って参加できるように、そして早押しボタンを押せるように、これから計画的に勉強していきます。

最後に、エコノミクス甲子園に関わってくれた皆さんに感謝しています。ありがとうございました。

新潟大会代表 新潟県立新津高等学校 1年

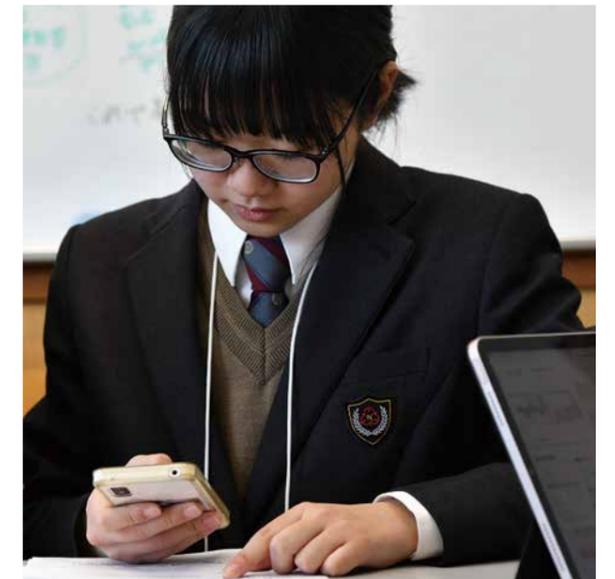
今井 咲

「世の中には高校生で経済の知識をたくさん持っている頭のいい方々がいるんだな」と入学した頃の頃、学校の掲示板に貼ってあるチラシを見て、自分には関係ないことだと通り過ぎていた私が、実際にエコノミクス甲子園に参加することになるなんて、高校生になったばかりの私は夢にも思いませんでした。正直、全国大会に参加する前も今も現実味が全くなく、夢物語のような可能性をいまだ捨てきれません。それほど今までの私とかけ離れた、もったいないくらい素敵で、同時に苦い経験でした。

大会前、私は「なんとかなるだろう、気楽にやればいいや」と甘い考えを持っていました。もともと、明里さんに誘われ、早押しクイズがやりたいという安直な理由でこの大会に参加した私は、経済に対する興味もさほどなく、教材をもらってもマンキューなどの分厚い経済の仕組みについて書かれた本などをあまり読む気になれませんでした。案の定、大会が始まって私は即座に後悔しました。知識も理解も圧倒的に足りていなかったのです。

筆記テストは散々でしたし、ビジネスケースの発表ではタジタジで、同じ班の方々に申し訳ないと思いました。「まだ1年生だからそんな経験だとか頑張ってなかったって」と言い訳をして逃げていた私の足りない部分が顕著に現れた経験でもありました。しかし、自分の未熟さを痛感すると同時に、このエコノミクス甲子園という初めての体験を私は率直に楽しんでいました。怖がって逃げていたことがこんなにもワクワクして、できなくて悔しくて、「もう一回やりたい！」と思える。案外何事も挑戦してみたら楽しいんだなって、この経験を通して一皮剥けたと本気で思えます。

このエコノミクス甲子園を開催して下さった金融知力普及協会様、地方大会を主催して下さった金融機関様、スポンサーの皆様、運営して下さったボランティアの大学生の皆様は心より感謝申し上げます。





富山大会 12月8日(日)開催



優勝チーム 富山高等専門学校
(初出場)
「チーム国ビジ」
小林 颯太・ラパ ニキータ



主催 北陸銀行

参加校一覧

片山学園高等学校、富山高等専門学校、富山県立高岡商業高等学校、富山県立富山商業高等学校、富山県立富山中部高等学校、富山県立大門高等学校、富山県立南砺福野高等学校、富山県立上市高等学校

申込みチーム数 25チーム(8校)

運営スタッフ感想

ご参加いただいた高校生の皆さん、大変お疲れさまでした。富山大会は25チーム49名の高校生に出場いただきました。

昨年よりも多くの方にご参加いただき、会場の熱気に圧倒されました！大人もうなる様な難問に果敢にチャレンジする皆さんの様子をドキドキしながら観戦しておりました。大会を通じて高校生の皆さんが楽しみながら金融・経済について学びきっかけとなっていたら幸いです。

見事優勝された「チーム国ビジ」のお二人、本当におめでとうございます！

北陸銀行はエコノミクス甲子園を通して、未来を担う皆さんを今後も支援してまいります。

富山大会代表 富山高等専門学校 3年

小林 颯太

「井の中の蛙、大海を知る」

第十九回エコノミクス甲子園全国大会、それは私に頭からつま先までの衝撃の稲妻を走らせた。「マンキュー入門経済学」をはじめとする豊富な事前学習教材や、冒険に満ちた東京への旅、多様な背景を持つ好敵手との出会いなど、私はこの大会を通して非常に刺激的な経験をした。それと同時に、以前の自分がいかに井の中の蛙であったのか、無知の知を得ることができたのだ。

特に印象的だったのは、全国大会本番の前日に行われたビジネスケース学習だ。これは異なる学校の学生と共に、政府に提案する架空の財政政策を作成するというものである。彼らの優秀さを目の当たりにし、最初は嫉妬の業火に身を焦がした。しかし、打ち解けた頃には尊敬の気持ちで溢れ、少しでも技を盗もうと議論に食らいついたのであった。彼らの金融知識は、意思決定における論理の中にしっかりと組み込まれ、ホワイトボードでインクを輝かせていた。その光景は、あっという間に時間が経ったあの日の夕焼けと一緒に深く記憶に刻まれている。私も今後は「使える金融知識」を育てることを意識しながら、納得を大切に学習を継続したい。

このように、エコノミクス甲子園は協力と競争の中で、楽しさを感じながら知識を活用する術を身につけることを可能にしている。私が味わった感動は、文章だけでは読者のあなたに伝えきれない。そのため、あなたもこの大会に参加していただけることを願っている。



富山大会代表 富山高等専門学校 3年

ラパ ニキータ

いきなりだが、僕はエコノミクス甲子園に参加できて本当に良かったと感じている。大会本番に限らず、会場にやって来てから富山に帰るまで、僕は刺激を受けっぱなしであった。

最初のエコノミクス大会やかたる大会からして、全国、いや全国どころか海外からやってきた学生とも対決するのが非常に新鮮で、一緒に部屋で暮らす相手チームが発表された時はうまくやっていると少し不安に思ったものだ(杞憂だった)。そして翌朝のラジオ体操で意表を突かれた後は、ビジネスケースで苦渋を舐めさせられた。正直ビジネスケースを作っていたときは本当に今のアイデアで良いのか、スライド作成は間に合うのか、こんなものをほぼアドリブで英語で発表できるのかなどの思考で板挟み状態であり、非常に苦しかった。しかし発表を終えてみると、清々しい気持ちでいっぱいだったのである。考えてみればこの時期は春休みであり、頭を使っておらず、普段の勉強も暗記ばかりであり、「考える」機会が少なかった。そんな中のビジネスケースで僕はかつてないほど頭をフル回転させており、苦しさの中に、間違いなく「楽しさ」を感じていたのである。考える楽しさを再確認させた機会を頂けて、本当に光栄に思う。

とはいえ2日目で燃え尽きたにも近かったのは事実であり、最終日の本番ではもはやニューヨークのことは頭に無く、少しでも結果を残して帰りたいという考えのみであった。筆記試験及び第1・第2ラウンドの結果は芳しくなく、昼ご飯のときは相手と共に通夜のような状態になっていたが、第3ラウンドで意地を見せることができた。自分が15問全問正解したとわかったときは抑えられないほど興奮し、「脳汁が出る」とはこのことなのだと言ったものだ。その後の準決勝、そして敗者復活戦では我ながら惜しくも敗退したが、後悔はない。準決勝までが僕の限界で間違いなかった。2日目まで僕を遥かに超えていると悟った天才・秀才たちの中でトップ10に立てたことを、誇りに思う。ただ今年ノウハウを得た状態で再度出場できたら、より良い結果を残せただろうと考えているのも事実である。来年参加できないことが、残念でならない。

最後に運営の皆様には、僕の金融を始めとする広い分野の知見を高め、自分の能力とその限界を再認識し、全国の傑物たちとつながって交友関係を結ぶ機会を与えてくださって、心から感謝の意を表したい。第19回エコノミクス甲子園は、間違いなく僕の記憶に残り続けるイベントとなった。





石川大会 12月14日(土)開催



優勝チーム 石川県立金沢泉丘高等学校
(11年ぶり2回目)
「他力本願ズ」
高田 涼真・重谷 昂伯

主催 北國銀行

参加校一覧

鵬学園高等学校、金沢大学人間社会学域学校教育学類
附属高等学校、石川県立金沢錦丘高等学校、石川県立
金沢泉丘高等学校、石川県立金沢商業高等学校、石川
県立小松高等学校、小松大谷高等学校

申込みチーム数 22チーム(7校)

運営スタッフ感想

石川大会にご参加いただいた高校生の皆さん、ありが
うございました。本当にお疲れ様でした。
昨年準優勝だった金沢泉丘高等学校「他力本願ズ」が
今年は優勝！リベンジおめでとうございます！ご参加
いただいた4名皆さんの真剣なまなざしや悔しそう
な表情、そして正解したときはじける笑顔、どれも
スタッフの心に残っています。素敵な瞬間にご一緒さ
せていただき誠にありがとうございました。皆さんに
とっても素敵な思い出となっていれば幸いです。
この大会が「金融知力」を身に着けるきっかけとなり、
今後もさらに学んでいかれることを願っております。



石川大会代表 石川県立金沢泉丘高等学校 2年
高田 涼真

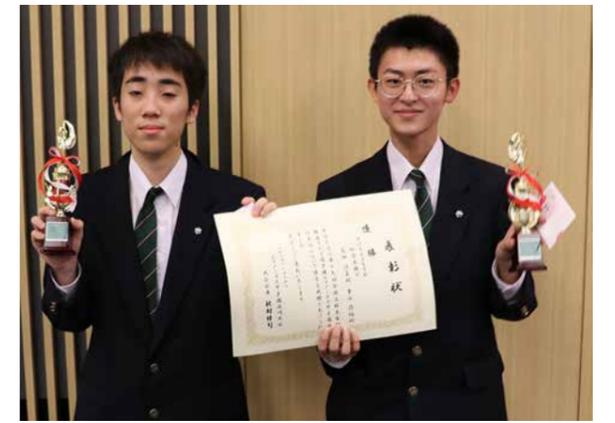
私はエコノミクス甲子園全国大会に出場し、「挑戦する
ことの大切さ」を実感しました。地方大会を勝ち抜いた
ことで自信を持って臨みましたが、全国の競合たちと
対戦する中で、実力不足を痛感する場面が多くありま
した。それでも諦めずに最後まで戦い抜くことで、多
くの学びを得ることができました。特に印象に残って
いるのは2日目のプレゼンです。与えられた課題を限
られた時間で即席のメンバーで考え、発表することは
非常に難しく感じました。しかし、他の県の代表と話
し合いながら考え抜いた経験は、自分の思考力とコミュ
ニケーション能力を鍛える貴重な機会となりました。
また、全国大会では他にも多くのライバルと出会うこと
ができました。それぞれのチームが色々な考え方で問
題に取り組む姿をみて、自分の学び方や考え方を直
すきっかけになりました。今までの勉強は知識の詰め
込みに偏っていたことに気づき、これからはより実践
的な学びを意識したいと感じました。結果として、決
勝進出は果たせませんでした。この大会を通じて得
た経験は何にも代えがたいものです。挑戦しなければ
得られなかった学びや出会いがあり、大会に参加でき
たことを本当に良かったと思っています。応援してく
ださった先生や家族、そして運営スタッフの皆様には感
謝しつつ、これからも学び続け、成長していきたいです。



石川大会代表 石川県立金沢泉丘高等学校 2年 重谷 昂伯

初めに、第19回エコノミクス甲子園が無事開催・終了
できたことを嬉しく思い、運営のために尽力してくだ
さったエコ甲スタッフおよび協賛の銀行、企業様に心
より感謝を申し上げます。

さて、苦節二年、去年の県大会での雪辱を今年の大会
では晴らすことができ、無事全国大会に出場するこ
とができました。県大会決勝での相手の戦術、「年末調整」、
優勝の光景は、今でも鮮明に残っています。私たちは
この経験を活気にさらなる研鑽に励みました。そして、
散っていった好敵手と仲間の思いを胸に臨んだ全国大
会はまさに波瀾万丈というに相応しいものであったと
自覚しています。一日目、浅草寺観光を緊急で行うこ
とになり、上野駅で下車することになりました。(これ
は90%ほど相手のせいです)結果、集合場所への到着
がおくれエコノミカ大会では不完全燃焼となりました。
二日目、昨今深刻になっている高度経済成長期に整備
された社会インフラの老朽化問題にどのように対応し、
その財源を確保するのかグループディスカッションを
通して考えプレゼンを行いました。プレゼンは両班秀
逸であったと自覚していますが、良い結果は残せず、
苦虫を噛み潰したような気持ちになりました。そして、
大会本番の三日目、敗者復活では歯車が少しずつ噛み
合いませんでした。逃した魚は大きかったように感じ
ます。
結論として、最後に言いたいこと、それは私たちのよ
うなチームを全国にいかせることを来年からは県大会
で防いでください。そして、素晴らしい機会をありが
うございました。





福井大会 12月15日(日)開催



優勝チーム 福井県立藤島高等学校
 (4年連続9回目)
 「アダム・スミス」
 川村 恭平・林 瑞希



主催 北陸銀行

参加校一覧

福井県立高志高等学校、福井県立藤島高等学校、福井県立武生高等学校、福井県立敦賀高等学校、福井県立勝山高等学校、福井県立丹生高等学校、敦賀気比高等学校

申込みチーム数 24チーム(7校)

運営スタッフ感想

ご参加いただいた高校生の皆さん、大変お疲れさまでした。福井大会は24チーム48名の高校生に出場いただきました。

昨年に引き続きご参加いただいた方も多く、会場の熱気に圧倒されました！大人もうなる様な難問に果敢にチャレンジする皆さんの様子をドキドキしながら観戦しておりました。大会を通じて高校生の皆さんが楽しみながら金融・経済について学びきっかけとなっていたら幸いです。

見事優勝された「アダム・スミス」のお二人、本当におめでとうございます！

北陸銀行はエコノミクス甲子園を通して、未来を担う皆さんを今後も支援してまいります。

福井大会代表 福井県立藤島高等学校 2年

川村 恭平

やはり全国はすごいなとただただ感じました。やはりそれが一番よく実感できたのはプレゼンです。私の学校でも研究という授業内で友人たちと1年間経済に関する研究を行いました。そこではやはり知識の差がありメンバー内で足取りが合わないということが頻りに起こりましたが今回はそんなことなく様座な視点を他のメンバーからもらいながらプレゼン制作を行うことができました。他のグループの発表を聞くのもすごく楽しくて普段は交流できないような人の貴重な意見を聞いてとても良かったです。また他県さんとホテルで同室できたのも交流や知識を深めるうえで非常に役立ちましたし大学に行ってからの人脈という点でも非常に重宝したいものだと思います。大会運営も非常にスムーズで不便を全く感じずただただ楽しめたことがとても嬉しいです。僕は経済学という学問自体にすごく興味があって金融知力というのは大人になって使うということは理解しているんですけどなかなか興味を持って学習に取り組むというのができなかったのですが今回の活動を通して興味を持ってそういう事を学びに行けるようになったのは自分の中での一つ大きな成長ではないかなと思っています。ペアと協力してという大会形式もただの個人プレーにつながらず作業として学ぶのではなく楽しみながら学ぶという学習の最も良い方法になっていてとてもいいと思いました。来年度は出れませんがこれからも興味を持って様々な事を学びたいと思っています。



福井大会代表 福井県立藤島高等学校 2年

林 瑞希

今回、エコノミクス甲子園全国大会に参加して最も良かったことは、多くの人々と出会えたことです。地元では経済や金融に興味を持つ友人がほとんどいませんでしたが、全国大会にはそれらの分野に強い関心や知識を持つ人が集まっており、とても貴重な経験になりました。

特にプレゼンが楽しかったです。テーマは「老朽化したインフラにどのように対処すべきか」でした。私は当初、「既存のインフラを削減すべきだ」というコンセプトを考えていましたが、それをチームメンバーに伝えたと、彼らがさらにアイデアをブラッシュアップしてくれました。経済の知識を前提とした議論ができ、とても有意義な時間を過ごせました。

与えられた準備時間は半日しかなく、初対面のメンバーと短時間でチームとしてまとまる必要がありましたが、協力し合った結果、プレゼンを成功させることができました。これは、経済という共通の関心を持つ仲間が集まる全国大会というプラットフォームがあったからこそ成し遂げられたことだと思います。その結果、私たちのチームはプレゼン部門で1位を獲得することができました。この協力の末に得た達成感は、一生忘れることができません。

また、プレゼン以外の場面でも多くの人と出会うことができました。こうした出会いは私に大きな刺激を与え、エコノミクス甲子園への参加がかけがえのない思い出となりました。そのため、将来はスタッフとしてこのイベントに関わりたいと感じています。実際、大会の運営はスタッフの皆さんの支えによって成り立っていることを強く実感しました。だからこそ、次世代の高校生たちが貴重な経験を積めるよう、私も彼らを支える立場になりたいと思います。





山梨大会

12月1日(日)開催



優勝チーム 駿台甲府高等学校
(5年連続5回目)
「預金ちゃんの家」
湊 叶多・村松 佑真



主催 山梨中央銀行

参加校一覧

駿台甲府高等学校、山梨県立都留興譲館高等学校、山梨県立甲府昭和高等学校、山梨県立甲府城西高等学校、山梨県立甲府南高等学校、山梨学院高等学校

申込みチーム数 14チーム(6校)

運営スタッフ感想

山梨大会は今回で14回目の開催となり、6校・14チームに参加いただきました。

実力が伯仲するなか、白熱した戦いが繰り広げられ、予選第1位で決勝ラウンドに進出した駿台甲府高等学校の1・2年生チーム「預金ちゃんの家」が優勝。

予選第2ラウンドでは、参加者から「問題が難しい」という声が上がりましたが、2人で協力し合いながら回答していました。参加者からは「もっと勉強が必要だと思った」「来年も参加したい」などの感想をいただきました。

ご参加いただきました高校生の皆さま、開催にあたりご尽力いただいた関係者の皆さま、ありがとうございました。皆さまのご協力で笑顔と充実感に満ちた素晴らしい大会になりました。今後も、高校生の皆さまが金融経済について興味を持っていただくきっかけ作りの場として、山梨大会を開催していきたいと思っております。

山梨大会代表 駿台甲府高等学校 2年

湊 叶多

山梨県勢初の優勝という大快挙を成し遂げることができました。その濃密な1日を振り返ります。

エコ甲のスケジュールはタイトで、素早く行動をしないと間に合わないほどです。朝食後、荷物を預け、ホール客席へ。開会式が終わると、もう第1ラウンドです。3チーム1組で3問ずつの早押しクイズ。たった3問を奪い合うスピード勝負です。私は15組中14組目で最後の方だったのに待ち時間はあっという間でした。第1問は正解しましたが、2問目は知っていたのに横浜SFに押し負け、3問目は答えが浮かびませんでした。「もう終わったのか」という感覚でした。前日の筆記ラウンドやビジネスケースと比べると一瞬で、だからこそ集中しなければいけなかったのに、全力を出せなかったのは悔しいです。

第2ラウンドでは力を出しきれませんでした。問題がわからない上に、ポイントを倍にする「レバレッジ」を塩漬けにしたまま全問題を終えてしまったのです。

昼食後に第3ラウンドのルールが説明されました。60秒間、次々出される問題に選択肢の札で答えるというもの。発表された私たちの予選順位は20位と想定より高く、第3ラウンドは2組目となりました。この組から勝ち抜けられるチームは少ないものの、ひとつ前の組の様子を見られるという点で、やりやすかったと思います。

先に解答席に座ったのは相方の村松くん。僕は後ろから見守っていました。始まると次々に出題されます。ひとつひとつ考えては追いつけないスピード。あっという間に60秒が経過しました。次は私の番です。村松くんとバトンタッチし、解答席に座ります。始まると、半ば反射的に選択肢の札を上げました。15チーム中3チームの勝ち抜けが発表される時、うっすら自分たちが呼ばれるのではと期待していましたが、駿台甲府の名前は呼ばれませんでした。



仕方がない。準決勝は、友達のいる静岡県の沼津東高校や、山口県の慶進高校を応援しようと決めたのです。決勝進出を決めた3チームは、静岡の沼津東、北海道の旭川東、そして島根の松江高専でした。以前から沼津東のふたりとは交流があり、クイズで繋がった友達でした。なので、沼津東には優勝してもらいたい！と思っていました。

「敗者復活ラウンドを行います！」

それがあっては知っていました。しかし復活のチャンスがあるにせよ、42チームからたった1チームのため、その枠に滑り込むなんてできないと思っていました。

敗者復活ラウンドでは山梨大会主催の山梨中央銀行の方と一緒することになりました。間違えたら脱落する3択クイズ。予選順位の低位から参加する方式で、20位だった私たちは前から4番目で舞台袖に待機していました。

第1問で3チームが脱落。ほとんどのチームが正解のエリアに固まっていて、列の前にいる3チームが舞台上に上がります。そして私たちが列の先頭の問題で、舞台上の全チームが脱落。「まさか!？」が起こったのです。私たちが舞台上にいたら、答えを知っていても正解を選ぶことはできなかったでしょう。

私たちが先頭に残りの全チームが舞台上に上がります。何問か後、既に相方と別れ、残りが私と銀行の方だけになった時、運命を決めたのは「最低賃金が1000円以上の都道府県の数はいくつ?」でした。選択肢は「A:19以下」「B:20」「C:21以上」。辺りを見ると、ほとんどのチームがBかCを選択していました。私は「山梨県の給与水準は全国的に悪くはないだろう。山梨県の最低賃金が1000円に満たないんだから、全国的に1000円以上というのはレアだろう。」と考えました。時間ギリギリにAに移動し正解したのです。そうして生き残り、最後に2人残っていたのは私たちのチームだけでした。

まさか、私たちが敗者復活。喜びのあまり雄叫びを上げました。私が決勝に上げられるなんて信じられない思いでした。

決勝直前の舞台裏で、先に決勝進出を決めていた3校と顔を合わせました。これから争うのに、みんなの口から出てきたのは「おめでとう」の言葉でした。既に敗者復活の喜びで涙が止まらないのに、なんてことを言ってくれたのでしょうか。復活したからには頂点を狙わなければなりません。

決勝のルールは様々な要素が入り組んだ重厚なものでした。第1問は正解したものの、そこから失速。途中で沼津東がエリアを独占し、私たちと4倍近い差を付けていました。のこり2問。既に勝者は決まったと思っていましたが、駿台甲府の単独正解。「あるか?」と思いました。沼津東の独占を解除し、私たちが1位に浮上。あと1問を守りきれば優勝です。しかし点数は横並びで、1問でひっくり返ります。最終問題は正解がマストだと

思いましたが、全員不正解。点数の変動はなく、私たちの優勝が決まりました。

最後「クロージングオーション」を正解して決めたかったですが、ともあれ、こうして私たちが第19回エコノミクス甲子園の優勝チームになったわけです。

この結果は私たちの実力だけではありません。敗者復活戦では銀行の方と相談できましたし、決勝では問題の運に恵まれました。しかし優勝した以上はその名誉を誇りに生きていこうと思います。

相方の村松くん、仲良くしてくれた参加者の皆さん、大会運営スタッフの皆さん、他にも私たちを支えてくれた多くの人に感謝を伝えたいです。この素晴らしい大会に参加させていただき、さらには優勝することもできて本当に嬉しいです。これからもエコノミクス甲子園が続き、多くの後輩が参加してくれることを願います。

山梨大会代表 駿台甲府高等学校 2年

村松 佑真

エコノミクス甲子園に出場して、楽しかったのはもちろん、それ以上に自分に至らぬ点を自覚させてくれた大会となりました。

初日は完全に周りのレベルの高さに圧倒されてました。出場者全員が難解な経済学用語を自在に操り、自己主張を行っていて、自分があるべき場所ではないのかと感じていました。それは最終日まで変わりませんでした。結果的に多くの刺激を得ることができたように感じます。

2日目は朝から愉快的なラジオ体操や、筆記試験、プレゼンテーションなど盛りだくさんで到底語り尽くせないほど多くの経験をしました。特にプレゼンテーションでは英語コースを選んだため、特別選考の方々と同じグループになって課題に取り組みました。グループの全員がアグレッシブに意見を言っていたのが非常に印象に残っています。英語は得意なつもりでしたが、実際にプレゼンテーションはチームメイトの助けがなければ成立させることはできなかったと強く感じます。また帰国子女の方々の外向性にも感心しました。

そして最終日は一生忘れられない日となりました。筆記テストでもプレゼンテーションでも苦戦して相方の足手まといになり、優勝できるとは夢にも思っていなかったのが敗者復活からの劇的勝利は一生残る宝物になったように感じます。今は相方の努力と優しさに感謝でいっぱいです。金融知力が圧倒的に足りていなかった僕の勉強を手伝ってくれ、ミスも咎めず、最後まで明るく躍進し、全国優勝まで導いてくれた相方をなにより讃えたいです。

3日間を通して、温かい他の出場者や相方、大会スタッフさんがいなければこの結果はありえないものでした。感謝を忘れずにこの大会で得たことを今後活かしていきたいと強く感じます。



長野大会

12月1日(日)開催



優勝チーム 長野県松本県ヶ丘高等学校
(初出場)
「縣陵政経研究会」
瀧澤 健斗・八子 悠生



主催 八十二銀行・長野銀行

参加校一覧

長野県長野高等学校、長野県野沢北高等学校、長野県松本県ヶ丘高等学校、長野県松本深志高等学校、長野県屋代高等学校、長野県上田高等学校、松本秀峰中等教育学校

申込みチーム数 10チーム(7校)

運営スタッフ感想

長野大会は今年で12回目を迎え、7校10チーム20名の高校生に出場していただきました。集合形式で開催し、第2ラウンド、決勝ラウンドでは会場全体が熱気に包まれていました。特に決勝ラウンドでは最終問題直前で大逆転が起き、盛り上がる展開となりました。参加された高校生からは「すごく楽しかったです」、「来年もぜひ出たいです」という声をいただき、スタッフ一同大変嬉しく感じます。今後もエコノミクス甲子園を通して、長野県の未来を担う高校生を支援して参ります。参加いただいた高校生の皆さま、ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

長野大会代表 長野県松本県ヶ丘高等学校 1年 瀧澤 健斗

私は今回の第19回エコノミクス甲子園が初参加でした。元々、経済や政治分野に興味関心があり、友人を誘って大会に応募しました。

全国大会1日目では、18時から交流会がありました。交流会ではエコノミカや「お金の達人百人一首」などで全国大会出場者と親交を深めました。私はエコノミカをプレイした経験があまりなく、緊張していましたが対戦相手に教えてもらいながらやっとの思いで1勝することが出来ました。

2日目は、ビジネスケース実習がありました。もちろん初対面のメンバーとチームを組み初めのうちは緊張していましたが、日本の将来や政治・経済について互いに熱く語り合う内に自然と打ち解け、自分たちなりの解決プランを提示することが出来ました。同年代の人の意見を聞けるのは貴重な機会であり、非常に良い経験となりました。

3日目は、ついに全国大会クイズ本番です！予選大会とは迫力が全く異なり、レベルの高さを痛感しました。早押しクイズでは、2問ほど答えがわかったものの早押しで押し負けてしまい、非常に悔しい思いをしました。その後も必死の思いでクイズに食らいつき、なんとか31位の順位を得ました。30位でないのが少し残念ですが、初参加・初全国出場としては健闘したと思います。

全国大会は、他校の人と戦い、友達になり、共に金融知力を高め合う非常に有意義で貴重な3日間でした。この経験を生かして、今後も金融や経済に関する知識を深めていきたいと思っています。



長野大会代表 長野県松本県ヶ丘高等学校 1年 八子 悠生

私は、この3日間は、人生で初めての全国大会だった。1日目は各都道府県の代表たちが会場に集結した。初出場であることもあって会場は緊迫した雰囲気ではないかと心配していた。しかし、その必要はすぐに要らないものとなった。「エコノミカ、やるの初めてですか?」という会話から始まり、初日のレクリエーションでは、全く知らない人と一瞬にして打ち解けることができた。代表のみんなが同じ心境だったことに安心した。

2日目は筆記ラウンドから始まり、その後メインイベントであるビジネスケースが行われた。テーマに関して意見を交わし、スライドを作成するという、学校の探究の授業のような活動だったが、今回の話し合いはその類の活動の中でも特に楽しかった。全国の金融経済好きたちで集まっていたため、とても濃い内容まで話し合うことができたためである。一度に六時間の話し合いをするという機会もなかなかなかったので、少し疲れてしまったが、それほどに激論を楽しむことができた。

前夜祭での立食パーティーでは、みんながフレンドリーだったので、気楽に話しかけることができ、他の地方の言葉や文化などと触れることができて楽しかった。

本番の3日目は、YouTubeに掲載されていたような、大きなセットが印象的だった。とても緊張したが、「時間衝撃」や、「九死一生」といった、工夫されたルールで楽しく大会に参加できた。正解できた問題はあったものの、準決勝進出は果たせず、全国制覇という壁の大きさを思い知らされる結果となってしまい、正直悔しかった。

この濃密な3日間を通して、甲子園出場前よりもっと金融経済のことについて興味が湧いた。その最も大きな理由は、このイベントの企画の全てが楽しかったからである。

周りや会場からのプレッシャーが少なかったため、初出場であっても笑顔で参加できて良かった。





岐阜大会

12月8日(日)開催



優勝チーム 岐阜県立岐阜高等学校
(2年連続 12回目)
「さるぼぼ係数」
森島 啓貴・馬淵 志音



主催 十六銀行

参加校一覧

鶯谷高等学校、聖マリア女学院高等学校、岐阜県立海津明誠高等学校、岐阜県立恵那高等学校、岐阜県立岐阜高等学校、岐阜県立岐阜北高等学校

申込みチーム数 16チーム(6校)

運営スタッフ感想

岐阜大会は今年で15回目を迎え、6校16チーム32名の高校生にエントリーいただきました。本物の早押機を押す瞬間や、MCにインタビューされるタイミングなど、参加者の皆さんにはドキドキ・ワクワク感を会場で思う存分に味わっていただきました。参加者からは「経済について詳しく学べ、とてもためになる大会でした」「去年のリベンジとして参加しましたが、決勝ラウンドに進出できて嬉しかった！全国まであと5点差で負けたのはとても悔しい。来年も機会があれば参加したいです」「経済についての勉強をしてみても、知らなかった知識をたくさん得ることができたので良い機会になった」(アンケート原文)という感想をいただき、スタッフ一同嬉しく感じております。今年から特別賞に「ベストコスプレ賞」を新設しました。スタッフ自身も学生時代のコスチュームに身を包み会場を盛り上げました。今後も金融リテラシー向上に貢献する取り組みとして、高校生に金融経済を楽しく学んでもらえる場を提供できるよう、本大会の開催に取り組んでまいります。

岐阜大会代表 岐阜県立岐阜高等学校 2年
森島 啓貴

2年連続の全国大会への出場を目指して挑んだ今回のエコノミクス甲子園。昨年の悔しさをバネにして1年間かけて勉強しました。経済の勉強を通して新たな知識が得られることがとても楽しくスムーズに勉強を進めることができました。

待ちに待った岐阜大会。着実に正解を積み重ねることで全国大会への切符を掴み取ることができました。2年連続で全国大会へ出場できることへの喜びとこれまでの努力が1つ結果として現われたことに安堵しました。

そして迎えた全国大会。会場に入ると全国大会特有の緊張感がありました。岐阜県の代表として参加しているのだという責任感をより強く感じ身の引き締まる思いでした。2日目のビジネスケースでは難しいテーマに対して仲間と意見を活発に交流し、解決策を練り続けました。短い時間の中で1つのプレゼンを作りきって無事発表を終えることができ達成感がありました。早くも全国大会3日目、2ndラウンドまでを終えて7位と昨年よりも良い順位で嬉しく思いました。3rdラウンドでは、強豪校が集まる中で勝ち抜け準決勝へ進出することができました。準決勝では、一時トップに躍り出る場面もありましたが、残念ながら決勝に進むことはできませんでした。全国大会を戦う中で、「あの時勝負を懸けていたら...」「敗者復活で動かずにいれば...」というように今でも後悔している場面が数多くあります。1つ1つはどれだけ小さなことでも一瞬の気の迷いや些細な決断が後になって結果を大きく変化させてしまうのだということを思い知らされました。人生の



中で重要な教訓を学べたような気がします。

エコノミクス甲子園を通して多くの刺激を受け、貴重な体験をすることができました。これからの時代は何をするにしても経済や金融に関する知識が必ず必要になると思います。経済の力でより豊かな人生を切り拓いていけるよう、これからも経済についての学習を続けていきたいと思っています。

岐阜大会代表 岐阜県立岐阜高等学校 2年
馬淵 志音

1日目

初めての全国大会という事もありとても緊張していましたが、エコノミクスを通して緊張を和らげることができました。その後のお金の達人一首では相方と協力して楽しみながらできたので良かったです。

2日目

この日の朝はラジオ体操から始まりました。事前にここ2年は行われていないと聞いていたので今年も無いと思っていたのですが前夜にあると発表されて驚きました。朝食の後に行われた筆記ラウンドは思ったよりもずっと難しくかなり苦戦しました。計算問題を取り切れたことが唯一の救いでした。ビジネスケースラウンドは最初どのように進めればよいか分かりませんでした。なんとか時間内に意見をまとめてプレゼンを完成させられたので良かったです。時間がギリギリで発表の練習ができず、ぶっつけ本番だったのが心残りです。また、発表後の質問にも上手く答えられず、終わったあとこう言えばよかったなと後悔しました。前夜祭は唐揚げが美味しかったです。

3日目

いよいよ全国大会本番。1度エコノミクスで和らいだ緊張が再び振り返ってきました。第1ラウンドは思うようにいきませんでした。第2ラウンドで巻き返してなんとか事前順位7位という好スタートを切れたと思います。昼食中に第3ラウンドが個人戦だと発表されて戦慄しましたが、知識を振り絞ってなんとか勝ち抜けられてとても嬉しかったです。準決勝ラウンドでは、中盤まで1位でかなり調子が良かったのですが、その後思うように攻められず、追いつかれてきたところで焦って大失点をしてしまい、最終的に勝ち抜けること

はできませんでした。「中盤もっと攻めていたら」と何度も後悔しました。敗者復活ラウンドでは全滅を恐れて相方と別れ、早々に脱落して相方を見守る形となりました。結果的に決勝進出は叶いませんでしたが、最後の最後まで残って頑張ってくれて、夢を見させて貰いました。

全国大会の3日間、一生の思い出に残るようなとても有意義な経験だったと思います。運営して下さったスタッフの皆さん、本当にありがとうございました。





静岡大会

12月8日(日)開催



優勝チーム 静岡県立沼津東高等学校
(2年ぶり2回目)
「掛け捨て御免」
倉田 凱生・高月 利凰

主催 静岡銀行

参加校一覧

静岡県立静岡高等学校、静岡県立裾野高等学校、静岡県立焼津中央高等学校、静岡県立浜松西高等学校、静岡県立浜名高等学校、静岡県立沼津東高等学校、静岡県立掛川西高等学校、静岡県立島田商業高等学校、知徳高等学校、浜松学芸高等学校

申込みチーム数 27チーム(10校)

運営スタッフ感想

今年は、27チーム54名の多くの学生さんにご参加いただきました。

開会式前には緊張した様子も見られましたが、早押しクイズでは決勝進出をかけて盛り上がりを見せてくれました。

決勝では、問題の正答率が高いことはもちろん、希望ボーナスの設定により非常に白熱した戦いがありましたが、着実に希望ボーナスを積み上げた、沼津東高校の掛け捨て御免チームが見事優勝を勝ち取りました。

おめでとうございます！

学校では深く学ぶことの多くない分野の問題も多く、中には銀行員にとっても難しい問題もある中、皆さん事前に勉強して臨んでいただいたことがわかりました。学生のうちから、経済や社会を学ぶ非常に良い機会だと感じています。

来年以降も良い大会にできるようスタッフ一同取り組んでまいります。



静岡大会代表 静岡県立沼津東高等学校 2年
倉田 凱生

白い光の中にいた。壇上を照らす光の向こうから、多くの視線が向けられていることを意識した途端に、鼓動が早くなる。緊張に掻き混ぜられる思考を鎮めようと、深く息を吸い、静岡を発つてからの3日間を思い返す。

JRの長い新幹線を降りると人の海であった。苦もなく階段を登るリュックサックの相方とはぐれないよう、キャリーケースを抱えて追い継り、なんとか会場に着いたときには疲労が肩に重くのしかかっていた。次の日に備えて早く寝たいと思っていたが、初日のレクリエーションも楽しいものだった。皆、心を開いているのが感じられ、安心して話すことができた。

学校行事で一度泊まったことがある、多少見知った天井だった。二日目は、一風変わったラジオ体操で脳を覚まし、筆記テストに臨んだ。大問1は細かい知識まで問われ、自信を持って答えられなかったが、理論が問われた大問2や計算問題の大問3は手応えを感じられた。英語が不安だったが、英和辞書を数回使っただけで杞憂に終わった。ビジネスケースのメンバーは皆、英語で受験しているだけあって頼もしかった。手慣れた様子で話し合いを進める面々に、経験の差を思い知らされた。五時間でなんとかまとめ上げ、プレゼンに臨んだ。ギリギリまでスライド作りに時間を取られ、準備不足は否めなかったが、グループ2位になれて安心した。部屋に戻ると一気に疲れが押し寄せ、すぐに眠った。

三日目。一昨年先輩方に並び準決勝進出を目標にしていた。ルールは当日に明かされた。第1ラウンドは誤答のペナルティが重かったため、攻めたプレイングはせず10点に甘んじた。第2ラウンドは点数2倍のレバレッジを活かし組内1位となった。その後、予選順位が発表され、1位だった。筆記の手応えは良かった



が、第1ラウンドで水をあけられたと思っていたので、驚いた。蓋し、二人とも網羅的に知識を持っていたことが要因かもしれない。第3ラウンドもペアの得点を掛け合わせる方式だったため難なく抜けることができた。目標の準決勝進出を成し遂げたが、予選1位という望外の結果もあり、更に勝ち進みたい欲が出てきた。準決勝は知識を前提として、心理戦やギャンブル性もある面白いルール。自分達の予選順位から、知識の面で僕達に勝るペアはそういないと考え、着実に正解し点数を稼ぎつつ、確実な場面で大きく張る戦略を立てた。これが上手くはまり、前フリを相方が押さえていたクズネッツで大きく得点した。危なげなく準決勝を突破した。敗者復活が行われている裏で、他の決勝進出ペアから、決勝まで行けると思わなかったという声を聞いた。同感だった。それでも決勝まで進めたからには優勝したい、ニューヨークに行きたいと思った。壇上を見ているのは、この3日間で交流した人達だと考えると、緊張が和らいだ。落ち着いてきた頭で、決勝のルールについて考える。準決勝同様、知識と戦略性が試される面白いルールだ。天秤の傾いた側の点数が低く、持ち上がった側の点数が高くなるルール上、持ち上がった側に、正解で得た全てのペンライトを吊るすのが理想だが、他の3チームに左右されるため難しい。ただ、決勝でも他のチームに知識で勝る自信はあった。相方と話し合い、天秤がどちらに傾いても勝てる配置を目指した。10問中6問が終わり、状況は理想的だった。上がった側には得点2倍の障地を、下がった側には重りと、傾きが変わった際の布石を置いた。目指していたどちらに転んでも勝てる配置に近づいてきた。ニューヨークが目前にちらついている。勝利の天秤はこちらに傾き、得点の天秤は反対に傾いている。7問目が読み上げられる。投資の用語を問う問題だった。経済理論や財政を中心に対策していたため、その用語は押さえていなかった。敗者復活で進出した駿台甲府だけが正解していた。駿台甲府は単独正解の特権で自分たちの重りと僕たちの重りを入れ替えた。やられた、と思った。障地を崩され大きく得点を失った僕達を抜き、駿台甲府が一気にトップへ躍り出る。残り2問。単独正解ができれば再び逆転できる。問題の難易度は段階的に上がっており、その分単独正解のチャンスも増える。9問目、聞き覚えはあるが思い出せない。後がなくなった10問目、知らない単語だった。悔しかった。駿台甲府がいいタイミングで単独正解を決めたというもあるが、最後3問で一つでも知っていれば勝てた。それが悔しかった。

目標を大きく超える3位という結果の喜びと、少しの所で勝ち切れなかった悔しさがないまぜになったまま、トロフィーと賞状、そして景品に犬のぬいぐるみがつ

いたストラップを受け取った。客席に戻り、ストラップの犬を弄びながら、ニューヨークへの旅券を受け取る駿台甲府を眺め、勝者と敗者の差を実感させられた。どれだけ惜しくとも、敗者は犬のストラップしか貰えない。

静岡大会代表 静岡県立沼津東高等学校 2年
高月 利凰

全国大会に向かう新幹線で過去3年分の参加者の声を読み、様々な情報を得た。筆記試験は地方大会から難易度が上がって計算問題が出ること、3日目のルールは独特でかつ運要素もあること。この大会はほとんどの情報が直前で公開されるが、その不安を減らせたことが、3位という好成績につながったと思う。ここからは移動中の僕が知りたかった情報と感想を書く。

今大会は、筆記、プレゼン、クイズの3つのラウンドから予選順位が決まり、そこから様々なルールのクイズを行う形式だった。筆記は、大問2つが記号問題、1つが計算問題だった。計算は高1の数学だったので特に言うことはないが、先に解くのがおすすめらしい。来年難化したら申し訳ない。記号は、マンキューを読んで経済の基礎を理解する、雑学的な知識も抑える、有名な指標の計算方法を覚えるなどが対策だろうか。プレゼンテーマはインフラ老朽化の問題に対する解決策の提案で、時間が少ないこともあり、既存のアイデアや提案を補強するようなグループが大半だった。どれだけ資料を読んでスライドに詰め込んだところで、短いプレゼン時間で全てを伝えるのは無理なので、話す練習に時間を回すのが得策だと感じた。僕のグループは集団の中で1位の評価だったが、要因は大きく2つあったと思う。1つは他チームと被らない主張、これは別に独創的じゃなくても大胆でネット上になればいい。もう1つはチームにディベート部がいたということ、つまり運である。配点が公開されてない以上予想ではあるが、プレゼンは順位に直結するのでぜひとも頑張ってもらいたい。クイズは競技クイズの経済問題を覚えていれば十分だろうが、実践的なテクニカル分析やその用語、法律系は追加で補強する必要があると感じた。とにかく時間がある人は証券会社が公開している用語集を見るのがおすすめだ。今大会の全体の感想は「相方ありがとう、そしてごめん」だ。県大会は、筆記も決勝もほとんど相方の活躍で、僕がいなくて分からなかった問題は2問ぐらいだった。全国大会は多少改善されたが、それでも決勝の大逆転負けは9割僕側のせいだ。決勝で駿台甲府に単独正解を取られた問題の答えは何度も目にしていたし、少しでも復習していたら思い出せたはずだ。最後にこの素晴らしい大会を開催してくださった運営、協賛企業の方々へ感謝を述べたい。



愛知大会

12月8日(日)開催



優勝チーム 愛知県立江南高等学校
(初出場)
「井戸水」
清水 肇・井戸 優作



主催 あいち銀行

参加校一覧

愛知県立西尾高等学校、愛知県立江南高等学校、愛知県立愛知総合工科高等学校、愛知県立一宮高等学校、愛知啓成高等学校、名古屋市立桜台高等学校、名古屋大学教育学部附属高等学校、名古屋国際高等学校、享栄高等学校

申込みチーム数 16チーム(9校)

運営スタッフ感想

愛知大会にご参加いただいた高校生の皆さん、高校生にエコノミクス甲子園を紹介して下さった先生方、応援に駆けつけて下さった先生方、本当にありがとうございました。

今年も愛知大会は大変盛り上がりしました！リベンジに挑んだチームやクイズ研究会のチームも決勝に残り、強者ぞろいの決勝ラウンドでしたが、熱戦の結果、序盤からトップを走っていた江南高校が見事優勝を勝ち取りました。

そして、今年は高校生の皆さんがそれぞれ着てくれたコスチュームがより一層会場を盛り上げてくれました。

何より今年も参加者の皆さんの楽しむ姿を見ることができ、スタッフ一同大変嬉しく思います。また来年も、地元高校生の皆さんが楽しんで金融・経済を学んでいただけるよう運営してまいりたいと思います。

愛知大会代表 愛知県立江南高等学校 2年 清水 肇

私のエコノミクス甲子園との出会いは部の顧問からの紹介でした。現在私は学校のクイズ研究会に所属しています。実は金融経済の分野はそれほど興味はなく、どちらかと言えば苦手としていたジャンルでもありました。ある日顧問の先生からこの大会への参加を勧められました。初めは思い作り程度のきっかけだったかと思いますが、ペアを組んだ後輩の井戸とともに対策を重ねていくうちに段々と熱が入っていき、遂に地方大会を優勝することができました。

全国大会ではクイズの世界で知り合った友人も多く、普段はつながることのできない交流を持つことができました。

1日目のエコノミカや百人一首大会は初対面の仲でも互いに打ち解けあう素晴らしい機会になったと思っています。

2日目の初めはラジオ体操から。正直面倒くさいと思っていましたが、見事に裏切られました。次回大会以降も実施するかは分かりませんが、続けてくれるようでしたら嬉しく思います。

筆記ラウンドは骨のある問題群で、穴のない対策をしてきた者が結果を出せる良いパーパークイズだったと感じます。

プレゼンテーションは望外の1位を獲得。何時間もチームで集中した甲斐がありました！



全国大会本番は無念の第3ラウンド敗退となってしまいましたが、それ以上に得るものが多かった大会だと感じています。何より、決勝に進出した4校がクイズで知り合った仲間であったり、プレゼンテーションで同じチームのメンバーであったりと、この3日間に関係を深められた友達であったことを非常にうれしく思います。

来年度は流石に受験勉強にシフトするので今年でラストイヤーでした。昨年度は参加していなかった身としては、大会の存在を知らなかったことを非常に後悔しています。今は後輩の井戸が来年度の活躍を願っています。

この大会を通し、知る由もなかった知識と出会い、出会うこともなかったであろう仲間と繋がることができました。

エコノミクス甲子園のますますの発展を願い筆を擱きたいと思います。



愛知大会代表 愛知県立江南高等学校 1年 井戸 優作

今回、私がエコノミクス甲子園に参加したのはクイズプレイヤーとしてクイズの知識を深めたいからであり、経済学者になりたい、というような心持ちではありませんでした。その上、理系なので経済学を学ぶ予定も特にありませんでした。しかし、配布された資料を読んで勉強し、大会に参加する中で、経済学の用語だけでなく経済学的な思考を持てるようになり、日常の見え方が大きく変わることになりました。学んだことは経済学のほんの一端ではあるものの、日常に新たなスパイスが加わったことは間違いありません。

また、大会は3日間にわたって行われ、過酷な環境(主に食事)ではありませんでしたが、普段接することのない他県の人々と交流する機会を多く与える本大会は見聞を広めるよい機会でした。全国大会に参加した方々は、地方大会を勝ち抜いただけあり、賢く人間性に富んでいる方々ばかりで、自分自身の成長の大きな手助けとなってくれたと思います。

私はまだ1年生ですから、来年行われるであろうエコノミクス甲子園20thにも参加したいと考えています。これから経済学の世界がさらに広がっていくのが楽しみです。





三重大会 12月15日(日)開催



優勝チーム 三重県立四日市高等学校
(初出場)
[K2]
紀平 悠惺・北岡 朝陽



主催 百五銀行

参加校一覧

高田高等学校、鈴鹿高等学校、海星高等学校、三重県立津高等学校、三重県立津西高等学校、三重県立四日市高等学校、三重県立四日市商業高等学校、セントヨゼフ女子学園高等学校

申込みチーム数 13チーム(8校)

運営スタッフ感想

参加者の生徒のみなさんの“本気度”が伝わってくる大会となりました。

優勝されたK2チームのお二人は、昨年に続いての参戦となりましたが、昨年叶わなかった優勝を見事果たされました。

本番で実力を発揮できず、惜しくも優勝を逃されたチームのみなさんも、大会を思いきり楽しんでいただき、チームの絆を深めながら“金融知力”を高めるよい機会となったのではないのでしょうか。



三重大会代表 三重県立四日市高等学校 2年

紀平 悠惺

この大会は、自分の視野を広げるのに役立つ素晴らしい大会でした。自分は元々理系で経済学には全く興味がありませんでした。学んでいくにつれて経済学の指標や分析手法にたくさんの数学的要素が使われていることを知り、学問というのはお互いに補完して成り立っているものなのだと気付かされました。具体的には、経済学と一口にいっても心理学を使った研究や医療分野にも通ずる研究などがあり、研究を行う手法にも様々な分野の考えを組み合わせる必要があると知ることができました。また仲良くなった他県の代表の子たちの中には、自分の力でこの日本の金融教育を変えようといった高い志を持つ子や天文や科学など、様々な分野で活躍している子もいて、三重県で生活しているだけでは決して交流できない人たちとたくさん話し新たな視点や学びを得ることができました。逆に、この前自分が出演した番組を見てくれたと言う子とも話すこともでき、自分たちの世界はどこにでも繋がっているのだと改めて痛感しました。今大会には2年連続でこの大会に参加している人も一定数いて、会場の雰囲気などを前もって知ることができ、必要以上に緊張せず純粋にこの大会を楽しもうと思えることもできました。この第19回エコノミクス甲子園に出場したことで得られた視点と知識は自分の生涯の財産となる貴重なものでした。最後になりますが、この大会を運営して下さった運営メンバーの方々には感謝しかありません、自分も可能ならエコノミクス甲子園という大会に運営として加わり、未来の参加者にも自分と同じような経験をすることを少しでも手伝えたらと思っています。



三重大会代表 三重県立四日市高等学校 2年

北岡 朝陽

エコノミクス甲子園は3日間ずっと楽しかったが、その中でも特に印象に残っていることについて書こうと思う。

1つ目はホテルの部屋でのことだ。他県との相部屋だと知った時は心が休まらなかったり十分に寝られなかったりするのではという不安もあったが、相部屋だった2人がフレンドリーでいい人たちだったこともあり、楽しく過ごすことが出来た。他県の人との交流はこれまでの人生でほぼ無かったから仲良くなれて嬉しかった。

また、ホテルの部屋にトイレも洗面台もなかったことも印象的だった。洗面台が6個まとまっている共用のスペースがあるのを知るまでは、どこで歯を磨いたらいいんだという話になり、みんなで不安になっていた。

2つ目はビジネスケースについてだ。ビジネスケースのお題は日本の老朽化インフラへの対策を提案しようというものだった。チームで調べていくうちに日本の老朽化インフラをめぐる絶望的な状況がどんどん分かってきて心が折れそうになったが、チームで意見を交換し合い、自分たちなりの答えを見つけることが出来た。

ここでは、他人の意見を否定してしまうことを恐れずに積極的に意見交換をすることの大切さを学ぶことが出来た。逆に、自分の意見に対して指摘されたとしても落ち込んだりせずに意見を聞き、より良いものにしようとして話し合うことが大切だと学んだ。

3つ目はクイズ大会の第3ラウンドと敗者復活戦だ。第3ラウンドは1分間に12個の問題を解かなければならないという瞬発力が求められる形式だったのだが、準決勝進出がかかっているという緊張もあり、思うように結果が出せず負けてしまい、悔しい思いをした。敗者復活戦は3択問題を解いていき、脱落せずに最後の1チームになることを目指すものだった。私たちは3択のうち2択に絞ったつもりで相方と二手に分かれる決断をしたが、結局そのどちらも間違っていて、あっさり一問目で脱落してとても悔しかったのだが、今思い返すとちょっと面白い。

このエコノミクス甲子園に出場したことを通して本当に多くのことを学ぶことができ、また、貴重な経験ができた。この大会に出ようと誘ってくれ、一緒に戦ってくれた相方や、3日間共に過ごした他県の人たち、大会を運営してくれた人達に感謝の気持ちをもってこの作文を終わらせようと思う。





滋賀大会

12月8日(日)開催



優勝チーム 滋賀県立守山高等学校
(3年連続5回目)
「マルクス」
小梶 晶大・山本 瑛太

主催 関西みらい銀行

参加校一覧

立命館守山高等学校、滋賀県立彦根東高等学校、滋賀県立守山高等学校、滋賀県立大津商業高等学校

申込みチーム数 6チーム(4校)

運営スタッフ感想

滋賀大会にご参加いただきました高校生の皆さま、本当にありがとうございました！

熱戦の末、滋賀県立守山高等学校の「マルクス」チームの二人が優勝を決めました。

おめでとうございます！

「目指せ！ブルーオーシャンクイズ」では、正解数に加えて、各チームの希望ボーナスの戦略が勝敗の分かれ目となる展開の中、ボランティア・運営側も、参加者の皆さまと一緒にハラハラ、ドキドキの楽しい時間となりました。参加者の皆さまからも、「楽しかったです」と言っただけで、運営冥利につきました。ありがとうございました。

今後も、金融経済を楽しみながら学んでもらうこと、そして、実生活に生かせる金融経済知識を基礎から学んでもらう機会として、大会運営に取り組んでまいります。

どうぞよろしくお願致します。



滋賀大会代表 滋賀県立守山高等学校 2年

小梶 晶大

まず初めに、大会を運営して下さった金融知力普及協会とボランティアの方々、エコノミクス甲子園で出会った他校の方々、そして何よりも相方の山本くんに心からの感謝を。

さて、私がこの大会に出場しようとしたきっかけは「無料で東京に行けるから」というものである。そのため、全国大会もちょっとした旅行気分であった。ちなみに、地方大会については、相方が非常に優秀だったので勝ち上がることができた。神である。

三日間ある大会の初日はエコノミカとかるた大会であった。思えば、ここで話した人とは大会を通してよくしゃべった気がする。宿泊は他校の生徒(愛媛代表)と同じ部屋になった。なかなか個性的な人たちだった。次の日は、筆記とプレゼンテーション。あまり手応えがよくなかった筆記についてはノーコメントとする。プレゼンテーションは他校の人たちと協力して、提示されたお題についてのプレゼンを朝から夕方までかけて作り上げる。これを通して、今まで知らなかったその題材に関する知識が深まった気がする。また、この日には立食パーティーがあり、抽選で各地の金融機関の方々を用意したお土産がもらえる。私は奇跡的に抽選に当たり、ルームメイトたちとお話しできた。最後の日は、予選で早押しクイズなどが行われた。なんやかんやあって、我々は途中で敗退し、準決勝や決勝の試合を見ていたが、それはもう激アツであった。

最後に、この三日間で非常に貴重な経験をすることが



できた。ただ、自分の不勉強を深く悔いている。悔しかったのでまた出たいなあと思うが、我々高校生はこの時期大学受験がある。来年(もうほぼ今年かな)はその戦いの中に身を投じなければならないのだ。でも出たなあ。そんな感じで素晴らしい大会であった。



滋賀大会代表 滋賀県立守山高等学校 2年

山本 瑛太

1日目:初めのレクリエーションが他校とのファーストコンタクトだった。このレクリエーションは大いに盛り上がり、思っていた以上に他校の人と親睦を深められた。同室の人ともそこで初めて出会い自己紹介などをしていて、部屋に戻ってから雑談を四人でしていた。

2日目:最強寒波が到来する中、外でラジオ体操をした。ありえないくらいに寒かった。筆記テストもそこそこに、この日のメインであるプレゼンに取り掛かった。こういったプレゼンに苦手意識があったものの、4人1組となり取り組めたため、他人の力を借り、なんとかできた。「インフラのあり方」という難しいテーマではあったが、やはり4人も集まると案外なんとかなるものである。その後は、前夜祭ということで美味しいご飯に舌鼓を打ちながら、仲良くなってきた人たちとわいわいしていた。

3日目:とうとうクイズ大会らしくクイズのフェーズに移った。予選ラウンドでは緊張しながらも自分たちなりにやれることは出来た。しかし、次の中間ラウンドでは私たちの勉強不足が表れ、残念ながら敗退してしまった。そこからは観戦となったが、逆転に次ぐ逆転の連続で手に汗握るものであり、現地で見れたのはこの上ない幸せである。特に決勝の最後の最後にあった逆転劇はあまりに衝撃的だった。出場する前はもっとお堅い大会かと思っていたが、それよりもずっとエンジョイできる大会だった。大会を運営して下さる方々、共に大会に参加した全国の皆、そして共に参加してくれた友人には感謝が尽きない。





京都大会 12月15日(日)開催

京都銀行

優勝チーム 京都府立京都すばる高等学校
(初出場)
「マリンバーガー」
松浦 黎・奥田 龍人



主催 京都銀行

参加校一覧

立命館高等学校、洛星高等学校、京都明德高等学校、
京都府立洛北高等学校、京都府立宮津天橋高等学校 宮
津学舎、京都府立京都すばる高等学校、京都市立西京
高等学校

申込みチーム数 11チーム(7校)

運営スタッフ感想

昨年に引き続きオンライン合同開催でしたが、今回参加
いただいた高校生の皆さんの頑張りが見えた大会だっ
たと思います。

オンラインは通信環境面で不安もありましたが、配信
も途切れることなく全チーム最後までしっかり参加い
ただきました。

優勝チームの2人は、四択得点・追加得点ともに高
い点数を獲得しており、全国大会でも引き続き高いパ
フォーマンスを発揮いただき、京都を代表して頑張っ
ていただきたいと思います。

京都大会代表 京都府立京都すばる高等学校 3年
松浦 黎

エコノミクス甲子園に出場して、地方大会と全国大会の
両方を経験したことで、経済や金融の知識の重要性を
改めて実感することができた。地方大会では、私たち
の学校が商業科ということもあり、普段の授業で学ん
でいる専門用語や金融知識がそのまま活かせる場面が
多かった。そのため、問題をスムーズに解くことができ、
自信を持って大会に臨むことができた。それに加えて、
チームメイトとの連携も良く、お互いの得意分野を活
かして協力しながら解答することで、結果的に優勝と
いう成果を収めることができた。地方大会での成功は、
学校での学びが実践的な場面でも役立つことを実感さ
せてくれる貴重な経験となった。

しかし、全国大会に進むと、地方大会とは比べ物になら
ないほどレベルが高く、相手チームの実力を目の当た
りにした。全国から集まった強豪チームは、知識量だ
けでなく、その知識を素早く活用する力や、応用問題へ
の対応力に優れていた。問題の難易度も高く、単純な
暗記だけでは太刀打ちできないような出題が多かった。
特に、経済や金融の仕組みを深く理解していなければ
解けない問題が多く、自分たちの知識の浅さを痛感す
る場面もあった。それでも、全国の舞台で挑戦できた
ことは大きな経験となり、今後さらに学びを深めるき
っかけとなった。全国大会で得た刺激を活かし、これか
らも経済や金融について学び続けたいと強く感じた。



京都大会代表 京都府立京都すばる高等学校 3年
奥田 龍人

私は今回、エコノミクス甲子園に初めて参加し、京都
府大会を勝ち抜いて全国大会に進出することができた。
私の学校としても初めての参加だったため、全国大会
に出場できたことは誇らしい経験だった。しかし、全
国大会の舞台では、他校の参加者たちの圧倒的な知識
量と頭の回転の速さに驚かされ、正直なところ自分の
未熟さを痛感する場面が多かった。

特に、全国大会の上位チーム、特に沼津東は天秤で問
題を解いておもりを置くだけでなく、先の先を読んで
おもりを置く所が印象的だった。私はそれに圧倒され、
自分の知識や判断力がまだまだ足りないと感じた。そ
のため、決勝戦には進出できなかったが、もし進んで
いたら、さらに恥をかいてしまっていたかもしれない
と考えると、少しほっとした部分もあった。決勝の駿
台甲府の逆転劇は見れてよかったと思う。

しかし、この経験を通じて、自分に足りないものが
明確になったのは大きな収穫だった。単なる知識の詰
め込みではなく、瞬時に状況を判断し、冷静に解答を
導き出す力が必要だと実感した。また、全国の強豪校
の生徒たちと競い合えたことは、自分の成長につな
がる貴重な経験だった。

また、二日目の朝に行われた「金融ラジオ体操」も印
象に残っている。金融用語を織り交ぜたユニークな体
操は面白かったが、早朝で眠く、しかも寒さが厳しく
て正直つらかった。眠気と寒さに耐えながら体を動か
すのは大変だったが、こうしたイベントを通じて金融
を楽しみながら学ぶ工夫がされていることを実感した。

大会後、学校の先生方から「初参加で全国進出はす
ごいな！」や「これは快挙やで」などたくさん褒めて
もらえました。学校としても初の全国大会だったため、
この結果を残せたことには意味があったのだと思う。
今回の悔しさをバネに、来年からは大学生なのでエコ
甲にはもう出れないが、これから大学などで経済や金
融の知識を深め、さらなるレベルアップを目指してい
きたい。





大阪大会

11月10日(日)開催

 **りそな銀行**

 **関西みらい銀行**

優勝チーム 四天王寺高等学校

(初出場)

「横面」

杉本 咲希・山本 明日香



主催 りそな銀行・関西みらい銀行

参加校一覧

清風高等学校、清風南海高等学校、桃山学院高等学校、大阪桐蔭高等学校、大阪星光学院高等学校、大阪教育大学附属高等学校、大阪府立大手前高等学校、四天王寺高等学校

申込みチーム数 31チーム(8校)

運営スタッフ感想

今年度は31チーム62名の高校生に参加いただき、過去大会と比較しても非常に大規模な大会となりました。筆記・早押しともにどのチームも沢山勉強してきた様子を窺うことができ、まさに激戦だったと思います。決勝に進んだ上位6チームは実力も遜色なく、途中までどこが優勝してもおかしくない状態でした。しかし優勝した横面チームはその中でも抜きん出た正解数を出し、そしてボーナスポイントを獲得するための勘所も見事でした。会場の誰もが納得できる結果であったことは、表彰式での会場からの惜しみない拍手に表れていたと思います。

今大会に参加した高校生全員にとって、優勝を目指して努力を重ねて、そして大会の場で発揮した経験は、かけがえのない財産になったことと思います。今後も金融経済知識を磨き、社会に羽ばたくうえでの大きな糧にしていきたいです。

大阪大会代表 四天王寺高等学校 1年

杉本 咲希

私は今年、初めてエコノミクス甲子園に出場しました。正直、高校一年生の段階でまさか全国大会に出場できることは夢にも思っていなかったのですが、本当に相手には頭が上がらない思いです。

そして迎えた本番。出発前日は緊張しすぎて、なぜかわからないけど夜寝る前に熱が出るというかなりカオスな状況でした(一晩寝たら普通に下がっていました)。でも、東京に着いて他の出場者と会って、私の緊張状態はかなり緩和されました。全国から集まった精鋭たちとはいえ、皆同じ高校生なのだと思います。エコノミカ大会では負けが続き悔しい思いをしましたが、その後の金融カルタの大会では勝つことができ、すっかり緊張を忘れることができました。いや、出来ていました、少なくともこの時までは。私が今回のエコノミクス甲子園で一番記憶に残っているのは、実は2日目のプレゼンテーションです。遡ること数ヶ月前、エコ甲の運営の方からの全国大会の出場形式を尋ねるメールが送られてきた際、私は英語コースを選んだのです。断りを入れておくと、私は英語ができるわけでは全くなく(留学経験等もゼロです)、まあ日本語と英語…英語があるしせつ々だからやってみるか、くらいの本当にその時の気分で決めたのです。それがまさかこんなことになるとは、と何度も思いました。プレゼンテーションのテーマを与えられ、私が「こんなのはどう頑張っても無理だろう」と思ったその瞬間、テキパキと同じグループのメンバーの方が指揮を執り始めてくれて、本当に驚きました。さらに驚いたのが、その人だけでなくその後からさらにたくさんの



意見を皆が出していたところでした。今まで私が知っていた「話し合い」や「資料作成」とは全く違う次元で行われる会議に全く参加することができず、己の無力さをただただ痛感するばかりでした。正直とても悔しかったです。これを機に、もっとニュースを見て視座を養ったり、企画をする大会に積極的に参加したりして自分から話し合いに参加する能力、情報を適切に分析してデータを集める能力などを磨いていく必要性を肌で感じました。心残りの多い日ではありましたが、同時に学びの多い日でもありました。また、こんなに足手纏いだったにも関わらずフランクに話しかけてくれて、私には考えも及ばなかったハイレベルな議論を展開して下さったメンバーの皆様。プレゼンが終わってからしっかりお礼を言うことなく解散になってしまったので、この文を借りてお礼を申し上げたいです。本当に、ありがとうございました。とても印象に残る一日でした。そして本戦。残念ながら決勝戦にまで勝ち進むことができませんでしたが、それでも善戦できたのは相手のおかげだったと思います。来年もぜひ出場したいと思っているのですが、相方がまた出場するかわからないので、そうなるまで私1人の力で全国大会に進むことができるようこれからさらに学習を深めていこうと決意しました。

最後にはなりますが、このような素晴らしい機会を与えて下さった金融地力協会の皆様、そしてたくさんサポートを下さったスタッフの皆様、地方大会も含め一緒に戦ってくれた皆さん、そして私をここまで引っ張って来てくれた相手の山本、本当に本当にありがとうございました。この三日間は私のこれからの人生を引っ張ってくれるような刺激的な経験や、魅力的な方々と知り合う素敵な機会を私に与えてくれました。またチャンスがあれば是非来年も出場したい所存です。

大阪大会代表 四天王寺高等学校 1年

山本 明日香

21日(金)

ドキドキワクワクのエコ甲1日目。今日は学校休んで(ちなみに公欠じゃないです)東京にきました。観光したいなーって思ってたんですけど、荷物預けるコインロッカーを探すのに疲れてずっとスタバで勉強することに

なりました。エコノミカ大会では、4勝1敗とほぼ初めてエコノミカしたにしてはよくできたのかなと思います。おふるは広くてあったかかったです。

22日(土)

今日は今朝から極寒のラジオ体操。四天王寺のジャージは真緑で、ダサいなーと思いつつ、それしかなかったので、それを着てきました。このラジオ体操、ふつうのじゃないんです。何かとお金の知識と絡めたかけ声の中、ごえながら体操しました。筆記試験は1つ英単語の意味が分からなかったのが残りです。辞書引く時間はほぼなかったし、そもそも持ってきていませんでした。さて、ビジネスケースでは、情報集めは何かできていたものの、パソコンで他のメンバーとやりとりできず、あまり役に立てなかったのが、悔しいです。また、プレゼンの後、質問されても対応ができるほど内容を深く理解していなくて特別選考の人に代わりに対応してもらったのが、情けなかったです。しかし、プレゼン後に待っていたのは天国でした。立食パーティーの食事はおいしく、ビンゴ大会もありました。そして、何と、私と同室の4人全員が何かしらの景品をゲットすることができました。

23日(日)

今日はクイズ大会当日。そう思って緊張したせいなのか、目が冴えて4時くらいに起きてしまって、結局3時間しか眠れませんでした。そこで、部屋の外に出て、明りのあるところで勉強することにしました。すると、横浜SFのお姉さんが出そうなところとかアドバイスをくれてめっちゃラッキーでした。部屋を出て、いざクイズ大会の会場へ行こうとするとき、コートとカーティガンがないのに気がつきました。第1.2ラウンドでは、そのことでめっちゃ不安になってテンパっていました。その後、おふる場にあったと聞いてめっちゃホッとしました。その後、予選順位3位と分かって、思っていたより順位が良くてビックリしました。第3ラウンドでは、時間制限がキツく、3問も正解を分かりつつも、まちがいを選んでしまった問題があり、決勝には行けませんでした。その後、敗者復活戦があったのですが、ほとんど答えが分からず、敗退が確定してしまいました。「第3ラウンドでテンパらなければ」「あそこで直感に従っていたら」とか、割と悔しいことが多いです。次もエコ甲出るか分かりませんが、出るとすると優勝したいです。



兵庫大会

12月15日(日)開催



優勝チーム 灘高等学校
(4年連続11回目)
[Ainamic]
伊藤 将太郎・佐藤 統

主催 池田泉州銀行

参加校一覧

雲雀丘学園高等学校、関西学院高等部、白陵高等学校、
灘高等学校、兵庫県立尼崎工業高等学校

申込みチーム数 7チーム(5校)



兵庫大会代表 灘高等学校 2年

伊藤 将太郎

掴みどころのない金融はあまりに奥深い。マネーがマネーを自己増殖的に生むという構造は世界に「存在している」のに「存在していない」とも言える。僕は、人間が作り出した金融というシステムがいかに社会を構成しているか、それをどうマネージしていくのかということに興味があったのでエコノミクス甲子園に参加することを決めた。クイズ研究部の強豪たちがひしめく中、不安な気持ちと私が金融経済を一番楽しんでいくという自負を持って1日目に臨んだ。舐めていた。オタクなまでの知識への欲求を持つ参加者たちの熱意とキラキラした目に興奮をせざるを得なかった。どういうめぐり合わせか、相部屋は見事敗者復活戦から優勝へと駆け上がった駿台甲府高校の2人だった。彼らの純粋に知を楽しむ姿勢、そして勝つために夜遅くまで目をこすりながら本を読む姿勢は凄まじいものがあった。勝ちに来るために参加したエコ甲は彼らと2日間を過ごせることになった時点で、満足して終わることが決まっていたようにも思う。ずっと彼らと問題を出し合う時間が続けばいいとも思った。敗者復活戦からの勝ち上がりが決まった瞬間、片方の相方は戦略のため途中で相方と答えを分ち、僕たちと同じ観客席にいた。決勝進出が分かった瞬間の僕たちの興奮は青春そのものだった。エコ甲は僕たちが日常で持て余す「オタク性」を存分に受け止めて、晴れ舞台で輝かせてくれる存在であると思っている。知を楽しむ、熱狂し、お互いに称え合う場はなかなか存在しないと思う。何年も続く大会であってほしいと思う。



兵庫大会代表 灘高等学校 2年

佐藤 統

「なぜ、これほどまでに人は競うのだろうか。」

全国大会の舞台で、ボタンを押す直前にふとよぎったこの疑問。勝ちたいのか、認められたいのか、それとも何かを確かめたいのか。私にとって、エコノミクス甲子園とは何だったのだろうか。

大会を終えた今、自分を見つめ直すと共に、この文章が誰かに出会えることを願い、ここに自己総括を綴る。

11月の中旬、相方の伊藤から「エコノミクス甲子園に出ないか」と誘いを受けた。ここ数年、灘が兵庫代表として名を連ねていることは知っていたし、先輩からは対策資料も受け取っていた。しかし、私自身はこれまで金融や経済に特段の興味があったわけではなく、正直なところ、どこか他人事のように感じていたのも事実だ。

私の学校では、自分の好きを追求する「文化」と、多少の回り道を許容できるだけの時間的余裕という「自由」を、皆が存分に享受している。その結果、自分なりのフィールドを早々に見つけ、突き詰めていく生徒が多い。しかし、私はまだ「これだ」と言えるものに出会えておらず、漠然とした焦りを抱えていた。進路の参考になればと、GCI、地方創生系のインターンや政治家との討論会など様々な場に参加してきたが、いずれも本気で自分を懸けられるほどの熱量を生み出せなかった。

加えて、今大会のように「知識を競う」という形で経済を学ぶことにも、どこか違和感を覚えていた。クイズ形式で経済を学ぶ意義はどこにあるのか。無理に競争に身を置く必要があるのか。そんな疑問が頭をよぎったのは事実だ。それでも参加を決めたのは、最終的には「好奇心」だったのだと思う。ふとしたきっかけで突き上げられるのかもしれない、と期待している自分がいた。

そこから先は、とんとん拍子だった。

地方予選は、前日に行われていた合同オンライン予選のアーカイブを観て対策したら勝つことができた。50問中47問正解で、後に銀行の方に言われたがかなり点が良い方らしい。

そして迎えた全国大会。

21日(金)、東京観光。森美術館は前半こそ興味をそそられる展示が多く、楽しめたが、後半は昆虫系の作品が登場した際には思わず「うっ…」となりながら先に進んだ。東証では勝手に他人の会社を上場させた。佐藤可士和氏の「WHITE」も拝めた。エコノミカは現地で開封したので勝率五割に収束してしまった。事前

に一度でもプレイしておけば、と少し悔やまれる。

22日(土)、筆記には触れない。あれはちゃんと勉強した方がいい。ビジネスケースは人と話せてよかった。前夜の寝不足で頭が回らず不完全燃焼が残った。とはいえ、チームのメンバーには感謝したい。相方のいるチームに負けたのは癪だった。欲を言えば日本語会場のプレゼンも見なかった。

23日(日)、言わずもがな。

もし来年以降出場する後輩がいるならば、「少なくとも学校の看板に泥を塗らない程度には準備したほうがいい」と、笑い半分、本気半分で伝えたいと思う。

「金融リテラシーとは何か。」その問いに、私はこの大会で明確な答えを出せたわけではない。

しかし、「知らないままでは生きていけない」のだということだけは痛感した。これから先、金融や経済を専門にするかはまだ分からない。しかし、「知ること」の大切さを知った今、自分の知的な渴望に素直に向き合いたい。エコノミクス甲子園は、単なる大会ではなく、「知」への扉だったのかもしれない。

また、大会を通じて最も印象深かったのは、実は他県の高校生との出会いだった。夜遅くまでたわいもない話をしたり、大会翌日に遊びに行ったり、この繋がりは今後も続いていくと思う。

振り返れば、知識を競うという形に最初は違和感を覚えていた私が、いつの間にかクイズに取り組み、多様な高校生たちと語り合い、刺激を受けていた。エコノミクス甲子園は単なる勝ち負けだけを争う場ではなく、お互いの視点や考えを交換し合うプラットフォームでもあったのだと思う。だからこそ、来年以降この場に立つ誰かには、私が感じた以上の発見と、まだ見ぬ仲間たちとの出会いが待っているに違いない。

それでも、冒頭の問い——「なぜ、これほどまでに人は競うのだろうか」——その完全な解は、まだ私の中にもない。ただ一つ確かなのは、競うことで自分の限界を超え、新しい世界へと踏み出す機会を得られるということだ。私にとってエコノミクス甲子園は、まさにそうした扉の一つだったと感じている。

最後に、開催のためにご尽力くださった金融知力普及協会の方々、池田泉州銀行をはじめとするスポンサーの皆様、学生ボランティアの皆様、そして共に闘った出場者の方々、すべての方に、心から感謝申し上げます。

エコノミクス甲子園という舞台がなければ、私は「競う」という行為をこれほどまで多面的に捉え、さまざまな人と交わることはできなかつただろう。私が探していた「何か」は、もしかすると、この競い合いの先にこそ転がっているのかもしれない。



奈良大会 12月15日(日)開催

NANTO 南都銀行

優勝チーム 東大寺学園高等学校
(3年ぶり9回目)
[東大寺学園書道部]
土川之元・田中仁一朗



主催 南都銀行

参加校一覧

西大和学園高等学校、東大寺学園高等学校、奈良学園登美ヶ丘高等学校

申込みチーム数 4チーム(3校)

運営スタッフ感想

奈良大会はオンライン合同形式で開催しました。上位2チームは接戦で、どちらが全国大会に行ってもおかしくない展開でした。今大会を通じて学んでいただいた金融知力が、これから社会に出る皆さんのお役に立つことを祈念しています。

奈良大会代表 東大寺学園高等学校 2年

土川之元

エコノミクス甲子園は軽く遊びのつもりで参加した。チーム名はおふざけで「東大寺学園書道部」。地方大会で優勝して他人の金で東京に行ければ儲けもの程度の生半可な気持ちだった。ちなみに僕の社会選択科目は地理日本史である。取り組んでいた対策としては地方予選に際して配布された参考書を数周するくらいに留まっていた。全国的な強豪である弊社クイ研からも刺客がいるのを知っていたので所詮書道部の分際で太刀打ちできるとも思っていなかった。が、なぜか地方大会は優勝できた。

斯くして全国大会に出場することになったのだが、総評としては最高の思い出になったと言えるだろう。

初日、雪の降り頻る米原、雄大な浜名湖や突き抜けるような晴天に聳え立つ富士権現の麓を通過して相方といちゃついているうちに丸の内に到着した。各方面から君たちは風流を解さないねと誇りを受けそうだが、この時新宿御苑で早咲きの桜を愛でながら相方と芝に転がり昼寝したことは一生の思い出である。その後南都銀行の担当者さんと合流したのだが、これが非常に気さくな方だったので安心感があった。(銀行の経費で人生初の回らない寿司をご馳走していただいた。奈良県の諸君、ぜひ参加しましょう。) 夜には銀行直属運転手付き、黒塗りのレクサスで会場へ赴き、同胞たちとエコノミカなるカードゲームに興じた。豪華景品がもらえるとのこと以前から作戦を練っていたので僕と相方の二人とも試合では全勝した。景品はキーホルダーだったが、可愛かったので満足している。相方は準優



勝した割に景品がしょぼいとこぼしていたが…、部屋割りでは富山高専の好青年二人と寝食を共にすることになった。二人ともいいヤツ。

二日目は筆記試験と四人ずつチームに分かれたプレゼンの発表があり、相方の成績はいざ知らず、僕はその二つの孰れでもかなりの好成績で通過した自信がある。この日数々の素敵なお縁ができたが詳しくは語らないでおく。

三日目、予選で高順位に着けたアドバンテージはあったものの普通に第三ラウンドで敗退した。僕の相方は根本的な知能の面で僕よりずっと賢いのだが、そんな彼が悔しがっているのを初めて目にした。当然僕もその気持ちは同じだが、いざ負けてみると気持ちは些か楽である。

来年こそはリベンジを！と意気込みたいが生憎大学受験が控えているので厳しいところだ。

総評はここまでにして、エコノミクス甲子園に関わってくださった全ての人に心からの感謝を申し上げたい。おかげで高校生活を代表するような青春の一ページが完成しました。

最後に、エコ甲でできた人脈には優秀な人が多いので大切にしようがいい事、かなりエンタメ性の高い大会なので実力も大事だが最終的には運で結果が決まる事、三日目の本選のスケジュールはタイトなので頻尿の自覚がある者は適宜トイレに行くべし(でない社会的死が待ち受けている)というこれから参戦する諸君への三つのアドバイスを以てこの見苦しい長文を締めさせていただきます。またいつかこのご縁がもう一度つながりますように。その時までどうか皆様お幸せに。



奈良大会代表 東大寺学園高等学校 2年

田中仁一朗

相方に誘われ、エコノミクス甲子園に参加しました。地方大会前日までほんとにほんとになにも勉強してませんでした。なのに地方大会優勝できました。全部相方のおかげです。ほんとに感謝してます。全国大会までもぼくが一番勉強してないんじゃないかな。なのに14位で第三ラウンドに進むことができたのはやっぱり相方のおかげだと思います。プレゼン全然うまくできなかったし。プレゼン作るとき居眠りしてしまって班のみんなには申し訳ないです…、さて、移動日の夜ご飯は南都銀行さんに回らないお寿司に連れていってもらいました！おいしかった！はじめて回らないお寿司をたべました！とてもおいしかったです！急いでオリセンにむかってエコノミカ大会が始まって、なんと！準優勝しました！運がよかった笑準優勝景品のエコノミカプレイシートは富山高専に引き継いで大切に保管しています。エコノミクス甲子園でいろんな人と知り合えて、それが一番よかったと思います。ほんとにみんな優秀でびっくりした！ぼくも負けてられないと思いました。うちの学校の先輩が優秀な成績を残してきたがゆえに期待されているんだなってことを感じるが多かったです。もっと勉強しとけばよかったなと思いました。叶うことなら、もう一度リベンジしたいけど、大学受験があるからむずかしいですね。貴重な経験をさせてくれた関係者の皆さんには感謝してます。いつか運営側に回りたくいとおもいます。エコ甲19thのみんなともいつかまた会いたい！みんなの受験が成功するように祈ってます！ぼくもとりあえず受験までがんばる！





和歌山大会 12月15日(日)開催



優勝チーム 智辯学園和歌山高等学校
(3年連続5回目)
「のぼ×たな」
田中 裕太・昇 幸汰

主催 紀陽銀行

参加校一覧

開智高等学校、近畿大学附属和歌山高等学校、智辯学園和歌山高等学校

申込みチーム数 5チーム(3校)



和歌山大会代表 智辯学園和歌山高等学校 2年
田中 裕太

私は中学校入学時より智辯学園和歌山中学校・高等学校のクイズ研究会に所属し、部長を務め、「和歌山の歴史クイズ大会」や「和歌山英語クイズ大会」などの県内の大会で優勝したり、AQLの全国大会にも参加したりしてきました。また日本テレビの「全国高等学校クイズ選手権」に参加することもでき、ベスト8に勝ち残ることもできました。まさにクイズにかけた学校生活を続けてきました。

そして、この「エコノミクス甲子園全国大会」。幸運なことに2年連続の参加です。昨年、2回戦まではそこそこの戦績を残しましたが、惜しくも決勝には進みませんでした。今年は2回目ということで、全国優勝、少なくとも決勝に残ることを目標にするとともに参加している高校生の皆さん、金融関係者の方々、大会運営のスタッフの皆様方との絆も深めることも念頭に置いて準備してきました。

21日(金)の「お金の達人一首」という経済のカルタの大会や22日(土)のプレゼンの準備と発表、そして前夜祭では昨年よりもずっとリーダーシップがとれるようになり、みんなと楽しく交流ができました。

最終日の23日(日)の大会本番では残念ながら決勝に進むことができませんでしたが、2年間にわたる全国、世界レベルでのワクワクドキドキの貴重な体験は私の人生の大きな宝物になりました。飛行機のチケットの手配をはじめ、運営に携わっていただいたスタッフの皆様、全国、世界からの金融関係者の方々、そして参加者の高校生の皆さん、たいへんお世話になりあ



りがとうございました。将来、大会OBとして運営のお手伝いができ、皆様と再会できることを楽しみにしています。

和歌山大会代表 智辯学園和歌山高等学校 2年
昇 幸汰

前年に続き、今年も相方と一緒にエコノミクス甲子園に出場することができ、とても嬉しかったです。

21日(金)の朝、熊野白浜リゾート空港の愛称が付いてそう時経っていない南紀白浜空港から羽田空港へ飛び立ちました。前回ほど緊張することもなく落ち着いた心地でいました。空港ですぐ昼食をとった後、池袋、渋谷、新宿と観光しました。平日だということにとつもない人混みに圧倒されました。山手線なんて座れたものではありません。これが世界一の人口を誇る都市なのかと。しかも新宿駅は噂にも聞くあのダンジョンっぷりです。少々道にも迷いながら小田急線に乗りました。

国立オリンピック記念青少年総合センターに到着し、それからはとつともなく早い時間が流れていきました。22日(土)のビジネスケースではなんと優勝することができました。同じグループのメンバーにも改めてここで感謝したいです。23日(日)のクイズ本戦では思うような結果が残せませんでした。沢山の熱い展開を観ることができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。特に、同じ部屋で延泊仲間でもあった北海道の旭川東高校の2人の大逆転からの準優勝には本当に感動しました。

それからは延泊組だけになったオリンピックセンターで北海道の2人と、お互いの地元の話などで盛り上がっていました。未だ残る高揚感の中眠りにつき目覚めるともう東京から出発です。

最後になりましたが、またもこのような貴重な体験をさせてくださった金融知力普及協会の皆様、本当にありがとうございます。





鳥取大会

12月7日(土)開催

ごうぎん

優勝チーム 鳥取県立米子東高等学校
(2年ぶり2回目)
「APPLE」
黒木 悠佑・角田 和紀



主催 山陰合同銀行

参加校一覧

鳥取県立鳥取商業高等学校、鳥取県立米子東高等学校、
鳥取県立倉吉総合産業高等学校、青翔開智高等学校、
湯梨浜学園高等学校

申込みチーム数 15チーム(5校)

運営スタッフ感想

鳥取大会に参加していただいた高校生の皆さま、大会を盛り上げていただきありがとうございました。そして、「鳥取県立米子東高等学校・APPLE」チームのお二人、優勝おめでとうございます。予選ラウンド・決勝ラウンドともに安定した実力を発揮し、お二人の知識とチームワークは抜群で、見事優勝をつかみ取られました。「APPLE」の知識力とチームワークがあれば、全国大会での上位入賞のチャンスも十分にあると思います。全国大会での活躍を祈念しております。



鳥取大会代表 鳥取県立米子東高等学校 1年 黒木 悠佑

僕はエコノミクス甲子園に出て「全国のレベルは高いな」と思いました。ある日、同じクラスの友人から「エコノミクス甲子園と一緒に出不い？」と声をかけられ、「いいよ。面白そうだね。」と答えたのが始まりでした。僕はもともと経済や金融についての知識がなかったので、頂いた教材を読むうちに少しずつ詳しくなっていくことに楽しさを感じました。そして迎えた地方大会では、相方との連携がうまくいったため、知識はあまりついていなかったものの、優勝することができました。その勢いそのまま全国大会へ望みましたが、全国大会での問題は地方大会の問題よりも遥かに難しく、全く歯が立ちませんでした。問題に正解していた方々はとてもカッコいいなと思いました。全国大会が終わった直後は悔しい気持ちでいっぱいでした。しかし、今考えると、経済や金融に触れるいい経験になったのではないかと思います。また、他県の参加者との交流を楽しむことができました。沢山の人が「金融知力は生きていくうえで大切である」と聞き、僕ももっと金融知力を身に着けたいと思いました。この経験を活かしてさらに自主的に勉強をして、来年もエコノミクス甲子園に出たいと思います。将来必ず必要になる金融知力に触れ合うことができたのは、僕を誘ってくれた相方や応援してくれた家族、大会を運営してくださった方々のおかげだと思います。本当にいい経験をありがとうございました。



鳥取大会代表 鳥取県立米子東高等学校 1年 角田 和紀

私はこの大会を通じて、経済や金融の知識の奥深さを改めて実感し、全国から集まった優秀な参加者たちとの交流を通じて、多くの刺激を受けました。大会では、事前に積み重ねた学習を活かしながら問題に挑戦しましたが、想定以上にその難易度は高く、自分の知識の未熟さを痛感する場面が多々ありました。特に、時事問題や金融商品の複雑な仕組みに関する問題では、理解が浅かったことが明らかとなり、さらに学びを深める必要性を強く感じました。ビジネスケースで、チームメイトと協力し、限られた時間内に最適な判断を下す経験は、単なる知識習得以上の価値を提供してくれました。問題を解決する過程で、チームメイトと議論を交わしながら論理的に答えを導き出す瞬間は非常に刺激的でした。また、問題文の微細なニュアンスの違いが解答に大きな影響を及ぼすことを実感し、細部への注意深さの重要性を改めて学びました。さらに、全国の同世代の参加者との交流は非常に有意義でした。彼らの学習姿勢や問題へのアプローチ方法には新たな発見があり、互いに意見を交換することで視野が広がり、学びへのモチベーションが高まりました。特に他県の代表チームとの対話を通じて、異なる視点や考え方に触れることができたのは貴重な体験でした。彼らの勉強法を聞き、教科書を読むだけでなく、日々のニュースや実際の経済動向を積極的に分析し、それを自らの知識に結びつけることの重要性を実感しました。このようなアプローチは、今後の学びや実生活において大いに役立つと感じています。また、審査員の講評を通じて、単に知識を習得するだけでなく、それをいかに実社会で活用し、社会に貢献するかという視点が重要であることを深く認識しました。特にプレゼンテーションの際には、論理的かつ分かりやすく相手に伝える技術が求められました。この過程で受けた評価を通じて、自分のプレゼンテーションの改善点が明確になり、今後の成長に繋がる貴重な学びを得ることができました。また、金融や経済が私たちの生活にどのように影響を与えるのかを再認識し、知識の応用力を高める必要性を痛感しました。この大会を通じて、知識の習得にとどまらず、社会問

題を経済的視点から分析する力や、論理的に説明する力の重要性を学びました。さらに、他の参加者や審査員との交流を通じて、経済を多角的に捉える面白さを実感しました。例えば、地域経済の発展や金融政策の影響について議論し、理論と実際の社会課題との関連性を考察することができました。私は、この経験を通して、経済・金融の知識を深めることの重要性を再認識するとともに、課題解決能力や協力の重要性を学びました。今後は、この貴重な経験を活かし、さらなる学びを深め、将来的には社会に貢献できるような知識とスキルを身につけていきたいと考えています。エコノミクス甲子園に参加できたことに心から感謝し、この経験を今後の成長に繋げていきたいと思っています。





島根大会

12月8日(日)開催

ごうぎん

優勝チーム 松江工業高等専門学校
(5年ぶり3回目)
「ジニブル中野係数」
高橋 樹生・佐藤 太一



主催 山陰合同銀行

参加校一覧

石見智翠館高等学校、松江工業高等専門学校、島根県立松江南高等学校、島根県立出雲高等学校

申込みチーム数 5チーム(4校)

運営スタッフ感想

島根大会に参加していただいた高校生の皆さま、大会を盛り上げていただきありがとうございます。

そして、「松江工業高等専門学校・ジニブル中野係数」チームのお二人、優勝おめでとうございます。

予選ラウンド・決勝ラウンドともに圧倒的な実力を発揮し、お二人の知識とチームワークは抜群で、見事優勝をつかみ取られました。

「ジニブル中野係数」の知識力とチームワークがあれば、全国大会での上位入賞のチャンスも十分にあると思います。全国大会での活躍を祈念しております。



島根大会代表 松江工業高等専門学校 3年

高橋 樹生

僕たちの目標は「壇上を、荒らします。」

エコノミクス甲子園は、クイズ大会です。僕は松江高専クイズ研究会に所属しており、エコ甲に参加した動機は、「島根はクイズ研究会のある学校が松江高専以外に無いから、簡単に全国に行けそう」と思ったからです。とっても不純な動機です。また、過去にクイズ研究会の先輩がエコノミクス甲子園に参加して準決勝まで駒を進めていたので、自分も先輩のように全国の舞台で活躍したいと思ったのも理由の一つです。1,2年生のときにもエコノミクス甲子園にエントリーしましたが、二回とも全国大会に出場することは叶わなかったため、今年こそはと意気込んで臨みました。

島根大会への準備では、事前に配られた教材にさっと目を通すのみで、後はネットに転がっていたエコ甲対策問題などを空き時間に回すなどしていました。もともと競技クイズで培った知識があったので、知識量で負けそうになることなく島根大会を勝ち切ることができました。島根大会から、相方の佐藤とは「楽しむ」ことを大切にしたいねと話していたので、あまり力むことなく参加できたことは良かったかなと思っています。全国大会出場が決まってから2か月ほど時間がありましたが、全国大会に向けた教材にはほとんど目を通しませんでした。対策は、過去のエコ甲のアーカイブと、ネットに転がっていた問題を回すなどして行いました。特に、過去大会で出された問題は再度出題されやすい傾向にあったので、役立ちました。

全国大会では、大会前日のエコノミクス大会やビジネス



ケースなどのイベントが盛りだくさんで、正直、大会だけやって終わりなのかと思っていたので、予想以上に楽しかった印象があります。

ビジネスケースでは、同じ班のメンバーが皆優秀で、アイデアをバンバン出していったので、自分はそれをメモしながらスライドのフォーマットに落とし込む作業をしました。ビジネス1位を取れたのは班員のおかげです。本当にありがとう。

僕たち松江高専は埼玉代表の早稲田本庄と同部屋でした。大会前日の夜は、夜中3時まで大富豪やポーカーをやって楽しみました。多分めっちゃくちゃうさかったと思います。

大会では、特に準決勝の「ナッシュ均衡」の問題が強く記憶に残っています。あの問題で攻めなければ、決勝に進むことはなかったでしょう。とてもドキドキしましたが、それ以上に、正解したときの歓声が気持ちよかったのを覚えています。あの瞬間、壇上荒らしを達成できたと思いました。決勝では惜しくも4位となってしまいましたが、決勝という舞台に立てたことがとても嬉しく、不思議と悔しいとは感じませんでした。それよりも、敗者復活からの上がったワイルドカード・駿台甲府が勢いのまま優勝したのを一番近くで見ていたので、「主人公だ…!」と興奮したのを覚えています。

エコノミクス甲子園に参加してよかったことは、まず、金融経済に関する「知識」が身についたことです。しかしこれはあくまでも知識で、実践的な経験を積めたわけではありません。これからは、培った知識を使って自分の資産管理や、社会への貢献など幅広く活用できたらいいなと思っています。また、全国の同世代の仲間と短い間一緒に生活して刺激しあえたことも大きいです。これはエコ甲というクイズ大会に収まらず、人生における良い経験だったなと思っています。最後に、全国4位という結果を残すことができ、いろんな人からチャホヤされたことです。全国の舞台で目立ち活躍できたという事実は僕の自信になってくれます。

今大会は、僕にとって貴重な経験となりました。最後に、大会を運営してくださった関係者の皆様、そして共に戦った全国の仲間たちに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

島根大会代表 松江工業高等専門学校 3年

佐藤 太一

エコノミクス甲子園は今回ペアとして出場した高橋君の誘いで初めて存在を知りました。私はクイズプレイヤーではなく、さらには情報系の学生であるため金融経済に関する基礎知識もなく本当に私のような人間がペアとして出場してよいものだろうか少し思案しましたがこれもなにかの縁だと思い、出場を決意しました。

金融経済に関する勉強は今まで逃げてきた科目を再度やり直すようなもので容易ではありませんでした。地方大会では自分の知識不足で取れる問題を落として敗退の危機にも陥りましたが、高橋君の知識量、クイズ力で何とか突破することができました。この時から私は本格的に勉強を始め、事前学習資料としていただいた経済書などを読み始めました。初めはわからないことだらけで苦しかった勉強も少しずつ楽しくなってきました。

全国大会では全国から来た同世代の高校生たちと交流し、金曜日のエコノミクスや土曜ラウンドを経て非常に親密な友好関係を築くことができました。日曜日の本番では二人とも全力で楽しむことを目標とし、攻めの姿勢で回答をしていきました。正直なところ、私たちは知識量では他の高校生たちに大きく後れを取っており決勝ラウンドまで出場できるレベルではなかったようにも思いますが攻めの姿勢が刺さり何とか勝ち残ることができました。

決勝ラウンドでは知識量で圧倒され、私たちは手も足も出ませんでした。手堅い沼津東、逆襲の駿台甲府、大穴の旭川東の白熱した勝負を間近で見届けることができ、さらには駿台甲府の優勝の瞬間を誰よりも近くで祝ってあげることができたので良かったと思います。この大会を通して私は今まで関心の薄かった金融経済に関する知識をつけることができたのはもちろんのこと、全国の高校生との交流により新たな視点、考え方を知ることができ自分の人生における大きな糧になったと思います。私は高専三回生でもう一度出場することはできませんが、もしも機会があるならまた関わりたいと思える素晴らしい大会でした。ありがとうございました。



岡山大会 12月15日(日)開催



優勝チーム 岡山白陵高等学校
(2年連続7回目)
「そなたはギャルだ」
堀井 あかる・服部 晏子



主催 中国銀行

参加校一覧

岡山県立岡山芳泉高等学校、岡山県立岡山操山高等学校、岡山県立岡山大安寺中等教育学校、岡山県立岡山南高等学校、岡山県立岡山一宮高等学校、岡山白陵高等学校、就実高等学校

申込みチーム数 18チーム(7校)

運営スタッフ感想

岡山大会は今年もオンラインで開催され、多くの高校生に参加いただきました。

今年の大会にも熱意溢れる参加者が集まり、真剣に取り組む姿勢が印象的でした。特に、昨年に続いて2連覇を果たしたお二人の継続的な努力と向上心には感心させられ、今回の素晴らしい結果に繋がったのだと思います。

参加された高校生の皆さまがこの大会を通じて、楽しみながら金融知識を身につけることができたなら幸いです。当行では、地域の未来を担う高校生の金融リテラシー向上に引き続き取り組んでまいります。

岡山大会代表 岡山白陵高等学校 2年

堀井 あかる

今、大会帰りの新幹線の中なのですが、とても眠いです。去年も一文目には眠いと書いた記憶があるのですが、やはり今年も眠いです。今年は去年より活躍できなかった気はしますが、私なりに頑張ったんだと思います。

とはいえ、1日目のエコノミカは笑っちゃうくらいだめでした。去年以来一度もプレイしてなかったのでルールもあやふやで、当たった方には迷惑かけちゃった気がします、ごめんなさい！

2日目のビジネスケースは本当に楽しかったです。同じ班の子がみんな頼りになる上に話やすく、議論もサクサク進んでいったので、同じ班の子には感謝しかありません。さらに、前夜祭では去年当てることができなかった特産品を当てることができました。2日目の夜に早速いただきました、美味しかったです。

3日目は、まず予選順位が予想以上に高くて当惑したままステージに上がり、そのまま敗退しました。あとは客席からの感想になるのですが、今年はクイズ形式がとても面白かったです。特に準決勝のルールが最後まで展開が読めなくて盛り上がりました。見るだけでも楽しかったです。

全体を通して、今年は他校の方々と沢山交流することができて素晴らしい思い出になりました。最後になってしまいましたが、このような素敵な機会を設けて下さった運営の方々、大会を楽しいものにしてくれた相手や他県の皆様、本当にありがとうございました！



岡山大会代表 岡山白陵高等学校 2年

服部 晏子

実は全国大会の3日前に胃腸炎になり、もしかしたら参加できないかもと真剣に考えていた。絶対行く！絶対行く！と思い続けてなんとか2日で直し、前日に病院で東京に行く許可をもらえた。無事東京に来れたものの、消化されやすいものを選んで食べなければいけなかったため、朝食のサラダを全キャンセルしたり食べたいものを十分に食べれないことが多かった。3日目には完全にいつも通りに戻っていたので、前夜祭で今までの我慢していた分を爆発させ、食べるとおかわりするをずっと繰り返していた。本当は色んな人と話したり写真を撮ったりしようと思っていたのに相方のどアップ写真を何枚か撮っただけで終わってしまった。去年全国大会に参加した時は人見知りフルで発動させてしまい、もっと話せば良かったと後悔が残っていた。だからこそ今年は、出会う人とできるだけたくさん話すことを心がけた。さらに今回、台湾代表の方が参加していて、少しだけ中国語を教えてもらったりと去年はできなかった経験ができ、とても楽しかった。(好吃(おいしい)、可愛(かわいい)、对不起(ごめんなさい)、絶対に忘れません！教えてくれてありがとうございます！！) 普段しないことを頑張ったせいか、夜はとても眠くて2晩とも、次の日の勉強をする予定は崩れ去りすぐに寝てしまった。

結局、結果は残せなかったけれど、とても濃厚で有意義な3日間だった。何より2年も一緒に参加してくれた相手や、全国大会を運営してくださった皆様方に心から感謝している。本当にありがとうございました！





広島大会 11月10日(日)開催

もみじ銀行

優勝チーム 修道高等学校
 (2年連続4回目)
 「多様性は免罪符」
 フィゲロアビクトル龍馬・中村獅良



主催 もみじ銀行

参加校一覧

A I C J 高等学校、広島県立広島高等学校、広島県立広島観智学園高等学校、広島県立広島井口高等学校、広島市立広島商業高等学校、広島市立基町高等学校、広島学院高等学校、安田女子高等学校、修道高等学校、ノートルダム清心高等学校

申込みチーム数 35チーム(10校)

運営スタッフ感想

参加された皆さんのお陰で、無事広島大会を開催することができました。ありがとうございました。参加した高校生の熱意に触れることができ、スタッフも楽しむことができました。今年も、10校35チーム、70名の高校生が集まり、活気に満ちたクイズ大会となりました。優勝した修道高校の「多様性は免罪符」のフィゲロアビクトル龍馬君、中村獅良君、二連覇おめでとうございます。決勝ラウンドでは、接戦の後、素晴らしい知識とチームワークで見事二連覇を果たされました。

参加された皆さんは、この大会を通じ、金融や経済について、楽しく学ぶことができたのではないかと思います。クイズを通じて、仲間と協力しながら知識を深める姿はとても印象的でした。金融知識は、将来の選択肢を広げる大切なスキルです。次回の大会も、たくさんの高校生の参加を心から待っています。広島県内の高校生の皆さん、来年会場で会いましょう。

広島大会代表 修道高等学校 3年 フィゲロア ビクトル龍馬

まず初めに、昨年に引き続き全国大会に出場する機会をいただき、心より感謝申し上げます。今年は、昨年と内容が重ならないよう意識し、大会自体に関する感想は去年とほぼ同様なので、全国大会を通して感じた個人的な感情をもとに書きました。

受験という大きなプレッシャーの中で参加したエコノミクス甲子園は、当初は精神的に辛いものでしたが、最終的に私にとってかけがえのない経験であったと感じました。

実は、全国大会の開催前に第一志望の大学の合否発表があり、「ここで受験を終わらせて全国大会に参加してやる!」という意気込みで金融関連の知識を養うなど、エコ甲だけに目を向けて過ごしていた時間が多かったです。しかし残念ながら結果は不合格。私は相方の中村君にも多大な迷惑をかけてしまったと感じ、無力感に襲われました。その思いを引きずったまま全国大会を迎えましたが、参加者の皆さんと交流を重ねるうちに、次第と気持ちが前向きになりました。

この大会を通じて学んだことは、これからの人生において必ず役に立つと改めて実感しました。金融知力は、現代社会を生き抜くための「サバイバルノート」です。そして、大学受験は人生の通過点に過ぎません。このことをエコノミクス甲子園を通じて学ぶことができ、本当に貴重な経験をさせていただいたと感じています。最後に、ここで一句詠ませてください。



「いつの日も 僕のそばには エコ甲がある」
 字余りなのはご容赦ください、、、
 それでは来年、後輩の皆さんとお会いできることを心より楽しみにしております。



広島大会代表 修道高等学校 3年 中村 獅良

1日目は、昼前に東京駅に着き、集合時間まで山口代表の子や昨年の愛媛代表の友達とあそび、オリセンに行きました。集合してからは、昨年同様、エコノミカ大会やVISA主催の経済に関する百人一首などをして、他県の代表と親睦を深めました。

2日目は、朝から筆記テストがあり、英語での出題だったため、昨年とは一味違う難しさがありました。その後のビジネスケースでは全く予想もしていなかった、老朽化インフラの保全に関する問題でした。保険や金融経済にまつわる課題だと予想していたため、とても驚きました。でも、仲間と力を合わせ、なんとか制限時間内にプレゼンを完成させることができました。ビジネスケースが終わると、明日の本戦を前にした前夜祭が始まりました。各県の選手だけでなく、行員の方々ともお話できて、とても楽しかったです。

3日目は、緊張とともに朝ご飯を食べ、相方とギリギリまでクイズを出し合い、会場に入りました。昨年の悔しさを晴らそうと意気込んでいたのですが、いざステージに上がると、思うような結果を出すことができず、準決勝に進む前に敗れてしまいました。

悔しさもありましたが、良い思い出の方が断然多く、高校生活の最後にとても充実した3日間を過ごせたと思います。来年からは、運営スタッフとして、高校生を支える立場となり頑張りたいと思います!





山口大会 12月15日(日)開催



優勝チーム 慶進高等学校
(2年連続3回目)
「エコノミーが好み」
福岡 綾乃・白土 隆太郎

主催 山口銀行

参加校一覧

早稲高等学校、慶進高等学校、山口県立萩商工高等学校、
下関市立下関商業高等学校

申込みチーム数 6チーム(4校)

運営スタッフ感想

山口大会は今年で13回目を迎え、4校6チームにご参加いただきました。ご参加いただいた高校生の皆さん、ありがとうございました。

山口大会はオンライン開催でしたが、画面越しにも皆さんの真剣さが伝わり、本番に備えチームで協力しながら対策学習をしている皆さんの様子が目に浮かびました。「金融」や「経済」の内容は、学校生活の中では、あまり馴染みがないと思いますが、皆さんが一生懸命に回答される姿を見て、金融の世界に関わる者として大変嬉しく思いました。

優勝された慶進高等学校の「エコノミーが好み」チームのお二人、おめでとうございます！また、参加された皆さんは、今後も金融の勉強を続けてみてください。さらなる活躍を期待しています！

最後になりましたが、山口大会開催にあたりご支援賜りました認定NPO法人金融知力普及協会の皆様、ご後援を賜りました皆様に心より感謝申し上げます。



山口大会代表 慶進高等学校 2年

福岡 綾乃

"東京無料招待"という言葉に惹かれ軽い気持ちで参加した昨年の第18回大会。

そこで出会った仲間とともに将来自分も金融教育の普及に携わりたいと考えるようになり、今年も絶対出場しよう、と見るに堪えない成績をとりながら親に頼み込んでなんとか出場許可をもらい、エントリー開始直前に相方を半ば強制的に引っ張り出して参加した第19回大会。

今年の1日目は大会受付前まで朝から1日中東京を観光しつつ、いろんな視点から東京と田舎の違いを知る良い経験ができました。夕方には昨年もお世話になった広島代表のお2人と観戦に来てくださった昨年の愛媛代表の方と途中で合流し、5人で食べたラーメンが美味しかったです。参宮橋駅に到着し、去年は目を輝かせながら向かったオリセン、今年は会場が目に入った途端「牢獄だ…(会場が)」という(会場に対する)絶望感のもと3日間が始まりました。

本戦以外の2日間で1番印象に残ったのは昨年のプログラムにはなかった、どうやら伝統だったらしいラジオ体操(エコ甲ver.)。なんだかものすごく経済が回りそうな体操でした。この感想文を読みどんな体操か気になった方はぜひ来年度以降のエコ甲に参加しましょう。体操服も忘れずに。

さて、昨年の大会報告書に「来年も必ず決勝の舞台に戻り、次こそは1番大きなトロフィーを」と綴りさらに1年間エコ甲対策に力を入れ戻ってきたクイズ本戦の舞台でしたが、結果としては準決勝ラウンド敗退に終わってしまいました。第2ラウンドは相方が特に対策をしてくれていたノーベル経済学賞が出題され、レバレッジも上手く使い予選順位25位通過。第3ラウンドの中で1番有利だと思う2組目に滑り込むことができました。続いてタイムショックも相方の正答率に救われ2組目1位通過で迎えた準決勝。問題自体の正答率はほ



山口大会代表 慶進高等学校 2年

白土 隆太郎

大会から一週間経過した今、あの3日間を思い返してもまだ口角が上がるほど楽しかった。相方には何度も話したが人生で1番楽しかった。こんな天国に連れて行ってくれた相方、そして運営、開催してくださった皆様、ほんっとにありがとうございました。

全国大会が決まり、最初は基礎知識をぶっ飛ばして応用的な言葉や法則を覚えるという暴挙に走った。今考えるとあれは無駄だった。そしてノーベル経済学賞受賞者をいける限り覚えまくるという暴挙に出た。オリヴァー・ウィリアムソン氏の名前を同じ名前を持つサッカー選手に準えカーン・ニコ・興民と覚えたいのは良い思い出である。そして大会直前になってやっとマンキューを始めた。遅すぎである。さすが入門編と言うだけあり、分厚さ的には入門とは何なのかを問いたくなるような本であったが、読みやすく普通の高校生の僕でもそこまで路頭に迷うことなく読み進めることができた。このあたりで断片的な知識が繋がりはじめたのを感じる。全国大会の会場については、あの名門校の生徒がいる！と高校名を見る度に興奮してたのだが、出会う人皆良い人で、優しく、面白くて、たまに狂ってて。最高の友達をいっぱい作れたと思う。筆記試験の結果は相方に申し訳ないといきやうがないのだが、ビジネスケースは人生のグループ学習で最も楽しかった。一緒に活動してくれた仲間には感謝でしかない。

そしてもう最終日の話になるのだが、1,2ラウンドは、気がついたら始まっていて気がついたら終わっていた。その後の予選順位もなぜこんなに良かったのか(とはいえ25位なのだが)未だによく分かっていない。とりあえず相方に感謝、である。そして迎えた3ラウンド目、15チーム中3チームが準決勝へ勝ち上がるレギュレーションの中、発表されたルールに驚愕した。クイズを解くにあたって相方と相談できないようなルールだったのだ。ずっと相方に頼る前提で偏った勉強してきた僕は「自分のせいで負ける可能性」に怯えながらも、大舞台を楽しむことができ、無事勝ち上がることができた。正直それ以降は述べたくない程悔しい事しか残ってないのだが、全国大会のレベルの高さも肌で感じる事ができ、悔しさも含め楽しかった。

ここまで大会をなぞるように振り返ってみて明らかのようにエブリタイム楽しかったのだ。エコ甲というのは他の全国大会に比べて他の参加者との「交流」に力を入れている気がする。エコ甲というのは普段出会えないような、凄い人達から刺激を受け、友達となる事ができる良い機会である。自分はおそらく来年出れなく、それが凄く悔しいのだが、後輩たちにこの大会の楽しさや受けた刺激を伝えていきたい。

ば完璧でしたが、問題文文字開示数で攻めきれず、最後の最後に一か八かの賭けで大量失点してしまい私の高校エコ甲ライフは幕を閉じました。自分を信じ切ることができなかったこと。去年のように決勝を舞台上で楽しむことができなかったこと。優勝して相方や応援してくださった皆さんに恩返しができなかったこと。自分の出番を終え人生で1番とっていいほどの悔しさで涙が止まりませんでした。

一方で結果には表れませんでした。今年は去年よりもはるかに成長を感じることもありました。特に筆記ラウンドでは経済理論の対策がきちんと出来たことを実感しました。昨年は開きもしなかった「マンキュー入門経済学」を事前に読む中で、こんなにも市場をモデル化し簡潔に説明できるのかと感動し、同時に去年読まなかったことを後悔しました。

振り返ってみて、エコノミクス甲子園に捧げた2年間の高校生活は充実したものでした。

もともとは経済やクイズに興味はあったものの、特別好きというわけではありませんでした。しかし、私の視野と、そして人とのつながりを大きく広げてくれるエコ甲との出会いが私の人生を変えてくれました。

全国47都道府県から、豊富な経済の知識に限らず様々な分野で活躍されていたりプレゼン能力(加えてグループワークの際でのリーダーシップ)やコミュニケーション能力に長けている同年代の方々に刺激を受けられること、繋がる事ができることがエコノミクス甲子園の最大の魅力だと私は思っています。ずっと田舎にとどまっているだけでは決して起こらないであろう自身の成長の原動力となりました。

もちろん経済の知識に関してもエコ甲対策をする中で、将来必要になってくるお金がどのくらいかなどを学び将来設計を考えるいい機会にもなりました。

この2年間の経験を活かし、大学進学後は主に小中学生、高校生向けの金融教育普及活動をしていきたいです。そして1年後、今度は大会を支える側としてまたエコノミクス甲子園に戻り将来を考える高校生を支えることができればと思います。

最後になりましたが、大会を主催してくださった金融知力普及協会の方々をはじめ学生スタッフの皆様、関係者の皆様はこの場をお借りして御礼を申し上げます。ありがとうございました。





徳島大会 12月14日(土)開催



優勝チーム 徳島県立城東高等学校
(3年ぶり7回目)
「大穴」
若林 佑真・山崎 創弥



主催 阿波銀行

参加校一覧

徳島県立小松島高等学校、徳島県立富岡西高等学校、
徳島県立城東高等学校、徳島県立城北高等学校、徳島
県立城ノ内中等教育学校、徳島市立高等学校

申込みチーム数 17チーム(6校)

運営スタッフ感想

優勝した「大穴」チームのお二人、おめでとうございます。

優勝を逃したチームのみなさんも笑顔いっぱい晴れ晴れとした表情で、楽しかったとお声をいただき、非常にうれしく思っております。

今大会が盛会のうちに終わりましたのも、金融知力普及協会のみなさまをはじめ教育委員会や学校関係者のみなさまの多大なご尽力のおかげです。ありがとうございました。

徳島大会代表 徳島県立城東高等学校 2年
若林 佑真

エコノミクス甲子園への参加は、私にとって非常に有意義な三日間でした。普段の生活では得られない多くの経験を通じて、多くの学びを得ることができました。特に印象深かったのは、二日目のプレゼンテーションです。

大会には、やる気に満ち溢れ、高い能力を持つ参加者が多数集まっていました。他の班のプレゼンテーションを見ていると、各チームが異なる視点から問題解決に取り組んでおり、普段見ることのできないレベルの高い発表を聞くことができました。これは非常に良い勉強になりました。

この大会を通じて、勉強だけでなく、発想力や相手に伝える能力が高い、普段よりも一つ二つ上のレベルの人々を間近で見ることができ、非常に良い刺激を受けました。大学に入ってから、スタッフとしてエコノミクス甲子園に関わっていけたらと思います。良い経験をする事ができました。三日間本当にお世話になりました。



徳島大会代表 徳島県立城東高等学校 2年
山崎 創弥

「タダで東京に行ける大会があるらしいから一緒に出ん？」と同じ部活の友達から誘われたことが、僕のエコノミクス甲子園へ挑戦することになったきっかけでした。その時点では、別の大会と時期が被っていたため、そちらの勉強に本腰を入れるために一度は断りました。しかし、大会が終わったあと、自分の中にあった経済への興味と一回くらいは早押しボタンを使ってクイズをやってみようという気持ちが湧いてきたため、参加することを決めました。そして、運良く地方大会を勝ち上がることができました。

その後の全国大会では、周りの人たちのレベルの高さに圧倒されました。1日目に行ったエコノミカやお金の達人一首ではレクリエーションということもあって、他県から来た人たちと交流を深めることができ、楽しくできたのですが、2日目に行ったビジネスケースや筆記では自分の付け焼き刃の知識が全然通用せず、自分の勉強不足を痛感させられました。そんな中で迎えた3日目では、第1ラウンドは思うようにならず0点となってしまいましたが、第2ラウンドではグループ内で1位になることができました。しかし、前日の結果が悪すぎたために、敗退となってしまいました。

今回のエコノミクス甲子園では、結果は振るわなかったものの、今まで交流する機会がなかった地域の人たちとも仲良くなることができ、3日間を通してとても大会を楽しむことができました。

このような大会の開催や運営に携わってくださったスタッフの方々には感謝しかありません。いい経験をありがとうございました。





香川大会

12月8日(日)開催



優勝チーム 香川県立高松高等学校
(2年連続 12回目)
「ればす」
大西 瑞香・松野 真穂



主催 百十四銀行

参加校一覧

香川高等専門学校、香川県立高瀬高等学校、香川県立高松高等学校、香川県立高松商業高等学校、香川県立観音寺総合高等学校、香川県立丸亀高等学校、大手前高松高等学校、大手前丸亀高等学校

申込みチーム数 19チーム(8校)

運営スタッフ感想

香川大会は7校19チームの高校生に参加いただきました。

早押しクイズも多いに盛り上がりましたが、特に決勝ラウンドは7問目まで横一線の戦いで、そのような中、大胆な作戦が見事にハマった高松高等学校の「ればす」チームが栄冠を手に入れました。

「ればす」チームのお二人、全国大会出場、本当におめでとうございます！

全国大会でのご活躍を期待しております！

今後もより多くの高校生に参加いただけるように、楽しい大会運営につとめたいと思います。

香川大会代表 香川県立高松高等学校 2年
大西 瑞香

昨年度は参加を試みたものの、相方が見つからず断念。今年こそはと早くから松野さんをスカウトして参加しました。

21日(金)。学校の授業を3限目まで受けてから飛行機に乗り込み、羽田空港から大渋滞の中オリンピックセンターへ。エコノミカ大会の最後のあたりから参加しました。コミュニケーションに自信がなく、うまく喋れるかと不安でしたが、みなさん楽しくお話ししてくれて、とても楽しい幕開けとなりました。

22日(土)。早朝から少しばかり様子のおかしいラジオ体操で経済を回すところから始まりました。筆記ラウンドでは、前半の問題が半分以上分からないという大ピンチに直面しましたが、最後の大問で満点を取ることで挽回しました。ビジネスケースでは、都市鉱山チームのみんなと政策提案を行いました。短時間で情報収集から提案の吟味までという怒涛の作業量をこなし、なんとか発表を終えることができました。そして後夜祭。ともに戦った仲間として、翌日戦うライバルとして、たくさんの人とお話しました。

23日(日)。前日の夜に同室の大阪代表のおふたりとクイズを出し合った成果を出すぞと意気込んでいましたが、瞬発力が足りず撃沈。1Rは0ポイント、2Rは8ポイントに終わります。3Rでは、頭が真っ白になって間違っただけを連発というポンコツぶりでした。しかし、敗退して観客席から見る準決勝R、決勝Rは、ハラハラドキドキな展開の連続でとても見ごたえがあり楽しかったです。



2泊3日という長いようで短い期間でしたが、とてもよい経験をさせていただきました。ありがとうございました。

香川大会代表 香川県立高松高等学校 2年
松野 真穂

21日に記憶に残っているのは「お金の達人百人一首」です。記憶力が要されるだけでなく、上の句から下の句を推測することも大切で面白かったです。ゲームで知らなかった経済用語を知ることが出来たし、参加校の方々と交流を深める機会にもなり良かったです。22日は特に印象に残っています。筆記ラウンドは、ペアの友人と直前まで用語など確認して臨みました。用語だけでなく計算問題もあり、計算問題はあまり納得いく結果ではなかったですが、経済は数値や統計なしでは語れないので奥深さを感じました。

ビジネスケースでは、チームで共同作業をすることの難しさを感じました。私は人と話したり、協力したりするのが得意ではないので、はじめは不安でしたが、チームでテーマに対する解決策提案にむけて様々な意見を出し合うにつれて仲が深まり全員がそれぞれの意見を細かく出し合うようになり役割分担しながら自分たちにとって最高のプレゼンを完成させることができました。

23日のクイズ本戦では時間衝撃が印象に残っています。時間内に情報を処理して答えをださなければいけないのが難しかったという印象です。

予選で敗退してしまいましたが、観戦していてすごくおもしろかったです。

3日間すごく周囲の方から刺激を受けた印象的でした。経済は学んでいると人生の得になると思うので、この機会に学ぶことが出来て良かったです。





愛媛大会

12月8日(日)開催



優勝チーム 愛光高等学校
(8年ぶり5回目)
[Myosho]
明照 彬吾・安元 遼太郎



主催 伊予銀行

参加校一覧

新田高等学校、新居浜工業高等専門学校、愛媛県立松山西中等教育学校、愛媛県立新居浜西高等学校、愛媛県立新居浜工業高等学校、愛媛県立宇和島東高等学校、愛媛大学附属高等学校、愛光高等学校

申込みチーム数 21チーム(8校)

運営スタッフ感想

今年も無事に大会を終えることができ、安心しております。盛り上げてくれた愛媛県内の高校生の皆さまに感謝しています。

参加した高校生たちが真剣に金融や経済に向き合っている姿を見て、とても感銘を受けました。高校生たちの金融・経済に対する興味・関心・知識が年々高まっているように感じています。来年以降も引き続き多くの高校生に楽しく参加いただけるように、高校生により身近な方法を模索しつつ、さらに「エコノミクス甲子園」を広められるよう邁進してまいります。

本大会を主催して下さった金融知力普及協会の皆さま、第19回エコノミクス甲子園に参加してくれた愛媛県の高校生皆さま、本当にありがとうございました。



愛媛大会代表 愛光高等学校 1年

明照 彬吾

地方大会

私は、もともと「経済現象」に興味があり、中学に入学したころから、学校に所蔵されている「経済・経済学に関する本」を読みふけていました。また私は経済学部志望なので、今までに得た知識がどの程度の水準にあるのか知りたいと思っていました。ところが、学校には、エコノミクス甲子園を目指すための団体はありませんので、エコノミクス甲子園に関する情報も得ることができませんでした。

このような中、学内にポスターが貼ってあるのを見つけました。

エコノミクス甲子園に関して、ポスターには、次のような説明がありました。

「日本全国の高校生達に金融経済を学ぶ機会を提供！将来の日本をリードする人材の育成！」

私は「これだ」と思い、出場条件などを調べました。1チーム2名のグループを作り、出場することが分かりましたので、一緒に出場してくれる方を探し、安元遼太郎君と出会うことができました。地方大会出場に向けて、個人的には、充分準備したつもりでしたが、2年生、3年生で出場している方も多く、非常に苦戦しました。しかし、チームを組む安元遼太郎君の協力があり、なんとか全国大会に出場することができました。

全国大会

全国大会出場までの時間は、あまり残されていませんでした。しかし、基本的な知識の確認などを行い、本戦を迎えました。

1日目

初日開催されたエコノミクス大会は、交通事情により、



参加することができませんでした！

しかし、エコノミクス自体は、挿絵とは異なり、本格的な経済知識を必要とするものであり、実践的なゲームであると思いました。来年度参加することができれば、エコノミクス大会にも参加したいと思います。

その後、部屋に戻りました。同室になった他県代表(滋賀県)の方が非常にやさしく、いろいろと情報交換をしていただけて、非常に有益な時間となりました。また、エコノミクス甲子園の意義(実際に、出場した高校生は、どのような立場で参加するとより有益な大会となるのか等)についても、明確となりました。

2日目

ラジオ体操をした後で、筆記試験とプレゼンテーション(ビジネスケースに関するもの)を行いました。これが翌日の大会の成績にも関係するので、全力を尽くしました。しかし、思うような成績にはならず、「全国の壁」のようなものを体感しました。

私は、エコノミクス甲子園に出場するきっかけが「自分の実力を試す」というものでした。その意味では、非常に「良い」経験でした。自分の経済に関する実力が「見える化」されたからです。しかし、これは、不甲斐ない自分の実力を「現実を突きつけられる」という意味します。それゆえ、非常に「辛い」経験となりました。

3日目

これは、保護者等一般の方も観覧もありました。

2日目に続いて、自分の経済に関する実力を「見える化」する結果となりました。

エコノミクス甲子園は、経済的な知識量だけですべてが決まる大会ではありません。偶然的要素で準決勝・決勝に進むことができたり、できなかつたりすることもあります。実際に、今回のエコノミクス甲子園では、優勝校は、敗者復活戦から決勝に勝ち上がりました。これは、社会の一面の縮図のような感じもします。これから、来年度のエコノミクス甲子園出場に向けて、基礎的な知識量を増やしていこうと思います。



愛媛大会代表 愛光高等学校 1年

安元 遼太郎

エコノミクス甲子園に参加した経験は、非常に貴重で学びの多いものとなりました。大会の宿泊で滋賀県の県立守山高校の生徒たちと同室になり、最初は少し緊張していましたが、すぐに仲良くなることができました。初対面だったにもかかわらず、同じ目標に向かって一緒に過ごす時間はとても楽しく、あっという間に打ち解けることができました。夜遅くまでお互いの学校生活や興味について語り合い、長年の友達のように話せたことを今でも強く感じています。大会の二日目には、他校の生徒たちとともに「インフラ」をテーマにした議論を行いました。議論を始める前、まずはインフラの意味を改めて考え、その重要性について深く理解を深めました。インフラとは単に物理的なインフラ設備だけでなく、社会の機能を支えるためのシステム全体を指すことに気づき、それがどれほど私たちの生活に密接に関わっているかを実感しました。私たちのチームでは、現代のインフラがどのように発展しているか、そしてそれがどのように人々の生活や経済に影響を与えるかを分析しました。発表の際には、各チームが自分たちの考えを順番に発表し、他校の生徒たちと意見を交換しました。最初は少し緊張しましたが、守山高校の生徒たちと一緒に練習を重ね、協力して発表を進めることができました。インフラの重要性やその未来について熱く議論する中で、自分たちがどれほど多くの知識を得ているかを実感するとともに、他のチームの発表を聞くことで新たな視点を得ることができました。大会を通じて、経済や社会の問題について深く考え、それを仲間と共に解決する方法を模索する過程が非常に有意義でした。また、異なるバックグラウンドを持つ仲間と切磋琢磨することで、自分の考えを広げ、柔軟に対応する力を養うことができたと感じています。今後もこの経験を生かして、さらに多くの知識を吸収し、さまざまな人々と議論し合うことを楽しみにしています。





福岡大会 12月15日(日)開催



優勝チーム 福岡県立東筑高等学校
(3年連続3回目)
「虎視眈眈」
上野 美羽・藤野 菜々子



主催 北九州銀行

参加校一覧

福岡県立筑紫丘高等学校、福岡県立東筑高等学校、福岡県立春日高等学校、福岡県立戸畑高等学校、福岡県立修猷館高等学校、九州国際大学付属高等学校、上智福岡高等学校

申込みチーム数 12チーム(7校)

運営スタッフ感想

出題されたクイズの中には、一瞬、スタッフ自身も考えさせられるような問題も出題されましたが、きちんと正答されている方が多く、高校生の皆さまがこの大会に向けて金融経済について積極的に学び、理解を深めていることがよく分かりました。金融経済の知識は、将来にわたって不可欠な知識なので、今後も関心を持って学んでいただきたいと思います。



福岡大会代表 福岡県立東筑高等学校 2年
上野 美羽

ドがつく程の理系で、社会科目全般が苦手で、特に日本の政治や経済なんて全く興味がなかった私にとって、エコ甲に向けての勉強はかなりしんどかった。何だこれは、意味わからんと壁にぶつかっては、こんなに一生懸命勉強しても入試には役立たないのに、と何度考えただろう。しかし、エコ甲が終わった今では、高校生のうちに金融知力を高められて良かったと思っている。また、経済は理系文系に関わらず、全ての人が学ぶべきものであり、知っているのが常識であるべきだと思う。エコ甲にかけた努力と苦勞の約2年間は、私の一生の宝物だ。

表彰式。気づいたら私の目から涙が溢れていた。18thでは悔し涙を流した。負けてしまったことがただ悔しかった。私も準決勝、決勝の舞台に立ちたかった。あの問題に答えていれば…と何度も考え、自分の選択を後悔した。来年は涙を流したくない、もしくは嬉し涙を流したいと思った。

19thの涙は、悔し涙ではなかったと思う。もちろん負けて悔しかったし、悔しさがなかった訳では無い。ただ、悔しさよりも、もうエコ甲に出られない寂しさ、エコ甲で出逢えた友達との別れに対する悲しさの方が大きかった。18thでは、緊張と人見知りで、他の代表の方たちとあまり交流出来なかった。幸運なことに、19thには18th代表だった方たちが多くいたので、前回より緊張もなく、人見知りもせず、たくさんの方と交流が出来て楽しかった。(18th代表の方には、19thの私が全くの別人に思えたかもしれない。)交流のおかげか、大会中は自分の敵であるはずの方たちなのに、相手がステージ上にいたら応援していたし、自分が負けても相手が勝ち上がればおめでとうと思えた。互いに応援しあえて励ましあえる仲間がいることがとても心強かったし、幸せだと思った。エコ甲を通して、こんなにもたくさんの人と出逢えるとは思っていなかった。きっとここで出逢った人は、ここでしか出逢えなかった人だと思う。出逢ってくれてありがとう。



ここからはそんな仲間への感謝とエコ甲小話を書きたいと思う。

まずは、山口代表。実は私にとって1番のライバルでした。結局18thも19thも山口に勝つことは出来なかったけど、一緒に戦えてすごく楽しかった！空港でもバスでも前夜祭でも仲良くしてくれて本当にありがとう。

続いて、山形代表。同じ部屋が2人で本当に本当によかった！！ラスクもリップパイも美味しかったです！もし20thに出場していたら、是非応援させてください。楽しい3日間をありがとう。

続いて、神奈川代表。個人的に2人のことを尊敬しています。2人の知識量はもちろん、相手にないものを補いあっている感じや同じ1つの目標に対して全力で挑む様子、そしてステージ上で楽しむ2人の姿がすごく素敵でした。2年間ありがとう！

続いて、広島代表。19thがあんなに盛り上がったのは、2人のおかげだと言っても過言ではないです。18th、19thと2年間ありがとうございました！

ここで小話を1つ。1日目のアクティビティ等が終わって、部屋で待機しているとき、ノック音が聞こえました。ドアを開けるとそこには、2人の可愛いリアル桃太郎(岡山代表)がいました。2人は岡山の特産品を配っていて、私はきびだんごを貰いましたとさ。めでたしめでたし。

いて、岡山代表。2人とは18thも一緒だったのに、今回は全く関わりがなかったよね。でも19thでは、たくさんお話出来て写真も撮れて楽しかった！仲良くしてくれてありがとう。

続いて、ビジネスケースで一緒だった3人。序盤から割と打ち解けられて、話し合いもスムーズに進んで、難しいビジネスケースだったけど、すごく楽しかったです。スライドは私たちのが1番！とか言ったら怒られますが、私は自分たちのプレゼンに誇りを持っています。ビジネスケースが3人と一緒に良かったです！本当にありがとう。

そして、山梨代表。まずは優勝おめでとう！もちろん悔しさも羨みしさもあるけど、敗者復活から決勝まで見事な勝ち上がりで圧倒されました。NY楽しんでください！本当におめでとう。

最後に、相方。私のせいでプレッシャーをたくさん抱えさせてしまったよね。それでも、私と最後まで戦ってくれて本当にありがとう！

19thはルールも問題も18thよりパワーアップしていて、とても楽しかったです。企画、運営に携わった全ての皆様へ感謝申し上げます。楽しい大会をありがとうございました。そして、私たちを応援して下さった家族、友達、銀行の方、先輩、クイズ研のみんな。成果に乏しい大会となりましたが、たくさんの応援ありがとうございました。

20thの大会報告書にも東筑の名が刻まれるといいなという思いを込めて、私の報告書を締めたいと思います。出逢いに感謝。2年間ありがとうございました！エコ甲は私の青春でした。

福岡大会代表 福岡県立東筑高等学校 2年

藤野 菜々子

まず、今大会に携わって下さった全ての方々に感謝申し上げます。

1日目 高校修学旅行に次ぐ2度目の東京。空港の方がスーツケースに「全国大会頑張る」といった内容のメッセージカードを付けて下さり、気持ちの良いスタートを切れた。エコノミカ大会では、和気あいあいとした雰囲気の中で交流が行われ、とても楽しかった。

2日目 ビジネスケースでは全く知らない人とプレゼン作成にあたった。普段人見知りな私にとって前日からかなりの不安要素であったが、班員の知識とアイデアにただただ感動した。しかも同学年とは恐ろしい。これからの日本の将来は明るいと思える時間となった。

3日目 第一ラウンドでは私がボタンを押し間違えかなり焦った。その上前日の筆記でもかなり足を引っ張っていたようで相当順位が悪く、自分の勉強の仕方に詰め味の甘さを感じた。運営スタッフと客席にはクイズ研究会の先輩方もいらっしたというのに、体裁が悪かった。この日は相方に迷惑しかかけておらず、申し訳なさでいっばいだった。

今大会を通して私は、もう一度金融経済について学び直し理解を深めたいと思った。やはり悔しい気持ち大きい。学校の授業だけでは補えない価値のある知識を、より自分のものに変えていきたい。

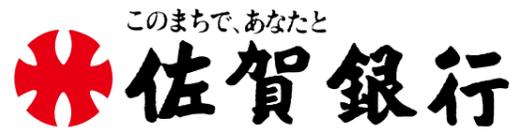
最後になりましたが、上野さんへ。大会期間中、本当にありがとうございました。もの凄く心強かったです。上野さんのお陰で貴重な経験を積むことが出来ました。私のせいで相当悔しい思いをさせていただきますみません。来年はクイズ研の後輩と出場すると思います。全国優勝してきて下さい。応援しています。





佐賀大会

12月15日(日)開催



優勝チーム 弘学館高等学校
(2年連続5回目)
[ECO 航空]
溝口 資仁・志岐 旺飛



主催 佐賀銀行

参加校一覧

弘学館高等学校、佐賀県立嬉野高等学校、佐賀県立佐賀商業高等学校

申込みチーム数 5チーム(3校)

佐賀大会代表 弘学館高等学校 2年
溝口 資仁

僕らは2年連続、同じメンバーで佐賀大会を勝ち抜きました。僕は心の内で今回こそは絶対に優勝しなければならぬという一種の責任感めいたものを感じていました。

そこで、僕は全国大会で優勝するために必要な道筋を逆算し、クイズを大量に作り、頭に経済用語を詰め込んでいきました。これまでに僕が作ったクイズはのべ3500問を超えます。志岐君と日々早押し形式で出題しては復習の繰り返しでした。僕がクイズを出題するときに志岐君が「来なさいモン・ジョンソン」などのしょうもない経済ギャグを言ったり、二人共通の好きな経済用語が「ゴルディロックス相場」で一致した辺りから優勝の可能性を大きく感じていました。

全国大会では、2年連続で参加しているチームや去年の志岐君が飛び跳ねている画像を見た人が多かったため、落ち着いた気持ちで臨めました。

土曜日最初に待ち受けていた前回大失態を演じた筆記ラウンドでも、僕らは十分に対策をして2人とも以前よりも飛躍的に点数を上げたように感じました。ビジネスケースラウンドでは4人中3人が2年連続のメンバーで、それぞれが得意なことを活かし、迅速に議論を進めました。プレゼンテーションでは質疑応答で上手に受け答えできなかった時にメンバーに救いの手を差し伸べてもらったことを鮮明に覚えています。結果的には僕も志岐君も持つものを全て発揮し切ることが叶い、筆記ラウンド、ビジネスラウンド共に好成績を残すことができました。



本番当日、第一ラウンドでは早押しボタンを誤って押してしまい、必死に答えを導いたものの、誤答となってしまい、神から見放されたように感じました。しかし、第二ラウンドでは落ち着いて回答できるボード及び4択形式だったので、日頃の成果を出し切りグループ内1位の成績を叩き出すことができ、予選順位も前回の39位から大きく順位を上げ、11位となりました。

運命の第三ラウンドは今でも夢に出てきます。僕と志岐君は担当をある程度割り振っており、また冷静に思考し解答できるクイズが得意です。しかし、その形式はまさにそれとは真逆でした。ここでクイズに挑戦し、しかも出題から解答までを5秒以内に行うというものでした。僕は冷静な判断力を欠き、普段なら決して間違えない問題を取りこぼしてしまいました。これによって呆気なく敗退し、ずっと涙が止まらず、その後は放心状態でした。

僕はこの大会を通して学びの喜びと多様で複雑化していく社会を見る目を養うことができました。

今回も大会を盛大に盛り上げてくれた全ての方々、僕らを応援し、励ましていただいた家族や友人、先生方と志岐君に心より感謝申し上げます。

佐賀大会代表 弘学館高等学校 2年

志岐 旺飛

エコノミクス甲子園に出場し、経済の奥深さとクイズの難しさを改めて実感しました。大会に向けての準備では、金融や経済に関する知識を深めるために、ニュースや専門書を読み、過去問を解くなどの学習を重ねました。途中までは順調だったものの、第3ラウンドの純粋な知識量で敗北を喫し、自分の知識不足を思い知りました。しかし、前回の事前順位が38位だったのに対し、今回は11位になるなど、自分の成長を強く実感しました。

また、他の参加者と交流する機会もあり、経済に対する興味や学習方法について話し合うことができたのも貴重な経験でした。

この大会を通じて、経済の知識を学ぶことの楽しさを改めて感じました。今後は、今回の経験を活かし、さらに深く経済を学び、実生活や将来のキャリアにも活かしていきたいと考えています。エコノミクス甲子園への挑戦は、知識を得るだけでなく、新たな視点を持つきっかけにもなりました。総合型選抜で大学入試を突破できれば、高3にまた参加したいです。この度はとても楽しい全国大会を開催していただき、誠にありがとうございました。





長崎大会 12月15日(日)開催

十八親和銀行

優勝チーム 長崎県立長崎東高等学校
(初出場)
「長崎東」
新宮 藍・坂本 莉菜



主催 十八親和銀行

参加校一覧

青雲高等学校、長崎県立長崎東高等学校、長崎県立佐世保北高等学校、長崎南山高等学校、創成館高等学校

申込みチーム数 8チーム(5校)

運営スタッフ感想

長崎東チームの皆さん、長崎大会の優勝おめでとうございます。

昨年度の長崎県代表は全国大会でも優勝し、国際経済オリンピックにも参加されました。

今年度も、是非全国大会での優勝を目指し、頑張ってください。健闘をお祈りいたします。

長崎大会代表 長崎県立長崎東高等学校 1年
新宮 藍

3日間ありがとうございました。最初は一年生ということもあり緊張していましたが振り返ってみるととても新鮮で充実した3日間だったと思います。1日目は緊張しながらも他県の生徒とたくさん交流することができ楽しかったです。2日目に行われたビジネスケースでは、初対面の高校生との共同作業だったので初めは上手くコミュニケーションが上手く取れるか不安でしたが、お互いの金融知識を活用してアイデアを出していくのはとても勉強になりました。3日目の本番でも緊張しましたが楽しかったです。来年も出場できるよう頑張りたいです。



長崎大会代表 長崎県立長崎東高等学校 1年
坂本 莉菜

エコノミクス甲子園は今までにないほど刺激を受ける貴重な経験でした。

私は母から大会への参加を提案され、特別乗り気ではなかったものの進路や将来になにかいい影響があるかもしれないと感じ出場することにしました。しかし、大会が終わった今では一步踏み出す決断をしたことはとても自分にとってプラスになったと思います。

特に印象に残ったことは、大会に参加していた学生が経済について専門的な知識や強い好奇心を持っていたことです。私の周辺には経済や金融に詳しい人や興味を持っている年代の人がほとんどいません。そんな中で既にハイレベルな知識を持っている人とたくさん触れ合うことができ、とても刺激を受けました。そして、もっと経済について知りたいと感じるようになりました。また、2日目にあったビジネスケースでは、プレゼンスキルに驚かされました。課題への解決策が面白いのはもちろんですが、プレゼンをする際の言語化や簡潔で、かつ聞き手を引き付けるような話し方を自然と行っていて感化されました。また大会当日では正解するたびに盛り上がり、全員を応援する和やかな雰囲気がとても楽しかったです。準決勝や決勝で戦っているかっこいい姿を近くでみることで、来年は決勝進出し、海外の研修を勝ち取りたいと強く感じました。私は今回の出場が初めてで大会の雰囲気も全くつかめず、勉強も軽くしかしていませんでしたが、知識不足であっても大会の参加は間違いなくいい経験だったと思います。参加しなければ、経済の勉強のモチベーションもなく、興味が強くなることもなかったはず。来年は今回受けた刺激を糧に一年間一生懸命勉強し、勝ち進んでいきたいです。大会を支えてくださった運営の方々や、気軽に話しかけわからないことを教えてくれた参加者のみんな本当にありがとうございました。





大分大会 12月15日(日)開催



優勝チーム 大分県立大分上野丘高等学校
(2年ぶり2回目)
「細胞」
田代 碧衣・倉林 咲季



主催 SBI 損害保険

参加校一覧

楊志館高等学校、日本文理大学附属高等学校、岩田高等学校、大分県立大分豊府高等学校、大分県立大分上野丘高等学校、大分県立別府翔青高等学校、大分東明高等学校

申込みチーム数 13チーム(7校)

運営スタッフ感想

弊社主催として3年目を迎えた今大会では、13チーム26名の高校生に参加いただき、大分上野丘高等学校の「細胞」チームが見事、優勝を勝ち取りました。おめでとうございます！

正解得点だけでなく、回答速度による追加得点も素晴らしい、戦略面でも長けていたと思います。

オンライン大会では、皆さんがそれぞれにリラックスできる場所で楽しみながら、ご自身の持てる力を発揮されている姿を拝見することができました。何よりも、チームメイトと協力し合いながらハイレベルな問題に立ち向かう姿が印象的でした。「将来を担う高校生に、楽しみながら金融知識を得る機会を提供する」ということに貢献できたのではないかと感じています。

最後に、ご参加いただいた高校生の皆さんと大会を周知いただいた先生方、そして運営スタッフの方々に心よりお礼申し上げます。

大分大会代表 大分県立大分上野丘高等学校 2年 田代 碧衣

今回が初めての参加でした。クイズをやってみたいという単純な理由で参加を決めました。3日間とても楽しかったので、出来る限り頑張ってお感想文を書こうと思います。

1日目

テストがあったため、遅れての参加でした。空港での待ち時間に相方とエコノミカをするほど楽しみにしていたのですが、エコノミカ大会には間に合わず残念でした。夜は追い込みを頑張りました。同じ部屋の宮城代表の2人とも仲良くなれてうれしいです。

2日目

ラジオ体操がとても楽しかったです。また聞きたいので音源公開してください！そして朝のアラーム音に使わせてください！筆記に関してはなかなかうまく行った気がします。ビジネスケースでは、尖った発想を現実はどう落とし込むか考えていくのが楽しかったです。本番ではただただ、「本田」のみんなのプレゼン力の高さに圧倒されました。

3日目

記念すべき初早押しは誤答におわってしまいました。思うことはたくさんありますが、それも全て実力です。予選順位が悲惨にはなっていないことが救いです。3rdラウンドはほぼタイムショックでした。焦りながらも実力が出せたのかなと思います。ただ、勉強効率を求めて2人で勉強する分野を分担していたことはちょっと作戦失敗です。来年参加する方には勉強分野を分担しないことをおすすめします。敗退してからも、熱い展開



でとても感動しました。こんな感動したのは人生初ですね。(冗談抜きで)このようなおもしろい大会を現地でみんなと見ることができたということがとても嬉しいです。決勝に出られた方々は自分とは比べ物にならない知識レベルでそれはもう、すごかったです。それから、お昼のカツサンドが大会中の食事で1番美味しかったです。

エコノミクス甲子園は今までで1番充実した3日間でした。また出たいと思いますが、来年は3年生なのでこれで終わりです。

このような盛大な大会を開催していただいた金融知力普及協会の皆様方、スポンサーの方々、そしてさまざまな楽しい企画を考えた大学生スタッフの方々に深く感謝申し上げます。私も大学生になれた時には貢献しようと思います。

最後になりましたが、SBI 損害保険さん、貴重な機会をありがとうございました！本番中、応援していただきとても心強かったです。今までにない経験をたくさんさせていただきました。必ず今後の人生に活かします。

また、今大会に参加できたのは、相方、学校の先生方、家族のおかげでもあります。感謝の気持ちでいっぱい。関わってくださった皆さん、ありがとうございました！



大分大会代表 大分県立大分上野丘高等学校 2年 倉林 咲季

私は、正直初めはあまり金融や経済に興味がなく、友達に誘われて、もしかしたら東京に行けるかもしれないという邪な気持ちで地方大会に参加しました。そこから相方の力、そして運もあり、地方大会を優勝し、全国大会へ進むということになり、喜びもありましたが、大分県の代表としての責務を果たさないといけないという気持ちが大きくありました。

いざ東京に来て全国大会に参加して、そのレベルの高さに驚かされました。ビジネスケースでは、インフラという難しいテーマでありながらも、様々な面から検討し、プレゼンとしてまとめていく能力の高い班員のみんなには本当に刺激を受けました。結果は2位と好成績を取らせていただき、本当に感謝しかありません。大会本番では、多様な分野から出される問題に手も足も出ませんでした。予選順位は24位と健闘し、緊張もしましたが、楽しんでクイズに参加できました。また、難しい問題に次々と答えていく他のチームの方々の知識量に衝撃を受けるとともに、その白熱した戦いを楽しませていただきました。

この大会に参加したことで、たくさんの仲間ができて、たくさんの学びを得ることができました。初めは興味もなかった経済にも興味が湧き、多くの知識を身につけられました。今後の人生に役立つとても貴重な体験をすることができたと思います。スポンサーの皆様、ボランティアスタッフの方々、このようなかけがえのない機会をいただき、本当にありがとうございました。





宮崎大会

12月15日(日)開催



優勝チーム 鵬翔高等学校
(初出場)
[偏差値 32]
長友 悠・秋岡 礼人



主催 宮崎銀行・宮崎太陽銀行

参加校一覧

鵬翔高等学校、宮崎第一高等学校、宮崎県立都城工業高等学校、宮崎県立宮崎西高等学校、宮崎県立妻高等学校

申込みチーム数 9チーム(5校)

運営スタッフ感想

前年度に引き続き、交通の便や宮崎の土地柄を考慮し、遠方の高校生も参加しやすいオンライン開催を選択することといたしました。

参加されている高校生たちの熱戦を直接目にすることはできませんでしたが、参加された高校生にとって、金融経済へ興味をもつ1つのきっかけになればと考えております。全国大会でも持っている力を発揮して、全力で楽しんでもらえればと思います。

宮崎大会代表 鵬翔高等学校 2年

長友 悠

今回、エコノミクス甲子園の全国大会に出場し、普段関わることのない灘高校の生徒や、インターンなど多様な経験を持つ人たちと話す機会を得た。彼らと関わることで、自分の世界の見方が大きく変わった。経済や金融の知識だけでなく、彼らの勉強方法や考え方に触れたことで、自分の学習スタイルを見直すきっかけにもなった。特に印象に残っているのは、敗者復活戦から勝ち上がったチームが最終的に優勝したことだ。最後まで諦めずに戦い続ける姿勢には心を打たれたし、逆転優勝というドラマチックな展開に大会のレベルの高さを改めて感じた。また、優勝チームにはニューヨーク研修の特典があり、正直とても羨ましく思った。自分もいつかニューヨークに行って、世界の金融の中心地をこの目で見てみたいと思うようになった。

大会に向けては、エコノミクス甲子園で支給された教材だけでなく、大学受験を見据えて政治・経済の勉強にも力を入れた。経済の基礎知識だけでなく、時事問題や政治の仕組みについても学んだことで、問題に対する理解が深まったと感じている。

特に灘高校の生徒たちの勉強法には驚かされた。彼らは1日2000単語を3周することで、1週間でほぼすべて覚えるという方法を実践していた。また、共通テスト同日模試で9割を取っており、普段からハイレベルな勉強をしていることがよく分かった。自分の学習法と比べると、まだまだ改善できる点が多いと痛感した。この経験を活かし、来年の大学受験に向けてさらに勉強を加速させていくつもりだ。そして、もう一度全国



大会に挑戦し、今度こそさらに上を目指したいと思う。今回得た学びをしっかりと活かし、自分の成長につなげていきたい。

宮崎大会代表 鵬翔高等学校 2年

秋岡 礼人

この大会に参加したきっかけは友達に誘われたことです。金融やお金の知識を競うクイズ大会だと聞いて最初は楽しみ半分で挑みました。私自身は最初金融やお金に関する知識はほとんどありませんでしたが、予選大会を突破する為に本気で勉強して経済の知識をつけたのはいい思い出です。

私がこの大会で特に楽しかったのは二月二十二日のビジネスケースです。最初はこのビジネスケースで何をするのか分からず不安でしたが、いざやってみるととても面白いものでした。同じチームになった選手達と相談しながらプレゼン資料を作る中でコミュニケーションを取り合い、意見を出し合って親交を深め、そして日本のインフラ設備の現状を知れる貴重な機会を経験することができました。

私はこの大会を通して仲間達と相談し意見を出し合う過程を通す内にチームワークの大事さを痛感しました。クイズ大会本番ではいい成績を残すことができず悔しさもありますが、それ以上に多くの事を学び、体験させていただいたことに感謝しています。また機会があれば参加し、リベンジを果たしたいです。





沖縄大会

12月7日(土)開催

① 沖縄銀行

優勝チーム 昭和薬科大学附属高等学校
(2年連続 13回目)
「しまじろう」
島袋 瑠・内山 藤次郎



主催 沖縄銀行

参加校一覧

沖縄県立開邦高等学校、沖縄県立那覇国際高等学校、
沖縄県立豊見城高等学校、沖縄県立球陽高等学校、沖
縄県立沖縄水産高等学校、沖縄県立向陽高等学校、沖
縄尚学高等学校、昭和薬科大学附属高等学校

申込みチーム数 20チーム(8校)

運営スタッフ感想

沖縄大会は20チーム40名に参加いただき、熱戦とな
りました。

単に知識を競うだけではなく、勝つための戦略や仲間
との協力、冷静な判断力、お互いへのサポート等も、
勝敗のカギになったと感じました。

自分のチームの得点に一喜一憂しながらも、他の出場
チームへも熱心な応援をする姿がとても印象的で、エ
コノミクス甲子園での体験が、これからの未来の豊か
な経験の一つになることを願います。

今回は、前回惜しくも優勝を逃し2位となったチーム
がリベンジを果たして優勝し、沖縄代表となりました。
全国大会での活躍を応援したいと思います。

沖縄大会代表 昭和薬科大学附属高等学校 2年
島袋 瑠

私は今回、エコノミクス甲子園に参加し、経済や金融
について深く学ぶ貴重な経験をする事ができた。こ
の大会に向けての準備、競技中の緊張感、そして大会
を終えた後の達成感、私にとって非常に意義深く、
エコノミクス甲子園に参加したからこそ得られたもの
だった。

まず、大会に向けた勉強では、金融や経済に関する幅
広い知識を身につけることが求められた。普段の学校
の授業では表面的な知識の吸収にとどまっていた投資
や為替、金融政策に関する知識を深めるのは新鮮で面
白かった。過去問を解いたり、ニュースをチェックし
たりしながら、実際の経済の動きを意識するようにな
ったことは、自分の視野を広げる大きなきっかけとな
った。

又、去年全国大会に出場した友人と共に、エコノミカ
を勉強の休憩がてら行ったのもエコノミクス甲子園の
勉強ならではの事として印象深い。

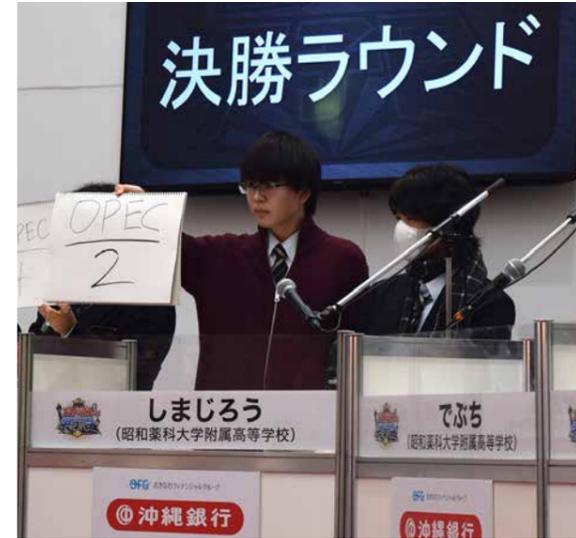
そして迎えた大会当日は、全国から集まった同世代の学
生たちと競い合うという独特の緊張感があった。しか
し、決勝前日のビジネスケースでは他のチームのいう
なれば明日戦うライバルと協力してプレゼンテーショ
ンを作ったり、同室の代表とクイズの対策をする過程
を通じて、程よい緊張感の中で協力し合うという、上
質な人間関係を構築する重要性を知ることが出来た。



このように、エコノミクス甲子園に参加した事で、私は、
単に経済や金融の知識が増えただけでなく、社会に対
する視野を広げ、将来社会で活躍するとはどういう事
を意味するのかを少し理解出来た気がした。

沖縄大会代表 昭和薬科大学附属高等学校 2年
内山 藤次郎

私は、今回が初のエコノミクス甲子園本戦出場であり、
また、クイズの全国大会にも初出場でした。前回のエ
コノミクス甲子園の県予選にも出場しましたが、惜し
くも2位となってしまい、全国大会に参加できません
でした。しかし、今回は、相方の島袋くんのおかげで、
県予選を無事に突破し、全国大会に参加することがで
きました。最初、全国大会に出場することが決まった
際には、「自分なんかに参加してもいいのかな?しかも、
不得意な経済だし...」や「結構ピリピリしてるのかな、
楽しめるのかな?」などと思っていました。しかし、実
際に参加して、3日間を過ごしてみると、スタッフの方々
や他の参加者の方々、特に同室だった栃木県の参加者
の方の全員が全員優しく、クイズ大会中やエコノミ
カ大会などのクイズ大会外の時もとても楽しく過ごす
ことができました。今回は予選敗退という少し残念な
結果になってしまいましたが、すごく貴重な経験がで
きた素晴らしい大会になったと思っています。来年は、
受験生になってしまうので、参加できるかどうかはわ
かりませんが、どうかして、参加できる道を探して
みたいと思います。とても楽しかったです!





ネット大会 12月14日(土)開催



優勝チーム 芝高等学校
(初出場)
「武蔵小山最強！」
富田 哲志・大和 諒玄



主催 住信 SBI ネット銀行

参加校一覧

N高等学校、青稜高等学校、長崎県立佐世保北高等学校、芝高等学校、筑波大学附属高等学校、立命館守山高等学校、福井県立武生高等学校、神戸海星女子学院高等学校、神戸大学附属中等教育学校、獨協高等学校、熊本県立熊本高等学校、渋谷教育学園渋谷高等学校、桃山学院高等学校、札幌日本大学高等学校、旭川龍谷高等学校、新潟県立新潟高等学校、広島学院高等学校、常総学院高等学校、岩手県立盛岡第一高等学校、岡山白陵高等学校、多治見西高等学校、上智福岡高等学校、三重県立四日市商業高等学校、ラ・サール高等学校、ドルトン東京学園高等部

申込みチーム数 42 チーム (25 校)

運営スタッフ感想

参加の高校生の一部の方々がカメラをオンにして顔を見せてくれることにとても好感が持てました。中でも、カメラオンにしていた参加者の中に、見事3位に入賞された方が映っており入賞の喜びが伝わりオンラインという環境の中でも参加者との距離感がぐっと近く感じられました。

司会を務められたお二方の貢献は大きいと感じます。スムーズな進行と的確なコメントが大会の成功に大きく貢献していたと思います。心より感謝しております。

インターネット大会代表 芝高等学校 2年

富田 哲志

結論から言うと、めちゃくちゃ楽しい三日間でした。

一日目はまずエコノミカから始まり、6人と対戦したのですが、全員いい人で普段東京や神奈川住みの人とは会わないので関東以外はこんな感じなんだなとか、みんな方言使ってるんだなとか珍しい体験ができました。あとエコノミカは日本株二枚とドル一枚を最初に出すのが流行ってました。そのあともかるた等で親睦が深まりました。

二日目は一番大変でした、朝ご飯を食べた後はまず筆記試験で日本語でも解けないような問題がいくつかあって、何とか解ききれましたがそのあと間違いだらけだとわかって絶望しました。その後はビジネスケースが始まりました、ビジネスケースは団体戦で私のチームは6人だったんですがマジで皆めちゃくちゃ優秀で良いやつだったおかげで何とかかなりの完成度でできたと思います、テーマも難しくても時間内に全部の用意は終わりませんでした。発表順が最後だったのでその間に原稿を作るというほぼずるみたいなことをして何とか乗り切ったおかげで英語コースで一位をとれました。その後は立食パーティで皆発表が終わった後で緊張が解けたから正直座りたいよなーって話してました。正直な話をするとパーティの食事は普段食べてるものよりだいぶ味が濃くて米もなかったのでサラダばかり食べてました、その後ご当地商品の抽選会でしたが芝は二人とも入手できずちょっと残念な気持ちに。

三日目はとうとう決勝戦が始まりました、第一ラウンドは問題の難易度としてはそこまで高くなかったです



が、クイズ研究部に早押しでポコポコにされ、見せ場なし。第二ラウンドはレパレッジを良いタイミングで使えたのもあって活躍できたと思います。その後控室で昼食を食べると今までの得点をもとにした順位が発表され、正直筆記試験の時点であきらめていたところ四位という高順位を知らされこれいけるんじゃないかと調子に乗っていたら第三ラウンドですぐ負けました。その後の敗者復活ラウンドでも復活できず私の戦いは終了しましたが、その後も大会の観戦で大逆転があったりなど、とても楽しめました。

相方の大和には無理やり付き合わせてしまって申し訳ない気持ちもありますが、非常に楽しい三日間だったので来年もできればまた出場したいと思います。大会関係者の皆様本当にありがとうございました！

インターネット大会代表 芝高等学校 2年

大和 諒玄

相方からこの大会を教えてもらった時、既に東京大会が終わっていたため、インターネット大会に出場することにしました。インターネット大会では50問中1問しか最速回答できず半ば諦めていましたがまさかの優勝で全国大会に出場できることになりました。全国大会には配布教材のマンキュー入門経済学と学校で使用している政治経済の資料集を勉強して臨みました。1日目 午後6時頃から友達作りを兼ねたエコノミカ大会から始まりました。対戦成績は1勝5敗、合計得点3点と散々の結果でしたが、ここでできた友達のおかげで大会期間中孤独にならずに済みました。また、お話を頂いた三井住友DSアセットマネジメントの井上さんが芝高校出身の先輩だと知り、不安が和らいだのを覚えています。続いてお金の達人一首をしたのですが、こちらも殆ど取れずに終わりました。2日目 朝から筆記テストを受けました。後から誤答は減点だと知り、全く分からない問題も適当に答えた事を後悔しました。その後ビジネスケースを行いました。初対面のメンバーと上手くやっていたか不安でしたが皆優しく、すぐに打ち解けることができました。準備時間が短く、完璧な発表ができたとは言えませんが、終わった後には達成感を感じました。ビジネスケースの後は立食パーティがありました。豪華な食事に小躍りしたのも束の間朝の筆記テストの正解が発表され、周りで「俺1

ミスだわ〜」「これは当然」等と言う声が聞こえ絶望しました。3日目 大ホールに入るとあまりの大きさに緊張しました。1次ラウンドの早押しクイズでは、クイズ研究部相手に歯が立ちませんでした。2次ラウンドは早押しではなかったこと、そして何より相方のおかげで組2番の高得点で終わることが出来ました。昼食後、2日目の筆記テストとビジネスケース、3日目の1次、2次ラウンドの合計点の順位が発表されました。25番くらいなら万々歳だと言いつつも実際は35番くらいだろうと予想していたところ、4位のバッジを渡され狐につままれたような気分になりました。その後3次ラウンドに臨みましたが結局敗退しました。突然上げられ、すぐに落とされた気分が状況を理解するのに時間がかかりました。落ち着いてくるともう終わってしまったのだと残念な気持ちになりましたが、準決勝や決勝の問題を考えながら観戦するのは楽しく、あっという間に大会が終わりました。最後に、この大会では経済の知識だけでなくかけがえのない知見を得ることが出来ました。痛感した自分の小ささをばねにこれからも精進していこうと思います。そして大会をつくりあげて下さった皆様、本当にありがとうございました。





台湾大会

12月7日(土)開催



優勝チーム 臺中市私立明道高級中學
(初出場)

陳庭緯・周子鈞



台湾代表 臺中市私立明道高級中學 2年

陳庭緯・周子鈞

空港を出発するとき、私たちは緊張と興奮の入り混じった気持ちで、道中では予想される問題や挑戦について話し合い、これまで学んできた知識を振り返りました。日本に到着した後、まず環境に慣れるために簡単に競技会場を見学し、日本中の選手たちと交流しました。彼らの温かい歓迎に触れ、国境を越えた友情の芽生えを感じました。

大会の第一日目では、経済ボードゲームを通じて他の選手と交流しました。このゲームは非常に興味深く、他国の選手の経済学に関する深い知識と戦略的思考を目の当たりにしました。ゲームを通じて経済学の柔軟な応用を学び、各国の異なる戦略に触れることができました。この日は競技モードに素早く適応する良い機会となり、さらに他の選手たちとの友情を深める貴重な時間となりました。一部の選手とは「今後も連絡を取り合おう」と約束し、友情の輪が広がりました。

二日目は筆記試験と経済プレゼンテーションの挑戦がありました。午前中の筆記試験では、私たちがよく知る経済学の問題が多く出題され、全力で解答しました。特に印象的だったのは、試験前の体操活動です。その掛け声が経済学に関連しており、緊張した雰囲気の中にも笑いが生まれました。

その後、6時間という限られた時間の中で、日本の社会課題に対する実行可能な経済政策を考え、発表しなければなりません。この挑戦は、時間管理・コミュニケーション能力・データ収集能力・メディアリテラシーを試されるものでした。私たちは明確に役割を分



担し、テーマを迅速に決定し、データを収集し、レポートを作成し、最良の状態でのプレゼンテーションを行いました。この過程で効率的なチームワークの大切さを学び、仲間の優れたスキルから多くのことを吸収しました。

夜には「前夜祭」が開催され、私たちはリラックスしながら他の選手たちとさらに交流を深めることができました。この大会を通じて築いた友情は、私たちにとってかけがえのない思い出となりました。

ついに本戦の日を迎えました。私たちは優勝することはできず、目立った成績を収めることもできませんでしたが、決して落胆することはありませんでした。なぜなら、私たちはこの大会を通じて自分たちの学んだことを最大限に発揮し、経済学の知識を実際に応用する貴重な経験を得ることができたからです。

この大会は私たちにとって決して「失敗」ではなく、大きな学びの機会でした。また、優勝した選手たちの圧倒的な実力には心から敬意を抱きました。彼らの準備の充実ぶりや卓越したメンタルの強さを目の当たりにし、「上には上がいる」ということを痛感しました。この経験を糧に、私たちは今後さらに努力を重ねる決意をしました。

今回の「エコノミクス甲子園」の旅は、私たちにとって非常に貴重な体験となりました。経済学と日本語のスキルを向上させただけでなく、チームワーク・時間管理・問題解決能力の重要性を身をもって学びました。結果は期待通りではなかったかもしれませんが、それ以上の学びと成長を得ることができました。この経験を次なる挑戦へのモチベーションとして、今後も経済学と語学の学習に励み、新たな課題に立ち向かっていきます！





1 日目

■ エコノミカ大会

大会初日の夕食後には「三井住友 DS アセットマネジメント杯 エコノミカ大会」が開催されました。エコノミカとは、金融・経済をテーマにした対戦型のカードゲームです。今回も、例年通り本大会の成績には影響しない独立企画として個人戦で行われました。高校生たちは他校の参加者と熱戦を繰り広げる一方で、対戦の間には打ち解けた雰囲気交流している様子も垣間見られました。表彰式では、上位入賞者および抽選で選ばれた参加者に、エコノミカに登場するキャラクターのグッズなどが贈呈されました。三井住友 DS アセットマネジメント株式会社 サステナビリティ推進室長の井上様、サステナビリティ推進部の田中純子様からは開会式の挨拶をいただき、対戦にもご参加いただきました。



■ お金の達人一首大会

エコノミカ大会に続いて「Visa 杯 第19回エコノミクス甲子園 お金の達人一首大会」が開催されました。高校生はそれぞれペア同士でチームを組み、3チームで対戦を行いました。全国大会1日目の緊張した相好を混ぜた様相はどこ吹く風と、大会が終わる頃にはチームの垣根を越えた活発な交流が行われていました。表彰式では、ビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社コンシューマーソリューションズディレクター松本直久様から成績優秀者に対して賞品や賞状が贈られました。



2 日目

■ ラジオ体操

大会2日目は早朝6時45分からラジオ体操が行われました。今年はエコ甲特別バージョンとして実施され、音源には「リスクヘッジ」や「景気の調整」といった経済用語が盛り込まれるなど、エコ甲らしさが滲み出る内容となりました。高校生たちは、朝の冷え込みで震えながらも、登場する経済用語に思わず笑みをこぼし、和やかな朝のひとときを過ごしました。



■ 筆記ラウンド

朝食を済ませた高校生たちには筆記ラウンドが行われました。高校生たちは、日本語版と英語版のいずれかを各自で選び、45分という制限時間の中、己の頭脳だけを頼りに問題に取り組みました。知識だけでは解けない問題や、経済学に対する深い理解が求められる設問も多く、高校生にとってはかなり難しい内容となりました。一方で、150点満点中130点近くを叩き出した高校生もおり、その実力の高さがうかがえました。



■ ビジネスケースラウンド

2日目のメインイベントは「ビジネスケースラウンド」でした。このラウンドは、IEO（国際経済オリンピック）の「Business Case Task」を模したものです。高校生たちは5人程度のグループに分かれて、提示されたテーマに対してリサーチやディスカッションを行い、夕方の発表会でプレゼンテーションを行いました。テーマは『日本の老朽化インフラの維持・補修』で、高校生たちはコンサルティングファームになりきって、与えられた情報をもとに効率や費用の観点から日本政府に提言プランを作成し、グループで発表しました。なかには独自の分析を行うグループもあり、高校生離れしたハイレベルなプレゼンテーションが繰り広げられました。



■ 前夜祭

2日目の最後には、前夜祭として立食パーティーが行われました。高校生だけでなく、地方大会を主催する金融機関の方やご来賓の方も参加した前夜祭は、幅広い年齢層による交流の場となりました。また、全国の特産品を金融機関の方やご来賓の方に持ち寄っていただき、抽選会も行われました。緊張続きだった高校生にとっては、束の間の休息となりました。





3 日目

第1ラウンド 「クイズ! 三角関係」

このラウンドでは、全45チームのうち3チームずつが15組に分かれて早押しクイズに挑戦しました。一組につき、問題は全部で3問出題され、正解するとプラス10点、不正解はマイナス10点、無回答は0点と得点変動します。誤答した場合は次の問題に回答できません。また、2問正解するとボーナスとして追加で10点獲得し、そのチームはそれ以降の回答ができなくなる、というルールでした。

このラウンドでは、勝負を早めに仕掛けて得点を狙うチームや、慎重に状況を見極めながら確実にポイントを積み重ねるチームなど、各チームの戦略が光る場面が随所に見られました。問題文の冒頭にボタンが押された瞬間には、会場にどよめきが広がり、静寂の中響く正誤判定音には会場全体が盛り上がりました。知識、一瞬の判断力、勝負勘。地方大会優勝者たちによる早押しクイズは終始緊迫感に満ちていました。



第2ラウンド 「クイズ! 九死一生」

このラウンドでは、全45チームのうち9チームずつが5組に分かれて、ボードクイズと4択クイズに挑戦しました。このラウンドは、各問題に正解したチームが、その問題の不正解チーム数だけ得点を獲得するというルールでした。また、各チームは一度だけ回答時に「レバレッジ」を宣言することができ、「レバレッジ」を宣言したチームは、その問題で得られる得点が2倍になります。つまり、難問と思われる問題にレバレッジをかけることが、高得点への鍵を握るラウンドでした。

実際、あるチームがレバレッジを使い、ただ1チームだけ正解した場面では、その見事な判断力に会場が大いに沸きました。

このラウンドと第1ラウンド、さらに前日までに行われたラウンドの合計得点によって、第3ラウンドの組み合わせが決定されました。

☆合計得点上位校☆

1位：沼津東 2位：早大学院 3位：四天王寺 4位：芝 5位：旭川東 6位：岡山白陵



第3ラウンド 「クイズ! 時間衝撃」

このラウンドでは、全45チームがこれまでの合計得点をもとに順位付けされ、上位から順に15チームずつ3組に分かれて挑戦しました。各組ごとに勝ち抜けるチーム数が異なり、1組目からは6チーム、2組目からは3チーム、そして3組目からは1チームがそれぞれ準決勝へ進みます。各ペアは前後半に分かれ、一人ずつ12問の3択クイズに挑みます。問題は5秒間隔で出題され、全12問。矢継ぎ早に読み上げられる問題に対し、瞬時に正解だと思う札を挙げて解答しました。ペアの得点は2人の正解数のかけ算で決まり、両者の実力が問われる形式でした。出題も含めて5秒という厳しい時間制限の中、冷静に問題文を理解し答えを導く力が要求されるこのラウンドは、多くの出場者を苦しめました。そんな中でも見事12問正解パーフェクトを達成する高校生も現れ、明暗分かれるラウンドとなりました。

☆準決勝進出校☆

- 1組目→旭川東・岐阜・県立千葉・沼津東・横浜 SF・早稲田本庄
- 2組目→慶進・白鷗大足利・松江高専
- 3組目→富山高専





準決勝ラウンド 「クイズ！先見之明」

準決勝進出を決めた10チームによるこのラウンドは、一見シンプルとも思われるボードクイズに挑戦しました。しかし、最初は全ての問題文は表示されず、まずは冒頭の数字と問題の残り文字数だけが表示されます。そして、各チームは続きからあと何文字開示してほしいかボードで宣言します。希望した文字数の少ない上位2チームは、2番目に少ない文字数だけ開示された問題文を見て他チームに先んじて解答します。その後、問題文の全文が表示され、残りのチームも解答します。

先に解答した2チームは、解答時に隠されていた文字数分の得点を、正解ならプラス、不正解ならマイナスされます。その他のチームは、正解で10点、不正解でも得点は変動しません。10チームのうち3チームしか決勝に進むことのできないこのラウンドは、先に解答するリスクをどのタイミングで取るかという勝負勘と、少ない情報量から正答を導き出す思考力の両方が問われる、エコ甲史に残る名ルールでした。

最終問題では、勝負をかける旭川東高校と慶進高校がそれぞれ「0文字」「1文字」と宣言して場の注目を集めると、旭川東高校が1文字の追加から正解を導き出し逆転、決勝進出を果たしました。この逆転劇には場が一体ととなって盛り上がりました。

☆決勝進出校☆

旭川東・松江高専・沼津東



敗者復活ラウンド 「クイズ！右往左往」

恒例の敗者復活ラウンドは、決勝進出を逃した全42チームにより、決勝進出への最後の切符をかけて行われました。A・B・Cに三分された舞台上で三択クイズが出題され、2人の高校生と金融機関のご担当者様の計3人は、正解だと思ふ選択肢へと移動することで解答しました。高校生2人は二手に分かれて解答することも可能で、戦略が問われる形式でした。舞台には事前順位が下位のチームから入場し、不正解の選択肢を選んだ人は即脱落というサバイバル形式で行われましたが、中には舞台上の全チームが間違える場面もあり、予定された全10問を終える前の6問目で全チームが脱落。6問目開始時点で最も多くの人が残っていた駿台甲府高校が決勝進出を決めました。

☆敗者復活校☆

駿台甲府



決勝ラウンド 「クイズ！平衡感覚」

第19回大会の締めくくりを担ったこのラウンドは、4チームによる全10問のボードクイズが出題されました。壇上に用意された大型の天秤がこのラウンドの運命を左右しました。クイズに正解したチームは天秤に自チームのおもりを1つ吊るすことができ、得点はおもりの数、位置、天秤の傾く向きに影響されて決定されます。複数のエリアに区分された天秤の、上がっている方の腕にかけられたおもりは内側のエリアから7点・8点・10点・9点、下がっている方の腕にかけられているおもりは全て1点として計算されます。また、区切られた各エリア内で全てに自チームのおもりをかけて独占した場合、そのおもりの得点は全て2倍となります。さらに、4チーム中単独で正解した場合には、特別ルールとして任意の2つのおもりを交換することができます。正解することを前提として、おもりをどこに配置するかという戦略も同時に問われるラウンドでした。

旭川東高校がリードする展開が続きましたが、終盤、単独正解を決めた駿台甲府高校が、おもりの位置を入れ替えて相手の独占状態を崩すことに成功し、第4回大会以来15年ぶりとなる敗者復活からの優勝を果たしました。

《最終成績》

優勝：山梨代表 駿台甲府高等学校

準優勝：北海道代表 北海道旭川東高等学校

第3位：静岡代表 静岡県立沼津東高等学校

第4位：島根代表 松江工業高等専門学校





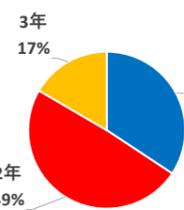
参加者アンケート

各地方大会に参加した高校生に大会参加後アンケートに回答してもらいました

オフショット

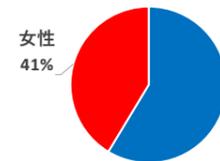


Q1 学年を教えてください



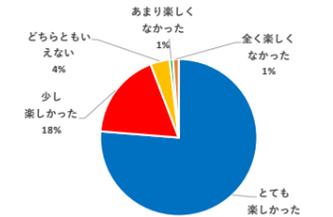
2年生が全体の半分を占める一方、3年生で出場する高校生も17%程度いました。

Q2 性別を教えてください



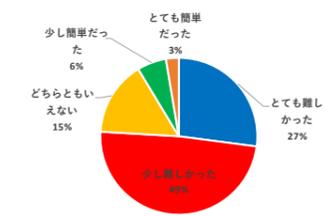
男女の参加者数に大きな隔たりは無いようです。

Q3 大会に参加して楽しかったですか？



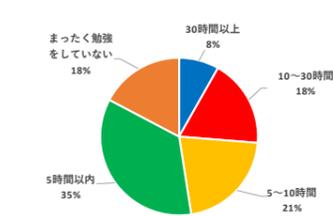
9割以上の参加者が「とても楽しかった」または「少し楽しかった」と回答してくれました。

Q4 問題のレベルはどう感じましたか？



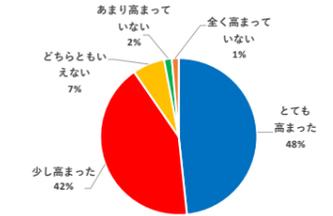
多くの学生が難しいと感じたようです。

Q5 大会に備えてどれぐらい勉強、対策しましたか？



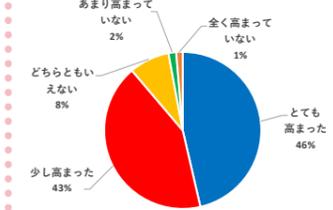
約半数の人が5時間以上勉強したようです。中には30時間以上勉強した人もいました。

Q6 エコ甲に参加して「投資」への理解は高まりましたか？



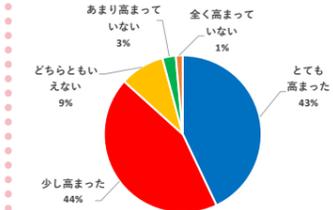
9割以上の参加者が高まったと感じたようです。

Q7 エコ甲に参加して「保険」への理解は高まりましたか？



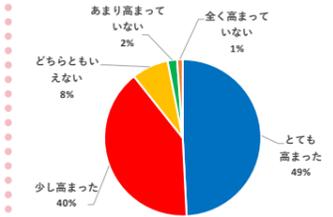
約9割の参加者が高まったと感じたようです。

Q8 エコ甲に参加して「年金」への理解は高まりましたか？



約9割の参加者が高まったと感じたようです。

Q9 エコ甲に参加して「税金」への理解は高まりましたか？



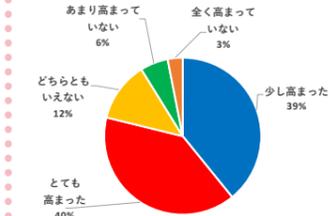
約9割の参加者が高まったと感じたようです。

Q10 エコ甲に参加して「iDeCo」への理解は高まりましたか？



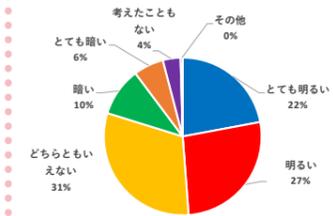
8割以上の参加者が高まったと感じたようです。

Q11 エコ甲に参加して「NISA」への理解は高まりましたか？



約8割の参加者が高まったと感じたようです。

Q12 自分の10年後は経済的に明るいと思いますか？



明るいと考えている人が約半数を占めています。



第19回大会優勝
駿台甲府高等学校
湊 叶多

機内食は想像以上に美味しく、半日にもなる長いフライトも想像より苦ではありませんでした。

到着時ニューヨークはお昼過ぎ。時差により出発時刻と到着時刻がほぼ同じなのは面白かったです。

さて、ここからは各訪問先について振り返ります。到着の翌日、最初の訪問先はニューヨークの日本総領事館です。そこでは、アメリカの貿易相手国の割合や、失業率等のデータを用いて、アメリカを含む世界の経済と、それに対する日本の対応についての説明を受けました。

トランプ大統領の就任や、その後の関税に関わる発表などについては様々なメディアで目にしますが、日本がアメリカの機関で何をしているかについては知る機会は少ないため、大変有意義でした。

続いて、金融の情報について取り扱う企業のブルームバーグを訪れました。日本人の中川さんが、社内にあるパントリーやオフィス、ブルームバーグの歴史などを案内してくださいました。

壁には透明なガラスが多く使われており、会議室の壁や研修に使う部屋もすべて外から見えるようになっていました。これは、情報を取り扱う企業として、「透明性」を重要とする社風によるものだそうです。ブルームバーグの訪問は、私の中にあるイメージを覆す、とても興味深いものでした。

次の日は、投資家で起業家の武神さんと昼食を取りました。貴重な話を聞かせていただいたり、私たちにに対するアドバイスをさせていただいたりなど、なかなかできない貴重な体験になったと思います。

続いて訪れた投資会社のラッセル・インベストメントでは、今回の訪問先で唯一日本人の方がいませんでした。そのため、全てのやり取りを英語で行う必要がありました。相方の村松くんは英語がものすごく得意だったので何とかりましたが、私だけではほとんど

理解ができず、私自身の英語力のなさを痛感しました。

とは言え、話の内容はとてつもないもので、このような経験も決して悪くないと思いました。

そして最後に、場所を移してカナダのトロントにあるマニライフ生命本社を訪問しました。カナダにおける最大の生命保険会社であるマニライフの歴史や、社会貢献活動として行っている原住民についての話を聴きました。さらに、本社を出てトロント市街にある歴史的な旧市庁舎や市場などを案内してくださいました。

トロント訪問はニューヨーク研修旅行で初めてのことで、とても貴重で楽しい経験となりました。

ニューヨークで観光もすることができました。MoMAとグッゲンハイム美術館を訪れ、貴重な現代芸術作品を見ることができました。さらに、ウォール街やタイムズ・スクエア、自由の女神像といった有名な観光スポットも回ることができました。

今回の旅行を通して感じたことは、日本との違いです。言語はもちろん、交通ルールも違いますし、街の雰囲気や匂いも違いました。でも、その中でも経済は世界で共通しているものですし、英語の中にもエコ甲で学んだ経済用語がありました。

この経験を私は忘れることがないでしょうし、進学して、働くという、これからの人生の中で必ず役に立つと確信しています。

最後に、このような素晴らしい機会を提供して下さった金融知力普及協会や、訪問先の皆様に心より感謝を申し上げます。ありがとうございました！



第19回大会優勝
駿台甲府高等学校
村松 佑真

この度のニューヨーク、トロントへの研修旅行において、僕は数えきれないほど多くのことを学ぶことができました。また、国際交流の少ない日本で生活していると気づくことができない多くの視点に気づかせてくれる旅となりました。そのすべてをここに書き尽くすことはできませんが、特に印象に残ったことを書き起こしていこうと思います。

日本と海外との違いとして誰もが感じることを一番最初に書いてしまうのは少し抵抗を覚えますが、やはり僕がニューヨークで最も印象に残っているのは現地の人々の外向性です。外向性と言うと少々広い意味になってしまいますが、現地の人々の積極性が行動や言動の端々に現れていたように感じます。例を挙げると、車の車線変更の強引さやわからないことを通行人にきいてまわる、など日本では馴染みのないことが日常的に行われていることが印象に残りました。企業見学で訪れたブルームバーグの中川さんがおっしゃっていた言葉で、自己主張しなければ周囲からの評価は得られないという考え方は非常に説得力を持って伝わってきました。また、昼食をご馳走して下さったヘッジファンドの武神さんも、自分から周りにアプローチしてコミュニケーションを図らなければ評価を得られないということをおっしゃっており、日本に帰ったあとも意識してアグレッシブに周囲の人と交流を持ちたいと強く思います。

次に語学についてです。僕は日本にいる間英語学習に力を入れていたつもりでしたが、実際に現地でも母国語として英語を話す人々と話してみることによって勉強不足を痛感しました。現地の人々の英語は所々落とされている発音もあり、発話することより聞き取ることに苦労しました。滞在3日目に訪問したラッセルインベストメントでは日本人の方がおらず完全に英語でのお話となりましたが、経済用語が混ざった英語は聞き取る

ことが存外に難しく、貴重な機会を生かしきれなかったことが悔いに残る思いです。しかし、ラッセルインベストメントではオフィスの中をデスクの間まで詳しくご案内いただき、実際に働いている様子をしっかりと見学することができました。また、トロントのマニライフ生命への訪問では浅見さんに通訳をしていただき、マニライフ生命の歴史からカナダの歴史まで、英語の聞き取りに苦労することなく学ぶことができました。総じて、現地に住む日本人の方々は語学が堪能で、英語学習の必要性を再確認することができました。今後は日本の受験英語の勉強だけでなく、話すこと、聞くことに主眼を置いて学習を進めたいと考えています。

最後に、この度の研修旅行を引率して下さった水谷さんと亀山さん、そして訪問先である外務省、ブルームバーグ、投資家であり起業家の武神さん、ラッセルインベスト、マニライフ生命の方々に感謝を伝えたいです。相方によってつかみとることができたこの研修旅行で学んだことはこれからの人生に大いに生かしていくつもりです。





Wall StreetのCharging Bullと一緒に



武神さんとのランチ@ハーバードクラブ



在ニューヨーク日本国総領事館経済部



Bloomberg



MoMAにて



ヤンキースタジアムにて



Russell Investments



Manulife



トロントにて



エコノミクス甲子園では、協会で作成したテキストに加えて、各企業・団体様から寄贈していただいたテキストを、事前学習教材として無料で参加生徒に送付しております。事前学習教材の内容からクイズが多数出題されるので、生徒達も大会前にしっかりと勉強してくれており、単純にテキストを配布するよりも高い学習効果を上げています。(順不同) (出典は当時)

 <p>■ 今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎 (作成：金融知力普及協会)</p>	 <p>■ もっと知りたい税のこと (令和6年度版) (作成・寄贈：財務省) 財務省 Web サイト https://www.mof.go.jp/</p>
 <p>■ 今日から始められるかんたん不動産投資 初めてのJリート (作成・寄贈：不動産証券化協会) 不動産証券化協会 Web サイト https://www.ares.or.jp/</p>	 <p>■ 基礎から学べる金融ガイド (作成・寄贈：金融庁) 金融庁 Web サイト https://www.fsa.go.jp/</p>
 <p>■ マナブとメグミのお金のキホン BOOK (作成・寄贈：(旧)全国銀行協会) 全国銀行協会 Web サイト https://www.zenginkyo.or.jp/</p>	 <p>■ 10代から学ぶパーソナルファイナンス (作成・寄贈：日本ファイナンシャル・プランナーズ協会) 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 Web サイト https://www.jafp.or.jp/</p>
 <p>■ 明るい未来へ TRY! ～リスクと備え～ (作成・寄贈：日本損害保険協会) 日本損害保険協会 Web サイト http://www.sonpo.or.jp/</p>	 <p>■ 進学にかかるお金と奨学金の話 (作成・寄贈：日本ファイナンシャル・プランナーズ協会) 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 Web サイト https://www.jafp.or.jp/</p>
 <p>■ これであなたもひとり立ち (作成・寄贈：金融経済教育推進機構 (J-FLEC)) 金融広報中央委員会 Web サイト https://www.shiruporuto.jp/public/</p>	 <p>■ わかりやすい投資信託ガイド (作成・寄贈：投資信託協会) 投資信託協会 Web サイト https://www.toushin.or.jp/</p>
 <p>■ 大学生のための人生とお金の知恵 (作成・寄贈：金融経済教育推進機構 (J-FLEC)) 金融広報中央委員会 Web サイト https://www.shiruporuto.jp/public/</p>	 <p>■ わかりやすいリートガイド (作成・寄贈：投資信託協会) 投資信託協会 Web サイト https://www.toushin.or.jp/</p>
 <p>■ 18歳までに学ぶ 契約の知恵 (作成・寄贈：金融経済教育推進機構 (J-FLEC)) 金融広報中央委員会 Web サイト https://www.shiruporuto.jp/public/</p>	 <p>■ 前払式支払手段 知っておきたい法律のはなし (作成・寄贈：日本資金決済業協会) 日本資金決済業協会 Web サイト https://www.s-kessai.jp/</p>



 <p>■ 株式会社制度と証券市場のしくみ (作成・寄贈：(旧)日本証券業協会) 日本証券業協会 Web サイト http://www.jsda.or.jp/</p>	 <p>■ ほけんのキホン (作成・寄贈：生命保険文化センター) 生命保険文化センター Web サイト https://www.jili.or.jp/</p>
 <p>■ 持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則 (作成・寄贈：環境省) 環境省 Web サイト https://www.env.go.jp/</p>	 <p>■ 少額短期保険ガイドブック 2024 (作成・寄贈：日本少額短期保険協会) 日本少額短期保険協会 Web サイト https://www.shougakutanki.jp</p>
 <p>■ 社会への扉 (作成・寄贈：消費者庁) 消費者庁 Web サイト https://www.caa.go.jp</p>	 <p>■ 飛び立て！未来 FP 技能士 (作成・寄贈：金融財政事情研究会) 金融財政事情研究会 Web サイト https://www.kinzai.or.jp/</p>
 <p>■ 暗号通貨やブロックチェーンの基礎を学べる漫画 (作成・寄贈：日本クリプトコイン協会) 日本クリプトコイン協会 Web サイト https://japancryptocoin.org/</p>	 <p>■ これからの日本のために財政を考える (作成・寄贈：財務省) 財務省 Web サイト https://www.mof.go.jp/</p>
 <p>■ はじめの一步 テクニカル分析ハンドブック (基礎編) (作成・寄贈：日本テクニカルアナリスト協会) 日本テクニカルアナリスト協会 Web サイト https://www.ntaa.or.jp/</p>	 <p>■ はじめの一步 テクニカル分析ハンドブック 4 (用語集) (作成・寄贈：日本テクニカルアナリスト協会) 日本テクニカルアナリスト協会 Web サイト https://www.ntaa.or.jp/</p>
 <p>■ 資産形成と金融商品 (作成：(旧)日本証券業協会) 日本証券業協会 Web サイト http://www.jsda.or.jp/</p>	 <p>■ 新しいNISA ではじめるJリート (作成・寄贈：不動産証券化協会) 不動産証券化協会 Web サイト https://www.ares.or.jp/</p>
 <p>■ キャッシュレスまるわかりテキスト (作成・寄贈：ビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社 (VISA)) VISA Web サイト https://www.visa.co.jp/</p>	



■地方大会

大会名	新聞	TV	その他メディア
北海道	ニッキン		
青森	東奥日報		
秋田	秋田魁新報		
山形	ニッキン 山形新聞	山形テレビ	
福島	福島民報社 福島民友新聞		
茨城	茨城新聞 NEWS つくば	つくばケーブル テレビ	シード・プラン ニング
栃木		とちぎテレビ	宇都宮経済新聞 (WEB)
埼玉	埼玉新聞		
千葉	千葉日報	千葉テレビ	
東京			マイナビ
富山	北日本新聞 富山新聞		
石川	北國新聞	テレビ金沢	
福井	福井新聞	福井放送	
山梨		UTY	
岐阜	岐阜新聞	ぎふちゃん テレビ愛知	
静岡		静岡朝日テレビ	
愛知	中部経済新聞 中日新聞	テレビ愛知	
三重	伊勢新聞 読売新聞	三重テレビ放送	
鳥取	日本海新聞		
広島		テレビ新広島	経済レポート 春秋社
山口	山口新聞		
香川	四国新聞		
愛媛		愛媛 CATV	
宮崎	宮崎日日新聞		
沖縄	琉球新報	QAB	
愛媛	愛媛新聞	愛媛 CATV	
福岡	毎日新聞		
長崎	日本経済新聞		
大分	Yahoo! ニュー ス TBS ニュース	大分放送	
宮崎	宮崎日日新聞		
沖縄		沖縄テレビ 琉球朝日放送	

■全国大会

新聞	ニッキン
新聞	北日本新聞
新聞	徳島新聞
Web	dメニュー
Web	BIGLOBE
Web	産経ニュース
Web	iza(イザ) 総合ニュースサイト
Web	デイリーニュースオンライン
Web	tokyo chips
Web	ガジェット通信
Web	シンニチ保険 web
Web	マネクリ
Web	goo ニュース



エコノミクス甲子園は、高校生の金融経済リテラシーを高めるという理念にご賛同いただいた、各社様のご支援により成り立っています。
感謝の思いを込め、ここにご協賛をいただいた企業をご紹介します。

プラチナスポンサー



Manulife
マニユライフ生命

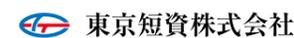
ゴールドスポンサー



Wiennomori Corporation



ブロンズスポンサー





Special Thanks

後援・協賛・協力の各社様はじめ、お力をお貸しいただいた皆様（肩書は当時）

マニユライフ生命保険株式会社
取締役代表執行役社長 兼 CEO
ブノウ・メスレ 様



東京短資株式会社 取締役 兼
東短リサーチ株式会社
代表取締役社長
加藤 出 様



株式会社グッドバンカー
代表取締役社長
筑紫 みずえ 様



KNT-CT ホールディングス株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ部
風間 梨名 様



認定 NPO 法人
金融知力普及協会 理事長
金子 昌 資



マニユライフ生命保険株式会社
専務執行役員 CDO
外池 宏之 様



ラッセル・インベストメント株式会社
運用部ディレクター
シニア ポートフォリオマネージャー
箱崎 真紀子 様



元ニッキン
取締役 取材局 副局長
吉田 憲三 様



株式会社 URPlan
代表取締役
辻 隆 征 様



株式会社ウィーン
代表取締役
金田 明 様



近畿日本ツーリスト株式会社
代表取締役社長
瓜生 修一 様



マニユライフ生命保険株式会社
営業戦略本部 営業企画管理部 部長
松井 孝将 様



財務省
主税局総務課兼調査課 企画官
境 吉 隆 様



ビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社
コンシューマーソリューションズ
ディレクター
松本 直久 様



TAC 株式会社
ファイナンス講座企画部
副部長
孫 入 潔 様



マニユライフ生命保険株式会社
営業戦略本部 営業戦略部長
Lu Li 様



三井住友 DS アセットマネジメント株式会社
サステナビリティ推進室長
井上 武 様



金融知力普及協会をお支えいただいている各社

- SMBC 日興証券株式会社 サンメッセ株式会社
公益社団法人日本証券アナリスト協会
特定非営利活動法人日本テクニカルアナリスト協会
日本証券業協会 マニユライフ生命保険株式会社
三井住友 DS アセットマネジメント株式会社 三井不動産株式会社

問題監修

荻野 昭一 先生（北海道大学 名誉教授）

金融知力普及協会 ボランティアスタッフ

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|------|-------|
| 有水大世 | 佐藤大起 | 今泉開 | 大久保響 | 奥田剛崇 | 北島拓哉 |
| 伊佐和花 | 椎葉敦士 | 大熊琉介 | 齊藤彩波 | 尾崎巧基 | 下條航大 |
| 伊藤よつば | 篠永恭子 | 大房慧士 | 下窪元貴 | 川本青汰 | 杉原諒 |
| 稲葉琉晟 | 西山玲音 | 岡本孟士 | 中村胡々乃 | 國崎優佑 | 田島祐也 |
| 今井絵梨 | 野依桂 | 柏谷脩太 | 中村悠実 | 後藤篤了 | 谷尚俊 |
| 上野翔平 | 長谷川舞 | 兼武航太郎 | 花岡愛梨 | 後藤一矢 | 坪田実那美 |
| 江崎光賀 | 原口蒔臣 | 栗栖知史 | 舟山祥太 | 佐藤俊亮 | 縄田寛希 |
| 笠原綺乃 | 藤原光翼 | 向阪茅優 | 森田昌未 | 嶋村悠 | 濱元貴大 |
| 熊谷光哉 | 松永凜々子 | 腰塚茉莉子 | 矢追悠良 | 城正人 | 松田直晃 |
| 栗田夏帆 | 松本居凄 | 小谷祐太 | 安居憲次郎 | 白戸玲寿 | 村上将紀 |
| 黒岩春人 | 森川文博 | 鈴木望 | 矢持李璃花 | 菅原充希 | 山口朔矢 |
| 黒崎心宝 | 森本昂太 | 中西康太郎 | 横田茉穂 | 関優介 | 脇田直樹 |
| 古吟明人夢 | 矢吹優芽 | 宮崎飛羽 | 安陪玲音 | 田村元希 | |
| 兒玉悠仁 | 横山環子 | 山本丈太郎 | 磯部元政 | 濱田美和 | |
| 後藤綾花 | 安里晃生 | 伊佐知駿 | 井上博裕 | 山本桐也 | |
| 小松風雅 | 市川未来 | 大久保杏咲 | 岡しづか | 井関友洋 | |

アドバイザー

ユークレイル・エイト 藤田 雄亮 様

司会

檜垣 紀子 様



第19回大会
スタッフリーダー
柏谷 脩太

第19回エコノミクス甲子園にて、学生スタッフリーダーを務めました柏谷脩太です。この大会は、単に勝敗や結果を競う場ではありません。大会に向けて努力を重ねた時間、仲間と分かち合った瞬間、そしてクイズに真剣に向き合った経験そのものが、参加した高校生の皆さんの未来を支える力になると信じて準備に取り組んできました。学びが「楽しい」へと変わる瞬間こそがこの大会の最大の価値だと私は考えています。金融知力は目には見えませんが、確かに人生を支える力となります。将来の選択肢を広げ、自らの生活を自らの手で守るための、揺るぎない土台になるでしょう。クイズという形式を通して金融を学ぶエコノミクス甲子園は、金融をより身近に感じ、深く理解するきっかけとして、計り知れない可能性を秘めています。そして本大会は今、国際経済オリンピックという新たなステージにもつながり、次なる第20回大会に向けて歩みを進めています。より多くの人に届き、より豊かで深い学びを提供できる場へと進化していくことをどうぞご期待ください。最後に、本大会の開催にあたり、多大なるご支援とご協力を賜りましたすべての皆様、そして全国からご参加いただいた高校生の皆さんに、心より感謝申し上げます。このエコノミクス甲子園での体験が将来ふと振り返ったとき、大きな意味を持つものとなることを願っています。



第19回大会
サブリーダー
中西 康太郎

第19回エコノミクス甲子園でサブリーダーを務めさせていただきました、中西康太郎と申します。まず初めに、本大会の開催にあたりご支援・ご協力を賜りました皆様、そして参加して下さった高校生の皆さんに心より御礼申し上げます。サブリーダーとして過ごしたこの1年間は、私にとって挑戦の連続でした。決して派手なことを成し遂げたわけではありませんが、日々の運営準備から大会当日のサポートを通じて、高校生たちの挑戦に寄り添い、少しでも彼らの後押しができたのであれば幸いです。私自身、高校時代にこの大会に参加し、そこで得た経験が今につながっています。だからこそ、今度は運営側として「誰かの記憶に残る場」を生み出すことに意味を感じてきました。実際に、会場でクイズに向き合う高校生たちのまなざしや表情を見るたび、この大会が単なる競技を超えた場であることを実感しました。高校生の挑戦を支えるという、サブリーダーとしての目標はひとまず果たせたと思っています。しかし、次の節目、第20回大会がすぐそこに控えています。節目の年にふさわしいものとなるよう、より多くの人に届き、深く記憶に残る大会を作ることを誓います。引き続き、エコノミクス甲子園をどうぞよろしくお願いたします。第20回にご期待ください。



第19回大会
サブリーダー
小谷 裕太

第19回エコノミクス甲子園の開催にあたりサブリーダーを務めました、小谷裕太と申します。19回大会を経て、ここで生まれる人の繋がりに何よりも価値があると感じています。私自身が参加した15回大会から変わらず、それぞれの地元や全国で高校生の出会いがあります。新潟大会を見学した際は、初対面の高校生たちが舞台上で響き合う姿を間近で見ました。エコノミクス甲子園の参加者には、全国優勝を目指す人もいれば、友人と共に初めてのクイズに興じる人もいます。一人一人が大会の体験を胸にして、全国という規模でローカルが隣り合って交差していく、その縁はかけがえのないものです。本大会のクイズは限られたジャンルとリソースから問題が構成されることから、多くの参加者に大舞台のチャンスがあります。そんな開かれた舞台がまた次の繋がりを生んでいく。姉妹大会・リアビズと並び、いまやその先は国際経済オリンピックへと続きます。金融経済のことの多くは報道を通じて私のもとにやってきて、あたかも他人事かのように振る舞います。しかし、大会で生まれた縁を通じて、語らう友を介して、金融経済が私の生活に取り込まれていくのです。エコノミクス甲子園は多くの方のご理解とご協力のもとに成り立っておりますが、その感謝とともに、底を流れるご縁への情を添えて挨拶とさせていただきます。



第20回大会
スタッフリーダー
有水 大世

第20回エコノミクス甲子園学生スタッフリーダーを務めます、有水大世と申します。思い返せば第17回大会、優勝する気満々で東京に足を踏み入れた私は、いきなりの筆記試験やグループディスカッションに始まり、様々なクイズを楽しみつつもあえなく準決勝敗退一かと思いきや敗者復活戦の最後の一枚の切符をこの手でつかみ取り、やっとの思いで乗り込んだ決勝では崩れ落ちる金塊の前に準優勝の結果に終わるといふ、ある意味でエコ甲を一番味わい尽くした高校生だったように感じます。あの日経験した出来事は、17歳の私の記憶に鮮明に刻まれています。金融・経済という、高校生ではあまり触れることのない分野に、クイズ大会というドラマを以て切り込むこの大会は、他にない大きな意義を持っていると確信しています。近年では「知識を覚えるだけ」のクイズに疑義が呈される場面も多いですが、調べればわかる知識でも、知らなければ調べようともしないでしょう。大会のために勉強して身につけた「金融知力」は、一つのアンテナとなって、その後の人生を彩ってくれるはずで。近年では国際経済オリンピックという新たな道も加わりました。エコ甲を通して得た知識と発想力を武器に、日本代表として世界中の高校生と交流ししのぎを削る舞台が用意されたことで、この大会の持つ意味もより広がったように感じます。様々な背景を持った全国の高校生たちが交わり合うこの大会は、それぞれに新たな景色を見せてくれることでしょう。節目となる第20回大会。新たなドラマを織りなすため、私たちスタッフ一同全力を尽くしてまいります。その舞台に皆さんが立つ日を心待ちにしています。



第20回大会
サブリーダー
黒崎 心宝

第20回エコノミクス甲子園サブリーダーを務めます、黒崎心宝と申します。私は第17回エコノミクス甲子園全国大会に栃木代表として出場しました。経済のことをあまり知らなくても、無料で届く事前学習教材さえ勉強すれば全国大会に行ける素敵なクイズ大会に、心を弾ませながら応募したのを今でも覚えています。地方大会も全国大会も、私の期待を遥かに超える素晴らしいものでした。全国大会の3日間はあっという間で名残惜しくも感じていたとき、帰りのバスでリクルートのチラシを貰いました。「まだ終わりにゃない、むしろこれからが本当の始まりなんだ」と気付いて、スタッフとしてまたエコノミクス甲子園に関われるその日をずっと待ち望んでいました。大学生になり念願叶ってスタッフとして働いているなかで、最も強く感じているのは、「一人でも多くの高校生にエコノミクス甲子園を知らせて、友だちと参加してもらい、私が体験した感動を同じように経験してほしい」という思いです。相手と肩を寄せ合ってクイズの対策をした日々、全国の錚々たる面々と競い合った興奮、そして引率の金融機関の方から伺った貴重なお話など、この大会に出なければ知ることのなかった知識や感動、体験が確かにあります。エコノミクス甲子園という舞台上で生まれるドラマは、きっと参加者本人だけでなく、その姿を観る人々の胸にも深く刻まれ、感動の輪を広げるでしょう。本大会は記念すべき第20回を迎えます。この節目の回にサブリーダーとして深く携われることが大変嬉しく、誇らしいです。エコノミクス甲子園が高校生をはじめとする関係者の皆様にとって、かけがえのない経験となるよう、私たちスタッフ一同丸となって精一杯努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。



第20回大会
サブリーダー
椎葉 敦士

この度第20回エコノミクス甲子園のサブリーダーを務めることになりました、椎葉敦士です。私は第18回エコノミクス甲子園全国大会に大分県代表として、高校3年生で出場しました。第2ラウンドで敗退してしまったのですが、第18回大会はそれまで勉学や知的教養に全く興味のなかった私に大きな価値観の変化をもたらしてくれました。今大会では、サブリーダーとして多くの高校生にエコ甲でしかできない経験を届けたいと思います。第19回大会では山梨県大会代表の駿台甲府高校が敗者復活からの逆転優勝というドラマがありました。過去大会にはそれぞれドラマがあります。本来は高校生に金融知力を学んでもらうことに焦点を当てた大会ですが、私たち大学生スタッフにとっても有意義な体験になるので、大学生活の時間を今大会に費やすことをここに誓います。節目となる第20回大会を全国各地から参加してくれる高校生のために、そして今大会に関わる全ての方々に感謝を忘れず第20回大会が多くのの人に影響を与えられるものになるよう、スタッフ一同尽力させていただきます。

エコノミクス甲子園全国大会 都道府県別出場校一覧(第1回～第10回)

回数	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
開催年	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
北海道			旭川東	旭川東	札幌西	旭川東	旭川東	札幌旭丘	札幌南	札幌南
青森								青森	青森	青森
岩手				水沢	盛岡第三					
宮城				仙台第一	仙台第二	仙台第二	仙台第二	仙台第二	仙台二華	仙台二華
秋田			秋田商業	秋田商業	秋田中央	横手	秋田	秋田商業	秋田西	秋田
山形							山形東	山形南	山形東	山形東
福島		県立福島【東北】	県立福島【東京】			会津学鳳【関東】	県立福島	県立福島	福島高専	白河
茨城							竹園	土浦第一	水戸第一	土浦第一
栃木							宇都宮【ネット】	矢板東	宇都宮	宇都宮
群馬							富岡	前橋	高崎女子	前橋
埼玉			浦和	浦和	早稲田本庄	早稲田本庄	栄東	春日部	栄東	栄東
千葉	県立船橋【東京】			渋谷幕張	渋谷幕張	市川	渋谷幕張	県立千葉	渋谷幕張	柏
東京	開成	開成	開成	開成			立川	立川	渋谷	早稲田
神奈川			聖光学院	聖光学院	横須賀	逗子開成	聖光学院	聖光学院	横須賀	慶應義塾
新潟							国際情報	新潟明訓	新潟	
富山			片山学園	高岡商業	片山学園	高岡	高岡	高岡	高岡	高岡
石川		金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金沢泉丘	金大附属	金大附属
福井			高志	高志	福井高専	福井高専	藤島	藤島	藤島	高志
山梨					甲府南【関東】	甲府南	甲府南	甲府南	甲府南	甲府南
長野							長野	諏訪清陵	松本深志	
岐阜					岐阜	岐阜	岐阜	岐阜東	岐阜	岐阜
静岡						島田商業	三島	浜松西	静岡雙葉	静岡
愛知	南山女子【大阪】	滝	名大附属	名大附属	名大附属	旭丘	東海	東海	滝	滝
三重						津	三重	川越	川越	宇治山田商業
滋賀										水口東

【 】内は所在地以外の県で実施された予選(第1回)・地方大会名。第2回のラ・サールは2チーム出場

エコノミクス甲子園全国大会 都道府県別出場校一覧(第11回～第19回)

回数	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回	
開催年	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	
北海道	札幌南	札幌南	札幌南	北見北斗	札幌南	旭川東	札幌開成	札幌南	旭川東	3年ぶり6回目
青森	弘前	青森	弘前	弘前	青森	青森	青森	青森	青森	5年連続9回目
岩手	盛岡中央	盛岡第三	一関第一	岩泉						
宮城	仙台第一	古川黎明	仙台第二	聖ウルスラ		仙台二華【ネット】	仙台二華	仙台二華	仙台二華	6年ぶり6回目
秋田	秋田	由利	秋田商業	秋田	秋田	秋田	秋田	秋田	秋田南	初出場
山形	鶴岡南	山形南	山形南	寒河江			山形東	山形東	山形東	3年連続6回目
福島	県立福島	県立福島	県立福島	県立福島		白河	県立福島	県立福島	福島工業	10年ぶり2回目
茨城	並木中等	土浦第一	並木中等 竹園【ネット】	江戸川取手	並木中等	並木中等	並木中等	並木中等	日立第一	初出場
栃木	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	栃木	矢板東	白鷺大足利	白鷺大足利	2年連続2回目
群馬	ぐんま国際 アカデミー	四ツ葉学園	中央中等	中央中等	中央中等	中央中等	中央中等	中央中等	高崎	前橋
埼玉	浦和	栄東	県立川越	栄東	栄東	栄東	栄東	栄東	早稲田本庄	13年ぶり3回目
千葉	東葛飾	渋谷幕張	渋谷幕張	渋谷幕張	県立千葉	市川	昭和秀英	県立千葉	県立千葉	2年連続4回目
東京	お茶の水 女子大附属	早稲田	早稲田	都立武蔵	開成【ネット】		筑波大駒場	筑波大駒場	早大学院 芝【ネット】	初出場 初出場
神奈川	聖光学院	栄光学園	湘南	慶應SFC	浅野	洗足	慶應義塾	横浜SF	横浜SF	2年連続2回目
新潟	新潟	新潟明訓	新潟	新潟	新潟	新潟	新潟	新潟	新潟	初出場
富山	富山	富山	富山中部	富山	富山	高岡	高岡	富山中部	富山高専	初出場
石川	金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金沢大附	金沢大附	金沢泉丘	11年ぶり2回目
福井	羽水	藤島	藤島	高志	高志	藤島	藤島	藤島	藤島	4年連続9回目
山梨	甲陵	甲府南	甲府南	甲府南	駿台甲府	駿台甲府	駿台甲府	駿台甲府	駿台甲府	5年連続5回目
長野	松本深志	松本深志	松本深志	上田	松本秀峰	松本深志	松本深志	松本深志	松本深志	初出場
岐阜	岐阜	岐阜	岐阜	岐阜	岐阜	恵那	鷺谷	岐阜	岐阜	2年連続12回目
静岡	知徳*	知徳*	御殿場南	浜松学芸	浜松学芸	浜松学芸	沼津東	浜松学芸	沼津東	2年ぶり2回目
愛知	滝	東海	旭丘	東海	東海	名大附属	岡崎	岡崎	江南	初出場
三重	四日市商業	伊勢	桜丘	暁	暁	高田	高田	暁	四日市	初出場
滋賀	膳所	県立守山	水口東	県立守山			県立守山	県立守山	県立守山	3年連続5回目

*静岡「知徳」は前校名「三島」

エコノミクス甲子園全国大会 都道府県別出場校一覧(第1回～第10回)

回数	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
開催年	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
京都									洛北【ネット】	
大阪	星光学院						清風南海	星光学院	開明	金蘭千里 星光学院 【10回記念】
兵庫		灘【関西】		灘【関西】	灘【関西】	灘【関西】		関西学院【ネット】		灘
奈良			東大寺【大阪】	東大寺	奈良学園	東大寺	智辯奈良C	智辯奈良C	智辯奈良C	東大寺
和歌山										
鳥取								鳥取西	鳥取西	湯梨浜
島根							松江北	浜田	松江商業	隠岐
岡山		岡山白陵	岡山朝日	岡山朝日	岡山白陵		岡山城東	岡山白陵	倉敷精思	倉敷精思
広島						広大福山【中国】	修道	広島学院	修道	広島学院 近大東広島【ネット】
山口							宇部	宇部	宇部	下関西
徳島					城東	城ノ内	城ノ内	徳島市立	徳島市立	城東
香川		観音寺第一	高松	観音寺第一	高松	高松	高松	高松	高松	高松
愛媛			愛光	愛光	松山東	松山西	松山西	松山西	松山西	愛光
高知								高知学芸	高知小津	土佐
福岡			西南学院				修猷館	修猷館	筑紫丘	大牟田
佐賀				致遠館【九州】	致遠館【九州】					致遠館
長崎					長崎北	長崎南山	長崎商業	佐世保北	精道三川台	精道三川台
熊本						熊本【九州】				
大分										
宮崎							宮崎西	宮崎第一	宮崎西	宮崎第一
鹿児島	ラ・サール【福岡】	ラ・サール【九州・熊本】		ラ・サール	ラ・サール 鶴丸【敗者復活】	ラ・サール	ラ・サール	鶴丸	鶴丸	国分中央
沖縄		昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	那覇国際	那覇国際	昭和薬科	昭和薬科
海外										
出場校数	5	10	16	20	24	25	34	40	40	44

【 】内は所在地以外の県で実施された予選(第1回)・地方大会名。第2回のラ・サールは2チーム出場

エコノミクス甲子園全国大会 都道府県別出場校一覧(第11回～第19回)

回数	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回	
開催年	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	
京都	洛北	洛南	洛北	洛北	洛北【ネット】	洛南	洛北	洛南	京都すばる	初出場
大阪	星光学院	星光学院	星光学院	北野			星光学院	大手前	四天王寺	初出場
兵庫	灘 甲陽学院【ネット】	神戸女学院	灘	神戸女学院		灘【ネット】	灘 北摂三田【ネット】	灘	灘	4年連続11回目
奈良	東大寺	東大寺	東大寺	青翔		東大寺	西大和	西大和	東大寺	3年ぶり9回目
和歌山		智辯和歌山	智辯和歌山	近大和歌山			智辯和歌山	智辯和歌山	智辯和歌山	3年連続5回目
鳥取	青翔開智	湯梨浜	青翔開智	鳥取西			米子東	鳥取西	米子東	2年ぶり2回目
島根	情報科学	松江商業 横田【ネット】	松江高専	松江高専			矢上	松江北	松江工業	5年ぶり3回目
岡山	倉敷天城	倉敷精思	倉敷天城	倉敷天城	岡山白陵	岡山白陵	岡山南	岡山白陵	岡山白陵	2年連続7回目
広島	広大福山	安田女子	広島学院	広島学院	広島	広島	広島	修道	修道	2年連続4回目
山口	下関西	大島商船	山口	宇部高専	山口	慶進	岩国	慶進	慶進	2年連続3回目
徳島	徳島市立	徳島市立	城東	城東	城東	城東	徳島中央	富岡東	城東	3年ぶり7回目
香川	観音寺第一	高松	高松	高松	丸亀	高松西	高松西	高松	高松	2年連続12回目
愛媛	愛光	今治西	松山東雲	今治西	松山東	松山西	新居浜高専	愛媛大附	愛光	8年ぶり5回目
高知	高知学芸	高知学芸	土佐塾	土佐						
福岡	修猷館	福工大城東	福岡	久留米大附	宗像	小倉商業	東筑	東筑	東筑	3年連続3回目
佐賀	致遠館	弘学館	弘学館	早稲田佐賀	佐賀西	弘学館	鳥栖	弘学館	弘学館	2年連続5回目
長崎	長崎西	長崎西	精道三川台	青雲			対馬	佐世保北	長崎東	初出場
熊本	八代									
大分	安心院					大分東明【ネット】	上野丘	中津南	上野丘	2年ぶり2回目
宮崎	宮崎第一	宮崎大宮	宮崎第一	日向学院	宮崎西	宮崎西	宮崎第一	宮崎第一	鵬翔	初出場
鹿児島	鶴丸	ラ・サール	ラ・サール	ラ・サール	ラ・サール	ラ・サール	ラ・サール	ラ・サール【ネット】		
沖縄	昭和薬科	球陽	昭和薬科	昭和薬科 N高【ネット】	昭和薬科	沖縄尚学	開邦	昭和薬科	昭和薬科	2年連続13回目
海外	甘泉【中国】	台湾師大附【台湾】							明道【台湾】	初出場
出場校数	48	47	46	46	32	36	45	44	45	

エコノミクス甲子園 過去開催実績

開催回数	地方大会開催年	全国大会開催日	参加校数	参加チーム数	優勝校
第1回	2006	2007年2月18日	25	33	ラ・サール高等学校
第2回	2007	2008年1月13日	90	237	開成高等学校
第3回	2008	2009年1月25日	154	425	東大寺学園高等学校
第4回	2009	2010年1月10日	201	535	ラ・サール高等学校
第5回	2010	2011年2月12日	237	600	灘高等学校
第6回	2011	2012年1月22日	244	647	東大寺学園高等学校
第7回	2012	2013年2月17日	335	860	東海高等学校
第8回	2013	2014年2月2日	378	1,023	千葉県立千葉高等学校
第9回	2014	2015年2月15日	401	1,134	宮崎県立宮崎西高等学校
第10回	2015	2016年2月28日	410	1,121	新潟県立新潟高等学校
第11回	2016	2017年2月5日	448	1,171	金沢大学人間社会学域学校 教育学類附属高等学校
第12回	2017	2018年2月18日	517	1,297	長崎県立長崎西高等学校
第13回	2018	2019年2月17日	473	1,250	福井県立藤島高等学校
第14回	2019	2020年2月9日	479	1,207	大阪府立北野高等学校
第15回	2020	2021年2月14日	388	880	千葉県立千葉高等学校
第16回	2021	2022年2月27日	316	686	栄東高等学校
第17回	2022	2023年2月26日	354	805	市立札幌開成中等教育学校
第18回	2023	2024年2月25日	366	787	長崎県立佐世保北高等学校
第19回	2024	2025年2月23日	314	732	駿台甲府高等学校

■第1回



■第2回



■第3回



■第4回



■第5回



■第6回



■第7回



■第8回



■第9回



■第10回





第 11 回



第 12 回



第 13 回



第 14 回



第 15 回



第 16 回



第 17 回



第 18 回



第 19 回



第 20 回

Coming Soon...